女川町文化財調査報告書第 10 集

女川町東日本大震災復興事業関連遺跡発掘調査報告書

— 平成 26 ～ 30 年度発掘調査 —

令和２年 10 月
宮城県女川町教育委員会

女川町東日本大震災復興事業関連遺跡発掘調査報告書

―　平成 26 ～ 30 年度発掘調査　―

令和２年 10 月

宮城県女川町教育委員会

序　文

山紫水明の女川町で，私たちは遙か昔から自然の恩光のもと生業を営んでいました。東日本大震災は多大な人命の犠牲とともに生業の多くを奪い去る出来事であり，その自然が一方で脅威であることを否応なく自覚させられました。

現在，町では先の大震災からの復興に向けて取り組んでいるところであります。復興後の女川町が雄大な自然の中にあって，町民の生命と生業をも守る町となることを目指しています。

本書は，東日本大震災の復興に伴って実施した発掘調査についてまとめたものです。復興という新たなまちづくりに先立った遺跡の発掘調査によって，町の歴史の一端が解明されました。女川町には，天然記念物や遺跡など多くの文化財があります。これらは豊かな自然を象徴するとともに，それと共生してきた祖先の歴史の証明でもあります。文化財は常に亡失の危機に直面しているものですが，多くの町民・復興関係の方々の理解によって，復興の途上にあって保護が図られたのみでなく，自然と共生してきた祖先の歴史について新たな知見を得ることとなりました。今後，本書が復興する女川町にあって，歴史文化継承の一助となれば幸いです。

最後になりましたが，発掘調査から本書の刊行に至るまで，御理解と御協力いただいた関係機関，ならびに地域の皆様に対して，厚くお礼申し上げる次第であります。

令和２年 10 月

女川町教育委員会

教育長　村上　善司

例　言

1．本書は平成 23 年（2011）3 月 11 日に発生した東日本大震災の復興事業に係わる発掘調査のうち，平成 26 年度から平成 30 年度までの調査成果をまとめたものである。
2．発掘調査は女川町教育委員会生涯学習課が主体となって実施し，宮城県教育庁文化財課（平成 29 年度までは文化財保護課）が協力した。
3．発掘調査と報告書作成にあたって，女川町復興推進課，宮城県教育庁文化財課，宮城県東部土木事務所，宮城県東部地方振興事務所，独立行政法人都市再生機構（UR）から多大な御協力を賜った。
4．本書で使用した測量の座標値は世界測地系に基づく平面直角座標第 X 系で表している。なお，方位 N は座標北を表している。
5．本書の遺跡位置図は国土交通省国土地理院発行の 1/25000 地形図を複製して使用した。また，遺構配置図の下図として使用した地形図・施工図面は工事主体の女川町復興推進課，宮城県東部土木事務所に提供していただいた。
6．土色の記載は『新版標準土色帳』（小山忠・竹原秀雄 1973，農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修・日本色研事業株式会社発行）に依拠した。
7．遺構図および遺物図の縮尺は，それぞれにスケールを付して示している。
8．本書の執筆は発掘調査担当職員の協議を経て齋藤和機（第 1 章・第 2 章 1 ～ 14 節）・古田和誠（第 2 章 15 節）が担当し，齋藤和機が編集した。なお，動物遺存体の同定は西村力，石材鑑定は小野章太郎，土器鑑定は初鹿野博之（宮城県多賀城跡調査研究所職員）と古田和誠（宮城県教育庁文化財課職員）（敬称略）に御協力いただいた。
9．発掘調査の記録と出土遺物は女川町教育委員会が保管し，著作権は女川町が有する。

目　次

第 1 章　調査に至る経緯…… 1
1．女川町の地理的環境…… 1
2．女川町の歴史的環境…… 1
3．東日本大震災と埋蔵文化財への対応…… 7
第 2 章　調査の成果…… 12
1．宮ヶ崎 B 遺跡…… 12
2．小乗浜 A 遺跡…… 14
3．日蕨 C 遺跡…… 18
4．桐ヶ崎遺跡…… 19
5．崎山遺跡…… 21
6．田の島遺跡…… 23
7．飯子浜遺跡…… 25
8．尾浦貝塚…… 27
9．高白浜遺跡…… 32
10．横浦 A 遺跡…… 34
11．横浦 B 遺跡…… 37
12．小乗浜 B 遺跡…… 39
13．野々浜 B 遺跡…… 41
14．野々浜遺跡…… 44
15．荒井田貝塚…… 50

まとめ・参考文献 …… 58

抄録 …… 60

図　版　目　次

第 1 図　女川町内遺跡の時代・種別内訳 …… 2
第 2 図　復興事業と女川町内の文化財…… 5
第 3 図　宮ヶ崎 B 遺跡調査地点とトレンチ配置図・柱状図 …… 13
第 4 図　宮ヶ崎 B 遺跡調査写真 …… 14
第 5 図　小乗浜 A 遺跡調査地点とトレンチ配置図 …… 15
第 6 図　小乗浜 A 遺跡柱状図 …… 16
第 7 図　小乗浜 A 遺跡調査写真…… 17
第 8 図　日蕨 C 遺跡調査地点とトレンチ配置図 …… 18
第 9 図　日蕨 C 遺跡調査写真 …… 19
第 10 図　桐ヶ崎遺跡調査地点とトレンチ配置図 …… 20
第 11 図　桐ヶ崎遺跡調査写真 …… 21
第 12 図　崎山遺跡調査地点・調査写真 …… 22
第 13 図　田の島遺跡調査地点とトレンチ配置図・柱状図 …… 23
第 14 図　田の島遺跡調査写真 …… 24
第 15 図　飯子浜遺跡調査地点とトレンチ配置図・柱状図 …… 26
第 16 図　飯子浜遺跡調査写真 …… 27
第 17 図　尾浦貝塚調査地点とトレンチ配置図・柱状図 …… 28
第 18 図　尾浦貝塚調査写真 …… 29
第 19 図　尾浦貝塚出土土器実測図 …… 31
第 20 図　尾浦貝塚出土土器・動物遺存体写真 …… 31
第 21 図　高白浜遺跡調査地点とトレンチ配置図 …… 32
第 22 図　高白浜遺跡調査写真 …… 33
第 23 図　横浦 A 遺跡調査地点とトレンチ配置図・柱状図 …… 35
第 24 図　横浦 A 遺跡調査写真…… 36
第 25 図　横浦 B 遺跡調査地点とトレンチ配置図・柱状図 …… 37
第 26 図　横浦 B 遺跡調査写真…… 38
第 27 図　小乗浜 B 遺跡調査地点とトレンチ配置図・柱状図 …… 39
第 28 図　小乗浜 B 遺跡調査写真…… 40
第 29 図　野々浜 B 遺跡柱状図…… 41
第 30 図　野々浜 B 遺跡調査地点とトレンチ配置図 …… 42
第 31 図　野々浜 B 遺跡調査写真…… 43
第 32 図　野々浜遺跡調査地点の位置とトレンチ配置図 …… 44
第 33 図　野々浜遺跡 T1・T2 柱状図 …… 45
第 34 図　野々浜遺跡調査写真 …… 46
第 35 図　野々浜遺跡 T1 出土遺物実測図 …… 47
第 36 図　野々浜遺跡 T2 出土遺物実測図 …… 48
第 37 図　野々浜遺跡出土遺物写真 …… 49
第 38 図　荒井田貝塚調査地点とトレンチ配置図 …… 51
第 39 図　荒井田貝塚調査区の配置と層序模式図 …… 53
第 40 図　荒井田貝塚出土遺物 …… 54
第 41 図　調査成果に基づく荒井田貝塚範囲 …… 55
第 42 図　荒井田貝塚調査写真（1）…… 56
第 43 図　荒井田貝塚調査写真（2）…… 57
第 44 図　荒井田貝塚出土遺物写真 …… 57

表　目　次

第 1 表　女川町内の遺跡一覧…… 3
第 2 表　仮設住宅と埋蔵文化財の係わり…… 8
第 3 表　女川町内における届出等件数の推移…… 9
第 4 表　CM 方式に係わる会議 …… 9
第 5 表　平成 26 ～ 30 年度派遣・協力職員一覧 …… 10
第 6 表　平成 26 ～ 30 年度復興事業発掘調査一覧 …… 10
第 7 表　荒井田貝塚土層観察表 …… 52
第 8 表　荒井田貝塚出土遺物点数表 …… 55

第１章　調査に至る経緯

１．女川町の地理的環境

女川町は，宮城県東部の牡鹿半島基部に位置する。行政区分では牡鹿郡に含まれ，石巻市と接している。半島基部は西から万石浦，東から女川湾が湾入しており，上空からみると大きく括れた形となっている。中心部は半島東側に位置し，ここより臨む西部，南部，北部の三方が北上山地から延びる山々に囲まれ，東部で女川湾を介して太平洋と接する。町の８割は山地で構成されており，平坦地は中心部と狭小な沿岸の沖積平野に限られる。女川湾の東方沖合には出島や江島を中心として，出島付近には鮹島，宇ノ島など９島以上，江島付近には二股島をはじめ５島以上が列状に連なる。

地形は中心部を囲む北上山地の支脈が海岸線までせり出し，屈曲に富む海食崖が連続したリアス式海岸を形成している。沿岸部は縄文時代以降に陸化して沖積平野になったと考えられる。地質は東北地方三陸沿岸地域の地質と共通し，三畳系，ジュラ系より成る。三畳系（三畳紀層）は，主に砂質粘板岩，砂岩と粘板岩の互層，粘板岩で構成され，町内各所において露頭が確認できる。また，東方沖合の笠貝島は塩基性深成岩の一種である斑糲岩によって形成されており，日本で初めて発見された球状斑糲岩として県指定天然記念物（地質鉱物）となっている。

こうした地形・地質的特徴をもち起伏に富んだ山林と島嶼部は，多様な生態系を育む基盤となっている。特筆すべきものとしては国指定天然記念物の陸前江島のウミネコ及びウトウ繁殖地が挙げられ，国内有数の稀少な繁殖地として保護されている。このほかにも特別天然記念物であるニホンカモシカの生息が確認できるほか，牡鹿半島側においてはニホンジカの生息数も多い。塚浜には暖地性常緑喬木であるタブノキ，ならびに亜喬木の灌木であるヒサカキが確認され，北限域の生息として町指定天然記念物に指定されている。

２．女川町の歴史的環境

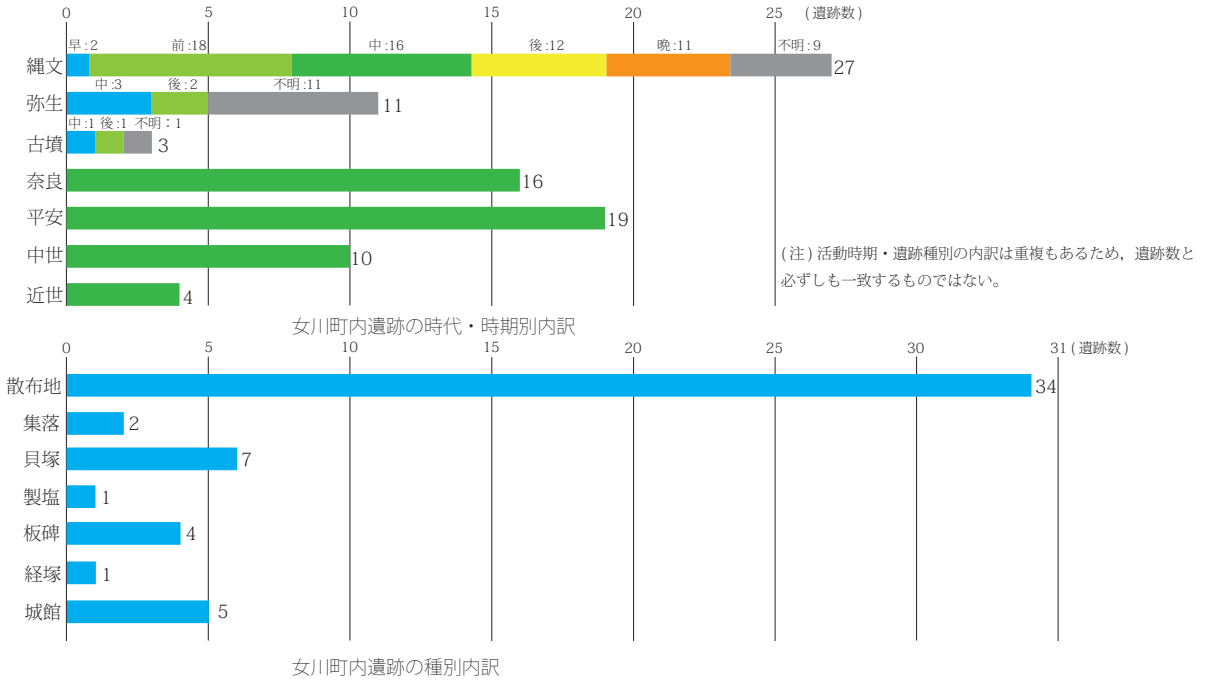
女川町内には，53 の遺跡が登録されている（第１表）。時代別で内訳みると，縄文時代 27，弥生時代 11，古墳時代３，奈良時代 16，平安時代 19，中世 10，近世４である（第１図・註 1）。町内遺跡の特徴として，縄文時代と奈良・平安時代が特出して多い傾向が挙げられる。また，種別でみると，散布地を除けば貝塚が最も多い。以下では，これらの遺跡から各時代の概要を述べる。

〈縄文時代〉

縄文時代は草創期から晩期に区分され，町内では浦宿尾田峯貝塚（宮城県 1992・1993，女川町 1993），出島貝塚（小牛田農林高校郷土研究班 1970，邊見 1971・1972・1973・1977，宮城県 1990），荒井田貝塚（宮城県 2015・2016），内山遺跡（女川町 2017a），大石原遺跡（宮城県 2005・2015）浦宿Ｃ遺跡（宮城県 2006）などの発掘調査で遺構・遺物が確認されている。

草創期から早期と認知している遺跡は出島貝塚，浦宿Ｂ遺跡，野々浜Ｂ遺跡のみと少ない。出島貝塚では植物繊維を含む斜交縄文・押圧縄文，内面ミガキの土器を利用した円盤状土製品が出土しており，早期末から前期初頭と考えられている（宮城県 1990）。浦宿Ｂ遺跡，野々浜Ｂ遺跡では早期の土器が採集されている。しかし，町内での事例は極地的で乏しく，遺構も見つかっていないため居住や活動の実態は不明である。当該期の遺構・遺物は宮城県内においても確認例が少なく，女川町も同様の傾向を示しているといえる。

前期は，町内では縄文時代のなかで最も遺跡数が多い。これまでの発掘調査では万石浦北東に立地する浦宿Ｃ遺跡で前期初頭（上川名Ⅱ式期）・前葉（大木 2a 式期）の遺物包含層が確認されているほか



第 1 図　女川町内遺跡の時代・種別内訳

（宮城県 2006），北西側で隣接する浦宿尾田峯貝塚で遺物包含層が確認されている。女川湾北側に立地する崎山遺跡においても，復興事業によって初頭の遺物包含層が確認された（女川町 2018）。さらに，町中心部から北東約 9km 洋上に浮かぶ出島の西岸にある出島貝塚では，小牛田農林高校郷土研究班が行った昭和 30 ～ 40 年代の発掘調査によって前期初頭の貝層が確認され，そこからは土器のほか石器，骨角器，動物遺存体が多量に出土している（小牛田農林高校郷土研究班 1970，邊見 1971・1972・1973・1977）。また，町北側の御前浜に立地する荒井田貝塚では，前期後葉（大木 5 ～ 6 式期）の遺物包含層が確認されている（宮城県 2015・2016）。

このほか，宮ヶ崎遺跡，大石原遺跡，野々浜遺跡，平島遺跡などで前期の遺物が採集されている。竪穴建物など居住施設はこれまでのところ未発見であるが，島嶼部を含めた町内全域で縄文時代前期から活動があったと推察できる。

中期は，前期と比較して認知している遺跡が減少するものの，依然として縄文時代の中では多い傾向を示している。町内では御前湾に面した荒井田貝塚で前葉（大木 7 式期）～末葉（大木 10 式期）の遺物包含層，中期末葉の竪穴建物跡が確認されたほか（宮城県 2016），女川湾の西奥部丘陵上に立地する内山遺跡で斜位土器埋設複式炉を伴う竪穴建物跡が認められ，居住域の存在が明らかとなった (女川町 2017)。上記 2 例のほかにも，五部浦湾に面した大石原遺跡で中期後葉（大木 9 式期）の土器を伴う土坑や（宮城県 2007），女川湾を南に望む崎山遺跡において中葉～後期前葉の遺物包含層が確認されている（宮城県 2016，女川町 2018）。また，尾浦貝塚，宮ヶ崎遺跡，出島貝塚，浦宿 B 遺跡などで土器が採集されており，中期を通じて町内各地に集落があったことが想定できる。

後期は，中期と比較して認知している遺跡がやや減少する。このうち発掘調査された遺跡では，内山遺跡で中期末葉から継続して後期初頭（門前式期）まで集落が営まれたほか，出島貝塚で後期前葉（南境式期〔袖窪式期～宮戸Ⅰ b 式土器より新しい土器群〕）の遺物包含層・貝層が確認されている。同貝塚出土遺物のうち後期のものは南境式期を主体としているが，宝ヶ峯〔宮戸Ⅱ a・b〕式期も一部含まれることから，中葉まで活動していたとみられる。このほか，崎山遺跡で後期前葉，浦宿 C 遺跡で後期後半，浦宿尾田峯貝塚で後期中葉～後葉（宝ヶ峯〔宮戸Ⅱ a・b〕式～金剛寺〔宮戸Ⅲ a〕式期）の土器が出土している（宮城県 1993）。

町内での後期集落の確認は内山遺跡 1 例のみであるが，遺物包含層が町内各地で確認されていること

No.	遺跡名	よみがな	登録	所在地		遺跡区分	時代								報告書
				地区	小字		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	刊行機関＋シリーズ（編著者＋刊行年）
1	浦宿尾田峯貝塚	うらしゅくおだみね	73001	浦宿浜	字尾田峯	貝塚		◎							町 1，県 146，154
2	浦宿 B 遺跡	うらしゅく B	73028		字浦宿	集落		◎				◎			県 208
3	浦宿 C 遺跡	うらしゅく C	73027		字尾田峯	散布地		◎							県 228
4	門前一小前遺跡	もんぜん	73025		字門前	散布地		○							
5	門前ガード脇遺跡	もんぜんがーどわき	73026		字門前	散布地		○							
6	十二神遺跡	じゅうにじん	73029		字十二神	散布地		○							県 236 △
7	照源寺境内遺跡	しょうげんじけいだい	73038		字門前	散布地					○	○	○	○	
8	浦宿浜田遺跡	うらしゅくはまだ	73039		字浜田	散布地					○				
9	館崎館跡	たてざき	73044	針浜	字針浜	城館							◎		県 137
10	小浦遺跡	こうら	73030		字針浜	散布地		○			○				
11	針ノ浜墓地下遺跡	はりのはまぼちした	73031		字針浜	散布地		○			○	○			
12	石塔場館跡	せきとうば	73042		字針浜	城館							○		
13	館の森館遺跡	たてのもり	73051		字針浜	城館							○		
14	針浜板碑群	はりのはま	73056		字針浜	板碑群							○		
15	針浜経塚	はりのはまきょうづか	73040		字花坂	経塚							○		
16	花坂遺跡	はなさか	73032		字花坂	散布地		○			○	○			
17	黒島貝塚	くろしま	73034		字黒島	貝塚		○	○	○	○				
18	唐松山下貝塚	からまつやました	73033		字唐松	貝塚		○	○		○	○			
19	猪落遺跡	いのどし	73035		字猪落	散布地		○							
20	善五郎館跡	ぜんごろう	73043		字後山	城館								○	
21	日蔵 A 遺跡	ひわらび A	73017	女川浜	字日蔵	散布地		○							
22	日蔵 B 遺跡	ひわらび B	73018		字日蔵	散布地		○							
23	日蔵 C 遺跡	ひわらび C	73049		清水町	散布地					○	○			
24	宮ケ崎遺跡	みやがさき	73003	宮ヶ崎	字宮ケ崎	散布地		○	○	○	○	○			県 236 △
25	宮ヶ崎 B 遺跡	みやがさき B	73054		字宮ヶ崎	散布地		○	○		○	○			本書△
26	高森 A 遺跡	たかもり A	73004	石浜	字高森	散布地		○							
27	高森 B 遺跡	たかもり B	73016		字崎山	散布地		○							
28	崎山遺跡	さきやま	73015		字崎山	集落		◎			◎				県 240 △，町 7
29	内山遺跡	うちやま	73019	鷲神浜	字内山	集落		◎	○		○			○	県 233 △，236 △，町 6 △
30	小乗浜 A 遺跡	このりはま A	73022	小乗浜	字向	散布地		○							本書△
31	小乗浜 B 遺跡	このりはま B	73021		字向	散布地		○							本書△
32	桐ヶ崎板碑群	きりがさき	73057	桐ヶ崎	字桐ヶ崎	板碑群							○		
33	桐ヶ崎遺跡	きりがさき	73060		字桐ヶ崎	散布地		○							本書△
34	竹の浦遺跡	たけのうら	73014	竹浦	字月浜	散布地		○							県 236 △
35	尾浦貝塚	おうら	73002	尾浦	字尾浦	貝塚		○				○			本書△
36	松葉板碑群	まつば	73061	御前浜	字松葉	板碑群							◎		町 8 △
37	荒井田貝塚	あらいた	73011		字荒井田	貝塚		◎				○			県 236 △，240 △
38	田の島遺跡	たのしま	73009		字田の島	散布地		○				○			町 8 △，本書△
39	田の入遺跡	たのいり	73007		字田の入	散布地		○				○			
40	指ケ浜貝塚	さしのはま	73052	指ヶ浜	字大畑	貝塚		○							
41	高白浜遺跡	たかしろはま	73046	高白浜	字高白	散布地		◎			○	○			県 236 △
42	名不知板碑群	なしらず	73058	横浦	字名不知	板碑群							○		
43	横浦 A 遺跡	よこうら A	73048		字名不知	散布地					○	○			本書△
44	横浦 B 遺跡	よこうら B	73047		字横浦	散布地		○			○	○			
45	横浦館跡	よこうら	73041		字横浦	城館							○	○	県 240 △
46	大石原遺跡	おおいしはら	73023	大石原	大石原浜	散布地		◎	◎		◎	◎			県 202，236 △
47	長者浜遺跡	ちょうじゃはま	73024		字長者の浜	散布地						○			
48	野々浜遺跡	ののはま	73045	野々浜	字野々浜	散布地		○	○						県 233 △
49	野々浜 B 遺跡	ののはま B	73055		字野々浜	散布地		◎	○						県 233 △，236 △，本書△
50	飯子浜遺跡	いいごはま	73050	飯子浜	字飯子	散布地					○	○			本書△
51	塚浜遺跡	つかはま	73059	塚浜	字塚浜	散布地		○	○						
52	出島貝塚	いづしま	73005	出島	出島	貝塚・製塩		◎	◎	◎		◎			邊見 1970 ～ 74，77，県 137
53	平島遺跡	ひらじま	73053	江島	字平島	散布地		○	○						
時代別合計							0	27	11	3	16	19	10	4	文献は刊行年順

◎　発掘調査で確認されたもの
○　遺物の採集等で確認されたもの
△　復興事業
　　確認調査・本調査が入った遺跡

第 1 表　女川町内の遺跡一覧

から，後期を通じてこの地域で居住・活動があったことは間違いないと考える。

晩期は草創期～前期を除けば，認知している遺跡が 11 箇所と縄文時代の中で最も少ない。このうち発掘調査された遺跡は浦宿尾田峯貝塚・出島貝塚の 2 例のみである。浦宿尾田峯貝塚では前葉の貝層（大洞 B 式期）と，中葉～末葉（大洞 C_1 式～ A 期）の遺物包含層が確認され，貝層から遮光器土偶・骨角器が発見されている。また，出島貝塚では中葉（大洞 C_2 式期）の遺物包含層を確認している。このほか，時期が推測できる遺物が採集された遺跡として，野々浜 B 遺跡（前葉～中葉：大洞 BC 式～大洞 C_1 式期）

（宮城県 2014），宮ヶ崎遺跡（中葉～後葉：大洞 C・A 式期），平島遺跡（末葉：大洞 A‘ 式期）などが挙げられる。

当該期を発見した発掘調査事例が少ないが，採集例を含めれば後期から継続してこの地域で活動していたものと推測できる。

〈弥生時代〉

弥生時代の遺物が採集された遺跡は町内に 11 箇所ある。このうち発掘調査が行われたのは大石原遺跡と出島貝塚のみで，大石原遺跡では中期（桝形囲式期・円田式期）の土器が出土し，出島貝塚においても中期（桝形囲式期）の土器が出土している。このほか，女川町誌によると，野々浜 B 遺跡で中期（寺下囲式期），黒島貝塚で後期（崎山・十三塚・天王山式期），平島遺跡で後期（十三塚・天王山式期）の遺物が採集されたとされる（女川町誌編纂委員会 1991）。遺物の出土・採集状況から，中期から後期を中心に島嶼部を含めて町内での活動が想定されるものの，発掘調査によって遺構を確認した事例はなく，弥生時代の実態は不明である。

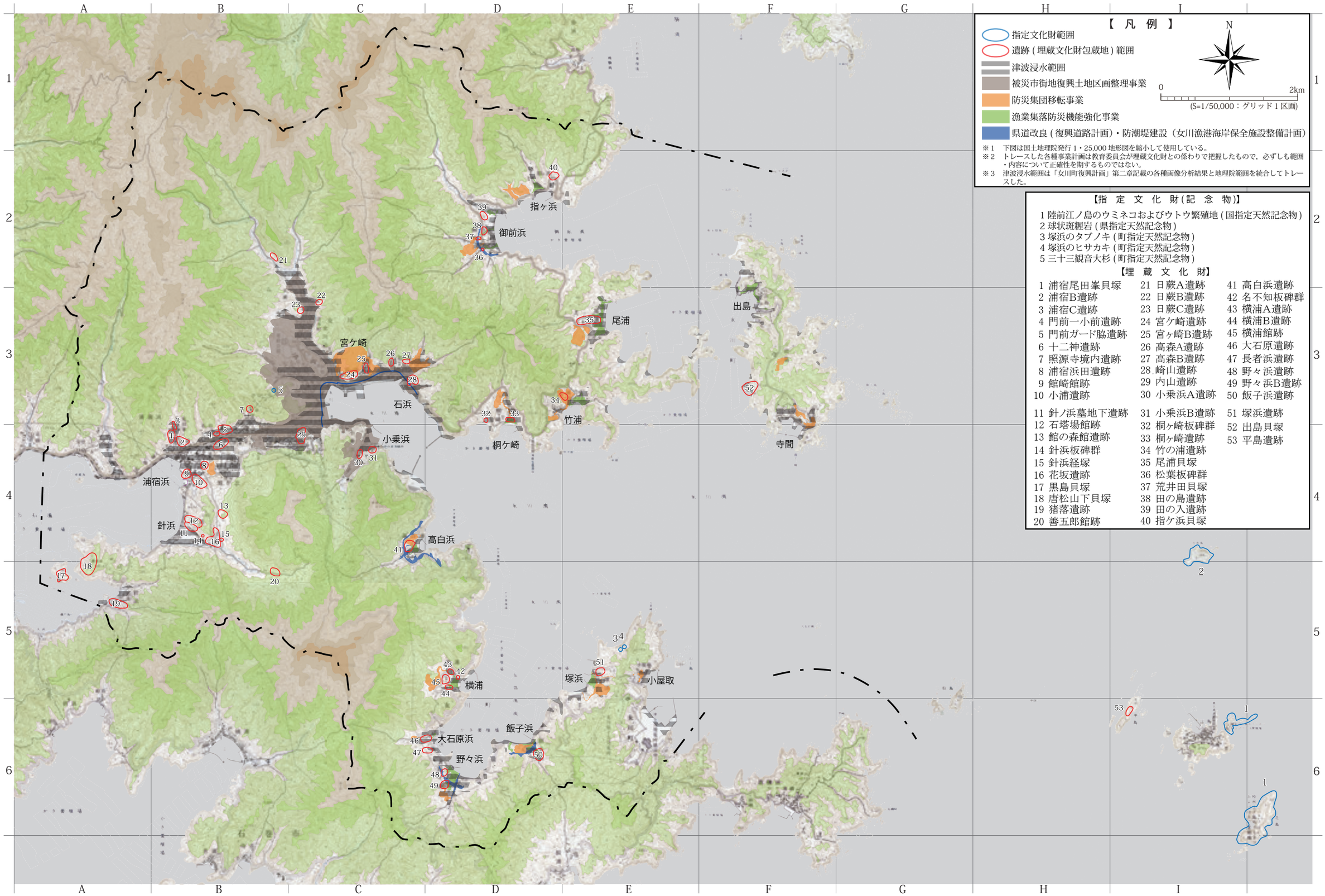
〈古墳時代〉

町内で古墳時代の遺物が採集された遺跡は出島貝塚と黒島貝塚，宮ヶ崎遺跡の 3 例のみで，古墳は未確認である。これは近世を除けば，他の時代と比較して極端に少ない。このうち出島貝塚では発掘調査によって中期の土師器甕・坏が出土し（宮城県 1990），宮ヶ崎遺跡では後期前半（住社式期）の遺物が採集されている。古墳時代は中期から後期前半のみしか確認されておらず，発掘調査で確認した活動が中期のみで，かつ出島という島嶼部であることは大変興味深い。

〈奈良・平安時代〉

奈良・平安時代の女川町は，古代令制国である陸奥国の牡鹿郡に含まれる。東松島市に所在する赤井遺跡は『続日本紀』にみえる「牡鹿柵」あるいは「牡鹿郡家」に推定されており（三宅 1973，矢本町 2001 ほか），天平勝宝 5 年（753）に牡鹿連姓を賜った，東北地方有力豪族の道嶋氏との関連が指摘されている。従って，牡鹿郡の中心は東松島市周辺と考えられ，女川町は牡鹿郡の中でも周辺域に位置していたとみられる。

町内には官衙関連遺跡はないものの，奈良時代 16 箇所，平安時代 19 箇所（註 2）の遺跡があり，古代を通じて一定数の集落が存在していたと考えられる。このうち大石原遺跡，崎山遺跡，浦宿 B 遺跡では発掘調査が行われ，大石原遺跡で奈良・平安時代の遺物が出土し，崎山遺跡，浦宿 B 遺跡で竪穴建物跡が確認された。崎山遺跡の竪穴建物跡は 8 世紀後半の奈良時代（女川町 2017），浦宿 B 遺跡は 9 世紀前半の平安時代と考えられている（宮城県 2006）。両遺跡の竪穴建物とも在地の粘板岩を組み上げてカマドを構築しており，構築方法に共通性が見出せる。こうした石材を多用するカマドは県内でも少数で，これまでのところ石巻湾岸と三陸沿岸地域で類例は見当たらない。また，崎山遺跡の竪穴建物では製塩土器が出土している。製塩土器は牡鹿半島を中心とする石巻湾岸と三陸沿岸地域で，唐松山下遺跡のほか，石巻市・祝田貝塚（五十鈴神社下貝塚・法音寺境内内貝塚）や同市・網地製塩遺跡 3 地点で採集が報告されているが（牡鹿町 1984・1991），いずれも 9 世紀以降の平安時代が中心である。これまでのところ，同地域においてカマド構築方法と製塩土器の両方で崎山遺跡が下限となることから，今後は広域的に系譜と関係性を検討する必要がある。



【 凡 例 】

- 指定文化財範囲
- 遺跡 (埋蔵文化財包蔵地) 範囲
- 津波浸水範囲
- 被災市街地復興土地区画整理事業
- 防災集団移転事業
- 漁業集落防災機能強化事業
- 県道改良 (復興道路計画)・防潮堤建設（女川漁港海岸保全施設整備計画）

N

0 2km

(S=1/50,000：グリッド 1 区画)

※1　下図は国土地理院発行 1・25,000 地形図を縮小して使用している。
※2　トレースした各種事業計画は教育委員会が埋蔵文化財との係わりで把握したもので，必ずしも範囲・内容について正確性を期するものではない。
※3　津波浸水範囲は「女川町復興計画」第二章記載の各種画像分析結果と地理院範囲を統合してトレースした。

【指 定 文 化 財 (記 念 物)】

1 陸前江ノ島のウミネコおよびウトウ繁殖地 (国指定天然記念物)
2 球状斑糲岩 (県指定天然記念物)
3 塚浜のタブノキ (町指定天然記念物)
4 塚浜のヒサカキ (町指定天然記念物)
5 三十三観音大杉 (町指定天然記念物)

【埋 蔵 文 化 財】

1 浦宿尾田峯貝塚
2 浦宿B遺跡
3 浦宿C遺跡
4 門前一小前遺跡
5 門前ガード脇遺跡
6 十二神遺跡
7 照源寺境内遺跡
8 浦宿浜田遺跡
9 館崎館跡
10 小浦遺跡
11 針ノ浜墓地下遺跡
12 石塔場館跡
13 館の森館遺跡
14 針浜板碑群
15 針浜経塚
16 花坂遺跡
17 黒島貝塚
18 唐松山下貝塚
19 猪落遺跡
20 善五郎館跡
21 日蒜A遺跡
22 日蒜B遺跡
23 日蒜C遺跡
24 宮ケ崎遺跡
25 宮ヶ崎B遺跡
26 高森A遺跡
27 高森B遺跡
28 崎山遺跡
29 内山遺跡
30 小乗浜A遺跡
31 小乗浜B遺跡
32 桐ヶ崎板碑群
33 桐ヶ崎遺跡
34 竹の浦遺跡
35 尾浦貝塚
36 松葉板碑群
37 荒井田貝塚
38 田の島遺跡
39 田の入遺跡
40 指ケ浜貝塚
41 高白浜遺跡
42 名不知板碑群
43 横浦A遺跡
44 横浦B遺跡
45 横浦館跡
46 大石原遺跡
47 長者浜遺跡
48 野々浜遺跡
49 野々浜B遺跡
50 飯子浜遺跡
51 塚浜遺跡
52 出島貝塚
53 平島遺跡

第２図　復興事業と女川町内の文化財

〈中世・近世〉

町内では板碑群 4 箇所，館跡 5 箇所，経塚 1 箇所が確認されている。板碑は昭和 63 年～平成 13 年に悉皆調査を行っており，上記 4 箇所の板碑群（針浜板碑群，桐ヶ崎板碑群，名不知板碑群，飯子浜板碑群）のほか，寺社地に移設された 62 基の板碑が確認されている（女川町 2001）。この結果，移設されたものを含めれば，島嶼部を含め町内 12 地区で板碑の存在が把握されている。

このうち，万石浦北東部に位置する針浜板碑群（17 基）には建治 2 年（1276）紀年銘の板碑が含まれ，町内最古である。桐ヶ崎板碑群（8 基）がこれに次ぎ，正應 6 年（1293）の板碑が確認できる。県内最古の板碑は北上川下流域に位置する石巻市（旧河北町）の文応元年碑（1260）で，針浜板碑群，桐ヶ崎板碑群の事例から 1270 年代にはすでに沿岸域でも造立が開始されたと判断できる。紀年銘からみた町内における板碑の造立は，針浜板碑群（1276 年）を端緒として，万石浦北側の大沢地区で 1280 年代，北東部の松葉板碑群（19 基），桐ヶ崎板碑群 1290 年代，南東部の飯子浜板碑群（10 基）1310 年代，島嶼部の出島地区で 1320 年代に開始されている。従って，万石浦東岸地域で 13 世紀後半に開始された板碑造立が，13 世紀末頃までに海岸部・島嶼部へ展開していると見ることができよう（女川町 2017b）。造立期間をみると，飯子浜板碑群，桐ヶ崎板碑群，大沢地区で 14 世紀末頃まで確認できるほか，名不知板碑群（10 基）で 15 世紀～ 16 世紀，針浜板碑群で 16 世紀末まで造立されている。但し，造立基数を年代別で見ると，13 世紀 5 基，14 世紀 21 基，15 世紀 15 基，16 世紀 3 基であり（女川町 2017b），14 ～ 15 世紀にピークを迎え，16 世紀には急速に衰退したものと考えられる。

館跡は館崎館跡，石塔場館跡，館の森館跡，善五郎館跡，横浦館跡の 5 箇所が確認されており，前者 4 館が針浜地区，横浦館跡のみ横浦地区に立地し，針浜地区に集中する。館の森館跡を除く 4 館は『史料　仙台領内古城・館　第二巻』で紹介され（紫桃 1973），左記の文献が館跡としての登録根拠とされている。但し，いずれも年代・城主の伝承はなく，石塔場館跡，善五郎館跡については近世屋敷という指摘も出ている（藤沼 1981）。館崎館跡のみ発掘調査が実施され，三段の平場が確認された。調査報告では，石巻方面からの交通上の要衝に位置していること，『伊達正統世次考』『本吉郡北方津谷村代数有之御百姓書出』といった文献を根拠に，南北朝時代から戦国時代の期間に，葛西氏や末永氏との係わりで利用された可能性が述べられている（宮城県 1990）。

このほか，御前浜では昭和 43 年の国道 398 号線測量中に，古銭 10，572 枚が山際標高 20 mの岩盤窪みで発見されている（女川町誌編纂委員会 1991）。古銭は 2 枚を除いて渡来銭で，最も新しい初鋳年が至大通宝（1310 年）であることから，埋納された年代は 14 世紀と推定されている（藤沼・神宮寺 1992）。また，照源寺境内遺跡では古墓改葬の際に州浜牡丹蝶鳥鏡（鎌倉時代）が発見されている（同 1991）。

近世の遺跡としては，善五郎館跡，横浦館跡の 2 館が中世から継続的に存続していた可能性が指摘されているほか，照源寺境内遺跡，内山遺跡で近世の遺物が出土している。近世段階では，震災以前の女川町に繋がる町割りや寺社が成立していたと考えられるが，遺跡としての登録は少ない。

註 1　平成 30 年度末までの調査成果・文化財保護管理指導事業 (パトロール) 成果に基づく。

註 2　細分できない遺跡は両方に計上している。

3．東日本大震災と埋蔵文化財への対応

平成 23 年（2011）3 月 11 日に発生した東日本大震災では，町の平坦部が津波により甚大な被害を受け，住宅・漁港などが壊滅した。町内では最大高 14.8 m，浸水区域 320 ヘクタールにおよぶ津波を受けたことにより，574 名の死者・253 名の行方不明者 (平成 27 年度時点) と，3934 棟 (町内建物

の 85 パーセント) の住宅損壊が出ることとなった。このため，震災以前には町民の大半が海岸線に接する平坦部に居住し，林業，水産業を基幹産業としていたが，町人口は震災以前の平成 22 年（2010）国勢調査段階の 10，051 人から，平成 30 年 5 月末時点で約 6，000 人まで減少した。

町内における指定文化財・埋蔵文化財の被害については，平成 23 年 4 月下旬以降に順次被害状況の把握に努めた。その結果，町内に 2 件ある指定文化財の被害はなかったものの，埋蔵文化財は 33 遺跡（遺跡面積 631，688㎡）で浸水被害を受けたことを確認した（註 1 ）。

〈災害復旧と埋蔵文化財〉

震災直後には仮設住宅・ライフライン等の早期復旧が必要とされたが，埋蔵文化財との係わりについては，宮城県教育委員会から発出された「平成 23 年度東北地方太平洋沖地震に伴う復旧工事に係わる埋蔵文化財の当面の取扱いについて」(平成 23 年度 3 月 30 日付け) により，文化財保護法第 93・94 条の届出等は不要とする対応が示された（註 2)。この届出等不要期間は最終的に平成 28 年 3 月まで，緊急性を要する仮設住宅・ライフライン等の復旧を対象に適用されることとなった。

期間中に工事が行われ，埋蔵文化財と係わりが生じた仮設住宅については，震災直後から宮城県教育委員会によって情報収集が行われた。その結果，町内では女川第一小学校前地区，ならびに第三保育所跡地地区の 2 箇所の仮設住宅で，それぞれ門前ガード脇遺跡，宮ヶ崎 B 遺跡の範囲内であることが判明し，大石原地区，横浦北地区の 2 箇所は大石原遺跡，横浦 A 遺跡の隣接地であった（第 2 表)。但し，上記の合計 4 箇所で行われた仮設住宅の設置は，既に造成を受けた平坦地が利用されたこと，プレハブ等の簡易な基礎構造であったことから，埋蔵文化財への影響は限定的と考えられた。

	仮設住宅名	所在地	戸数	係わる遺跡	範囲内	隣接地	備考
1	女川第一小学校グラウンド地区	浦宿浜字門前	57	門前ガード脇遺跡	○		グラウンド内
2	第三保育所跡地地区	宮ヶ崎字宮ヶ崎	8	宮ヶ崎 B 遺跡	○		第三保育所跡
3	大石原地区	大石原	6	大石原遺跡		○	
4	横浦北地区	横浦字名不知	24	横浦 A 遺跡		○	

第 2 表　仮設住宅と埋蔵文化財の係わり

〈復興事業と埋蔵文化財〉

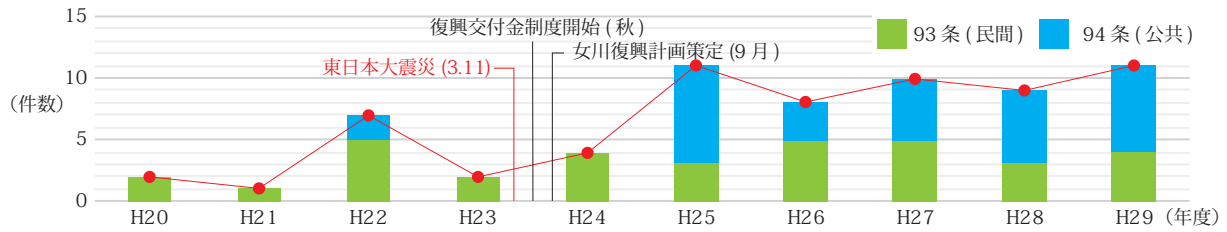
女川町における東日本大震災からの復興整備計画は，平成 24 年度の復興庁設置後に本格的に動き出すこととなった。町復興推進課による計画策定を基に，ＵＲ都市機構を介して施工業者の選定・発注が行われるＣＭ方式（業務一括発注）が採用されることが決定した（註 3)。このため，防災集団移転促進事業，被災市街地土地区画整理事業，漁業集落防災機能強化事業が一体的に管理・整備されることとなった。

女川町教育委員会には，平成 24 年 8 月の女川町ふるさと住宅モデル展示場整備事業を端緒として，同年 9 月の防災集団移転促進事業野々浜地区，同年 11 月に被災市街地土地区画整理事業と，各事業の埋蔵文化財との係わり協議が順次提出された。併せて，平成 25 年度に入ると国道 398 号線，県道 41 号線（主要地方道女川牡鹿線）の係わり協議が宮城県東部土木事務所と始まった。平成 29 年度末までに復興事業との係わりが生じた遺跡は，町内 53 遺跡中 30 遺跡にのぼることとなり，宮城県教育委員会によって，そのうち 19 遺跡で確認調査が必要との指示を受けた。

復興事業に伴って係わり協議が増大したことにより，文化財保護法第 93・94 条に基づく発掘届等の受理件数も増加した (第 3 表)。平成 23 年度以前の発掘届等件数は平均して年 3.75 件であったが，平成 24 年度以降には年平均 9 件と 2 倍以上増加した。埋蔵文化財への影響も震災後に大きくなり，震災以前の平成 20 ～ 23 年度における確認調査の指示は 3 件のみであったが，震災後の平成 24 ～ 29 年度においては，29 件と震災以前の 10 倍弱まで激増することとなった。こうした事態に対して，町教育

年度			H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
93 条 (民間)　計 (A ＋ B ＋ C)			2	1	5	2	4	3	5	5	3	4
対応	A　確認調査 (a ＋ b)		0	0	2	0	0(0)	1 (0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)
	工事目的	a 個人住宅							1(1)			
		b その他建物			2			1(0)				
	B　工事立会 (a ＋ b ＋ c ＋ d ＋ e ＋ f)		2	1	3	2	4(3)	2(0)	4(0)	5(3)	3(0)	4(0)
	工事目的	a 学校					1(1)					
		b 個人住宅			1		1(1)			3(3)		
		c 共同住宅				1	1(1)	1(0)				
		d その他建物	1						1(0)		1(0)	
		e その他開発				1	1(0)			1(0)		
		f ガス・電気・水道等	1	1	2			1(0)	3(0)	1(0)	2(0)	4(0)
	C　慎重工事		0	0	0	0	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
94 条 (公共)　計 (D ＋ E ＋ F)			0	0	2	0	0	8	3	5	6	7
対応	D　確認調査 (a ＋ b ＋ c ＋ d ＋ e ＋ f)		0	0	1	0	0(0)	8(7)	3(3)	3(3)	6(6)	7(7)
	工事目的	a 道路								1(1)	1(1)	1(1)
		b 共同住宅			1			1(0)				
		c 宅地造成 (防集)						3(3)	1(1)			
		d 土地区画整理						3(3)	2(2)			
		e 港湾									1(1)	
		f その他開発 (漁集等)						1(1)		2(2)	4(4)	6(6)
	E　工事立会 (a ＋ b ＋ c)		0	0	5	0	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	0(0)	0(0)
	工事目的	a その他建物			1							
		b その他開発			1					2(0)		
		c ガス・電気・水道等			3							
	F　慎重工事		0	0	0	0	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合計 (A ＋ B ＋ C ＋ D ＋ E ＋ F)			0	1	12	2	4	11	8	10	9	11

(　　) は届出等に含まれる復興事業の件数



第 3 表　女川町内における届出等件数の推移

	会議名	日時	場所	出席機関
1	復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に係わる業務一括発注方式説明会	平成 25 年 4 月 11 日 (木) 14：00 ～ 16：00	石巻市役所 仮設第 11 会議室	女川町，石巻市，南三陸町各教育委員会，震災復興関連課 (計 13 名)，宮城県教育委員会，文化庁記念物課 (指導助言)，兵庫県教育委員会 (指導助言)，大阪府教育委員会 (指導助言)
2	女川町復興事業に伴う発掘調査における業務一括発注 (CM 方式) 導入に係わる調整会議 (第 1 回)	平成 25 年 7 月 24 日 (水) 13：00 ～ 15：00	女川町役場仮設庁舎 第 2 会議室 B	女川町教育委員会，復興推進課，宮城県教育委員会，文化庁記念物課 (指導助言)，UR 都市機構，建設技術研究所
3	女川町復興事業に伴う発掘調査における業務一括発注 (CM 方式) 導入に係わる調整会議 (第 2 回)	平成 25 年 9 月 6 日 (金) 13：15 ～ 15：15	宮城県庁本町分庁舎 603 会議室 (漁信基ビル)	女川町教育委員会，復興推進課，宮城県教育委員会，文化庁記念物課 (指導助言)，復興庁宮城復興局 (指導助言)，UR 都市機構

※文化庁 2017「東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護の取組 (報告)」119 頁表 28 を基に作成

第 4 表　CM 方式に係わる会議

委員会には埋蔵文化財行政を担う専門職員 (註 4) が配置されておらず，埋蔵文化財が迅速を要する震災復興に影響を与える懸念が生じることとなった。

このようにＣＭ方式による復興整備計画が本格化し，埋蔵文化財との係わりが増加したことに伴い，埋蔵文化財の調査制度・体制と復興事業の関係を確認する目的で，平成 25 年度から計 3 回の担当者会議が開催された (第 4 表)。会議の議題では，復興事業に対して町教育委員会の調査体制が整わないこ

自治法派遣職員		
古田和誠	宮城県教育委員会	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
福沢佳典	長野県松本市	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
宮城県教育委員会 (文化財課) 協力職員		
豊村幸宏，佐藤憲幸，中澤淳，田中秀幸，初鹿野博之，熊谷宏規，鈴木啓司，齋藤和機，黒田智章，木下晴一 (香川県)，垣内拓郎 (兵庫県)，石川智紀 (新潟県)，守岡正司 (島根県)		

第 5 表　平成 26 ～ 30 年度派遣・協力職員一覧

年度	№	掲載	遺跡名	事業名	事業主	調査主体	担当職員	調査種別	調査面積 (㎡)	調査期間	主な発見
H26	1	県 240	荒井田貝塚	防災集団移転促進事業	女川町	宮城県	鈴木，中澤，石川 (新潟)，守岡 (島根)	試掘調査	175	4 月 14 日～4 月 25 日	縄文時代：竪穴住居跡・遺物包含層・土坑・ピット，縄文土器・石器
	2	本書 1	宮ヶ崎 B 遺跡	個人住宅	個人	女川町	古田	確認調査	20	6 月 20 日	遺構・遺物なし
	3	本書 15	荒井田貝塚	防災集団移転促進事業	女川町	女川町 (県協力)	古田，田中，木下 (香川)，垣内 (兵庫)	本発掘調査	263	7 月 28 日～8 月 28 日	縄文時代：遺物包含層，縄文土器，石器など
	4	県 240	崎山遺跡	被災市街地復興土地区画整理事業	女川町	宮城県	田中，木下 (香川)，垣内 (兵庫)	試掘調査	370	9 月 1 日～9 月 12 日	縄文時代：遺物包含層・土坑・ピット，縄文土器・石器
	5	町 8	内山遺跡	被災市街地復興土地区画整理事業	女川町	女川町	福沢 (松本市)，古田，田中，木下 (香川)，垣内 (兵庫)	本発掘調査	4571	4 月 14 日～1 月 17 日	縄文時代：掘立柱建物跡・遺物包含層・土坑・ピットなど，縄文土器・石器など
	6	町 7	崎山遺跡	被災市街地復興土地区画整理事業	女川町	女川町	福沢 (松本市)，古田，田中，木下 (香川)，垣内 (兵庫)	本発掘調査	667	11 月 4 日～1 月 31 日	縄文前期初頭～後期前葉包含層・奈良竪穴建物
	7	本書 2	小乗浜 A 遺跡	被災市街地復興土地区画整理事業	女川町	女川町	福沢 (松本市)，古田，平塚 (和)	確認調査	147	2 月 16 日～2 月 17 日	遺構・遺物なし
	8	県 240	横浦館跡	防災集団移転促進事業	女川町	宮城県	田中，木下 (香川)，垣内 (兵庫)	試掘調査	395	2 月 2 日～2 月 13 日	遺構・遺物なし
H27	9	本書 3	日蔵 C 遺跡	被災市街地復興土地区画整理事業	女川町	女川町	古田	確認調査	75	6 月 1 日	遺構・遺物なし
	10	町 8	田の島遺跡	御前浜復興道路事業 (国道 398 号線改良)	宮城県 (東部土木事務所)	女川町 (県協力)	平塚 (和)，古田	確認調査	63	3 月 8 日	遺構・遺物なし
H28	11	町 8	松葉板碑群	御前浜復興道路事業 (国道 398 号線改良)	宮城県 (東部土木事務所)	女川町 (県協力)	平塚 (英)，平塚 (大)，古田，熊谷	本発掘調査	122	5 月 9 日～5 月 20 日	中世：板碑・整地層・溝跡
	12	本書 4	桐ヶ崎遺跡	漁業集落防災機能強化事業	女川町	女川町 (県協力)	平塚 (英)，平塚 (大)，豊村，初鹿野，古田	確認調査	219	6 月 14 日，7 月 1 日，8 月 2 日	遺構なし，縄文土器
	13	本書 5	崎山遺跡	漁港海岸保全施設整備事業 (防潮堤)	宮城県 (東部地方振興事務所)	女川町 (県協力)	平塚 (英)，阿部，初鹿野	確認調査	12	9 月 7 日	遺構・遺物なし
	14	本書 1	宮ヶ崎 B 遺跡	防災集団移転促進事業	女川町	女川町 (県協力)	平塚 (英)，豊村	確認調査	8	9 月 7 日	遺構・遺物なし
	15	本書 1	宮ヶ崎 B 遺跡	防災集団移転促進事業	女川町	女川町 (県協力)	平塚 (英)，豊村，初鹿野	確認調査	12	12 月 6 日	遺構・遺物なし
	16	本書 6	田の島遺跡	漁業集落防災機能強化事業	女川町	女川町 (県協力)	平塚 (英)，豊村，初鹿野	確認調査	80	3 月 28 日	遺構なし，縄文土器
H29	17	本書 7	飯子浜遺跡	飯子浜復興道路工事 (県道改良)	宮城県 (東部土木事務所)	女川町 (県協力)	木村，平塚 (大)，豊村，齋藤	確認調査	57	5 月 8 日	遺構・遺物なし
	18	本書 8	尾浦貝塚	漁業集落防災機能強化事業	女川町	女川町 (県協力)	木村，平塚 (大)，阿部，豊村，齋藤	確認調査	219	5 月 18 日，5 月 22 日	縄文：貝層・遺物包含層，縄文土器 (前)・動物遺存体
	19	本書 9	高白浜遺跡	漁業集落防災機能強化事業	女川町	女川町 (県協力)	木村，平塚 (大)，阿部，豊村，齋藤	確認調査	87	5 月 22 日，6 月 15 日	遺構・遺物なし
	20	本書 11	横浦 B 遺跡	漁業集落防災機能強化事業	女川町	女川町 (県協力)	木村，平塚 (大)，豊村，齋藤	確認調査	73	6 月 7 日	遺構・遺物なし
	21	本書 12	小乗浜 B 遺跡	被災市街地復興土地区画整理事業	女川町	女川町 (県協力)	平塚 (大)，豊村，齋藤	確認調査	34	6 月 8 日	遺構・遺物なし
	22	本書 9	高白浜遺跡	高白浜復興道路工事 (県道改良)	宮城県 (東部土木事務所)	女川町 (県協力)	平塚 (大)，豊村，齋藤	確認調査	22	8 月 29 日	遺構・遺物なし
	23	本書 13	野々浜 B 遺跡	漁業集落防災機能強化事業	女川町	女川町 (県協力)	平塚 (大)，豊村，齋藤	確認調査	300	1 月 25 日	遺構・遺物なし
	24	本書 7	飯子浜遺跡	漁業集落防災機能強化事業	女川町	女川町 (県協力)	平塚 (大)，豊村，齋藤	確認調査	48	3 月 20 日	遺構・遺物なし
H30	25	本書 2	小乗浜 A 遺跡	被災市街地復興土地区画整理事業	女川町	女川町 (県協力)	阿部 (孝)，阿部 (達)，佐藤，黒田	確認調査	49	5 月 8 日	遺構・遺物なし
	26	本書 14	野々浜遺跡	漁業集落防災機能強化事業	女川町	女川町 (県協力)	阿部 (孝)，佐藤，齋藤，黒田	確認調査	138	5 月 10 日，9 月 5 日	遺物包含層，縄文土器 (前・中・後)，石器石製品
	27	本書 8	尾浦貝塚	漁業集落防災機能強化事業	女川町	女川町 (県協力)	阿部 (孝)，佐藤，齋藤	確認調査	288	6 月 12 日	遺構・遺物なし
	28	本書 10	横浦 A 遺跡	漁業集落防災機能強化事業	女川町	女川町 (県協力)	阿部 (孝)，佐藤，黒田	確認調査	61	6 月 14 日	遺構・遺物なし
	29	本書 14	野々浜遺跡	野々浜復興道路工事 (県道改良)	宮城県 (東部土木事務所)	女川町 (県協力)	阿部 (孝)，齋藤，黒田	確認調査		3 月 18 日	遺構・遺物なし

第 6 表　平成 26 ～ 30 年度復興事業発掘調査一覧

とから，発掘調査事務，体制整備，管理業務をもＣＭ方式に組み込むことが検討された。しかし，会議では制度上の問題と，委託業者の実績不足が認識され，結果として埋蔵文化財の発掘調査業務については CMR 協力の下，県教育委員会・町教育委員会が主体となって実施することとなった。

〈調査体制の整備〉

復興事業の迅速化が求められるなかで，文化庁によって復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査について

は，1) 発掘調査基準の弾力化，2) 体制強化等が提示された。この施策を受けて，1) については宮城県教育委員会によって，これまで県内で運用されてきた埋蔵文化財発掘調査基準 (註 5) が，復興事業に係わるもののみ簡略化されることとなった。

しかし，町教育委員会においては，2) が依然として課題であり，平成 24 ～ 25 年度は分布・試掘調査を宮城県教育委員会主体で実施することにより，復興事業に対応することとなった。平成 26 年度からは，前年度までの試掘調査結果から内山遺跡，崎山遺跡，荒井田貝塚で本発掘調査が必要となったため，宮城県教育委員会より 1 名，長野県松本市より 1 名の専門職員の派遣を受けて対応することとした。宮城県派遣職員が 2 年間，松本市派遣職員が 1 年間，発掘調査に従事し，本発掘調査についても，宮城県教育委員会から適時職員派遣の協力を得た (第 5 表)。

本発掘調査が終了した平成 28 年度以降は，町教育委員会が主体となり，宮城県教育委員会の協力を得て，確認調査を実施した。

〈発掘調査の実施〉

復興事業に係わる発掘調査 (文化財保護法第 99 条) は，試掘調査・確認調査・本発掘調査を併せて，平成 23 年度から平成 30 年度までに 39 件実施した。このうち，宮城県教育委員会が主体で実施した平成26年度までの試掘調査，並びに町教育委員会が実施した内山遺跡･崎山遺跡本発掘調査については，報告書が刊行されている (宮城県 2014・2015・2016，女川町 2017・2018)。本書の対象とする町教育委員会が主体となって実施した平成 26 年度以降の確認調査について，第 6 表で示した。復興事業に係わる発掘調査は，平成 30 年度末までに概ね終了することとなり，調査した遺跡は 19 遺跡，関係した調査員は 20 名にのぼる。このなかには，本発掘調査を実施した内山遺跡・崎山遺跡・松葉板碑群をはじめとして，荒井田貝塚・尾浦貝塚・野々浜遺跡の確認調査など，考古学上重要な成果を収め，地域の歴史文化の解明に貢献したものも含まれる。

註 1　宮城県教育委員会 2017「東日本大震災による被災文化財等の復旧･復興の記録（中間報告）」pp8 ～ 18 に基づく。

註 2　文化庁通知「東北地方太平洋沖地震に伴う復旧事業に係わる埋蔵文化財に関する文化財保護法の規定について（通知）」（平成 23 年 3 月 25 日付け庁財第 1213 号）に基づいて派出されたもので，対象となる範囲は，非常災害で緊急性を要する①電気，ガス，上下水道，電話，道路，河川，橋梁，鉄道等の復旧，②仮設住宅等の建設，損壊又は焼失した建物その他の工作物の撤去及び整地，③その他緊急性を要する復旧工事等とされた。

註 3　ＣＭ方式とは，Construction Management 方式の略で，アメリカに於いて多く用いられる建設・管理業務の一つである。Construction Manager（CMR）が技術的中立を保ちつつ，発注者側に立って設計・発注・施工の各段階において，発注方式の検討，工程・品質・コスト管理等の各種マネージメント業務の全部又は一部を行う。

註 4　特別な資格は設定されていないが，基本的には大学において考古学を専攻し，発掘調査と報告書の作成ができる者が従事する。

註 5　宮城県教育庁文化財課「埋蔵文化財保護の手引き」(平成 31 年 4 月) として，宮城県教育庁文化財課 HP(http://www.pref.miyagi.jp/site/maizou/maizou-manual.html) に掲載されている。

第２章　調査の成果

本章では，平成 26 年度から平成 30 年度までに実施した 28 件（15 遺跡）の調査成果について，遺跡ごとに成果を述べる。記載した遺跡は荒井田貝塚を除いて概ね調査年度順としている。遺跡の位置についてはそれぞれの遺跡名の横に 5・6 ページ第２図のグリッドと遺跡番号を記載した。調査した遺跡と事業の一覧については第１章第３節の第６表を参照されたい。なお，調査担当者の所属は調査時点のものである。

１．宮ヶ崎Ｂ遺跡　　【位置：P5-6 第２図 C-3(№ 25)】

〔遺跡名〕宮ヶ崎Ｂ遺跡（県遺跡地名表登載番号：73054）
〔所在地〕宮ヶ崎字宮ヶ崎
〔調査原因〕A．個人住宅新築（復興），B．防災集団移転促進事業（宮ヶ崎地区）
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕B．宮城県教育委員会，女川町復興推進課
〔調査担当〕A．古田和誠（女川町生涯学習課生涯学習係，宮城県派遣）
　　B．平塚英一（女川町生涯学習課生涯学習係）
　　B．豊村幸宏，初鹿野博之　（宮城県教育庁文化財保護課）
〔調査期間〕A．平成 26 年 6 月 20 日，B．平成 28 年 9 月 7 日，12 月 6 日
〔対象面積〕A．700㎡，B．230㎡
〔調査面積〕A．20㎡，B．20㎡

（１）調査に至る経緯

牡鹿郡女川町宮ヶ崎字宮ヶ崎に所在する宮ヶ崎Ｂ遺跡は，女川湾にむかって南北方向にのびる丘陵尾根の裾部に立地し，東西 80 m，南北 150 mの範囲に広がる。震災以前から宅地として利用されており，縄文土器（大木 10，南境，宝ケ峯，大洞 C･A 式期），石鏃，土師器，須恵器が採集されていることから，縄文時代中期から晩期と弥生時代，古代の散布地として登録されている。

この宮ヶ崎Ｂ遺跡では，東日本大震災の津波被害後，A．個人住宅新築と B．防災集団移転事業が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

（２）調査の概要

A．個人住宅新築（復興事業）

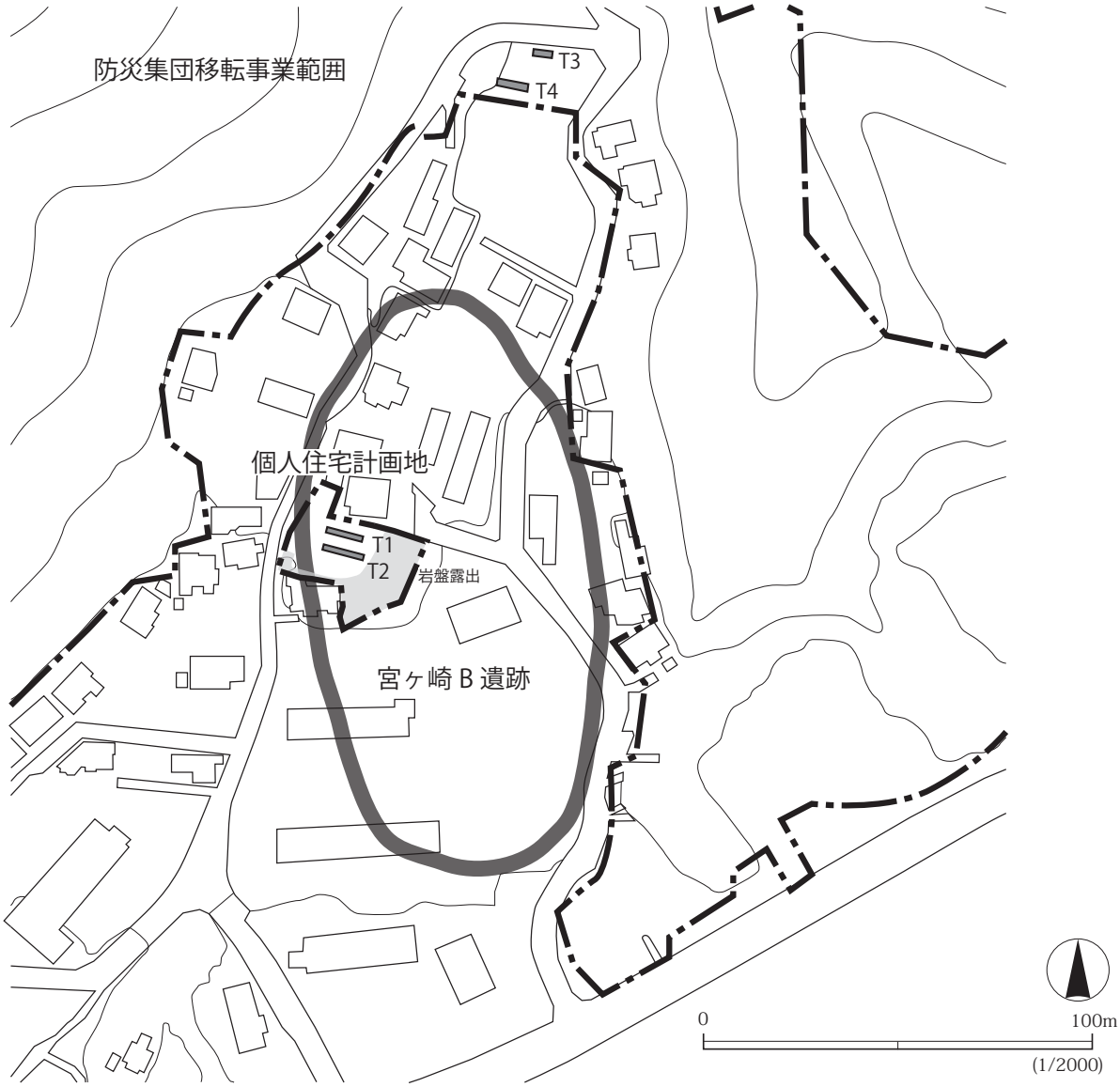
計画地は遺跡範囲の中央西側に位置し，現況は空閑地となっている。計画地南東側は岩盤が露出しており，以前の宅地造成の際に地形が大きく改変されたとみられる。

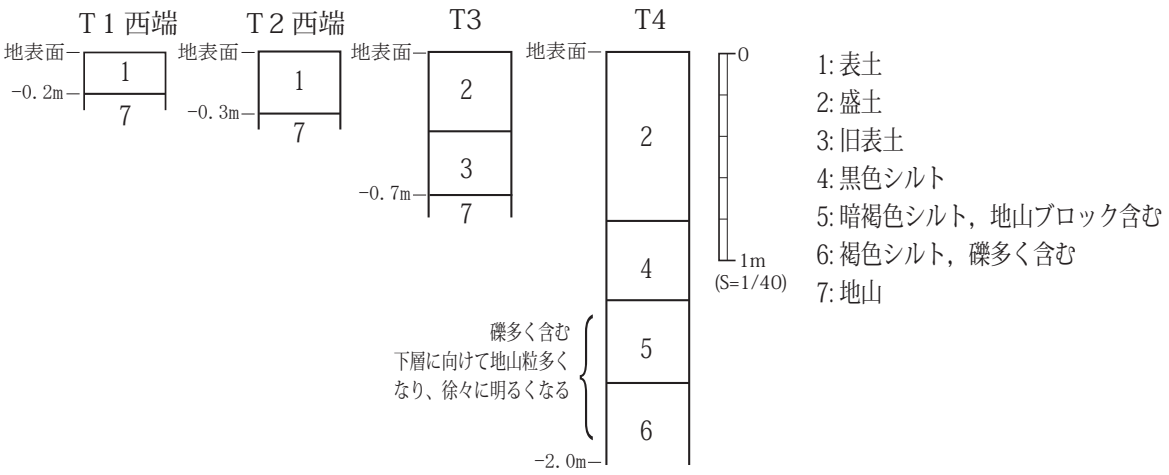
調査では計画地西側に 2 本のトレンチ（T1・T2）を設定し，20㎡を調査した。その結果，両トレンチとも表土から 0.2 ～ 0.3 m下げた段階で岩盤を確認し，遺構・遺物は確認されなかった。従って，計画地に遺構が存在する可能性は低いと判断し，調査を終了した。

B．防災集団移転促進事業

事業計画は遺跡の北側隣接地において防災集団移転地へ接続する道路の拡幅と，仮設切り回し道路の施工をおこなうものである。

調査では，道路拡幅計画範囲と仮設切り回し道路計画範囲の中央に各 1 本のトレンチ（T3・T4）を設定し，20㎡を掘削した。その結果，T3 では地表面から 0.7 m下げたところで地山を確認した。一方，T4 は礫を含む湿地性の黒色シルト層などが深さ 2.0 m以上堆積していた。両トレンチで遺構・遺物が





第３図　宮ヶ崎 B 遺跡調査地点とトレンチ配置図・柱状図

写真１　計画地遠景（西から）

写真２　個人住宅計画地（南から）

写真３　T1（西から）

写真４　T2（西から）

写真５　防災集団移転事業調査前風景（東から）

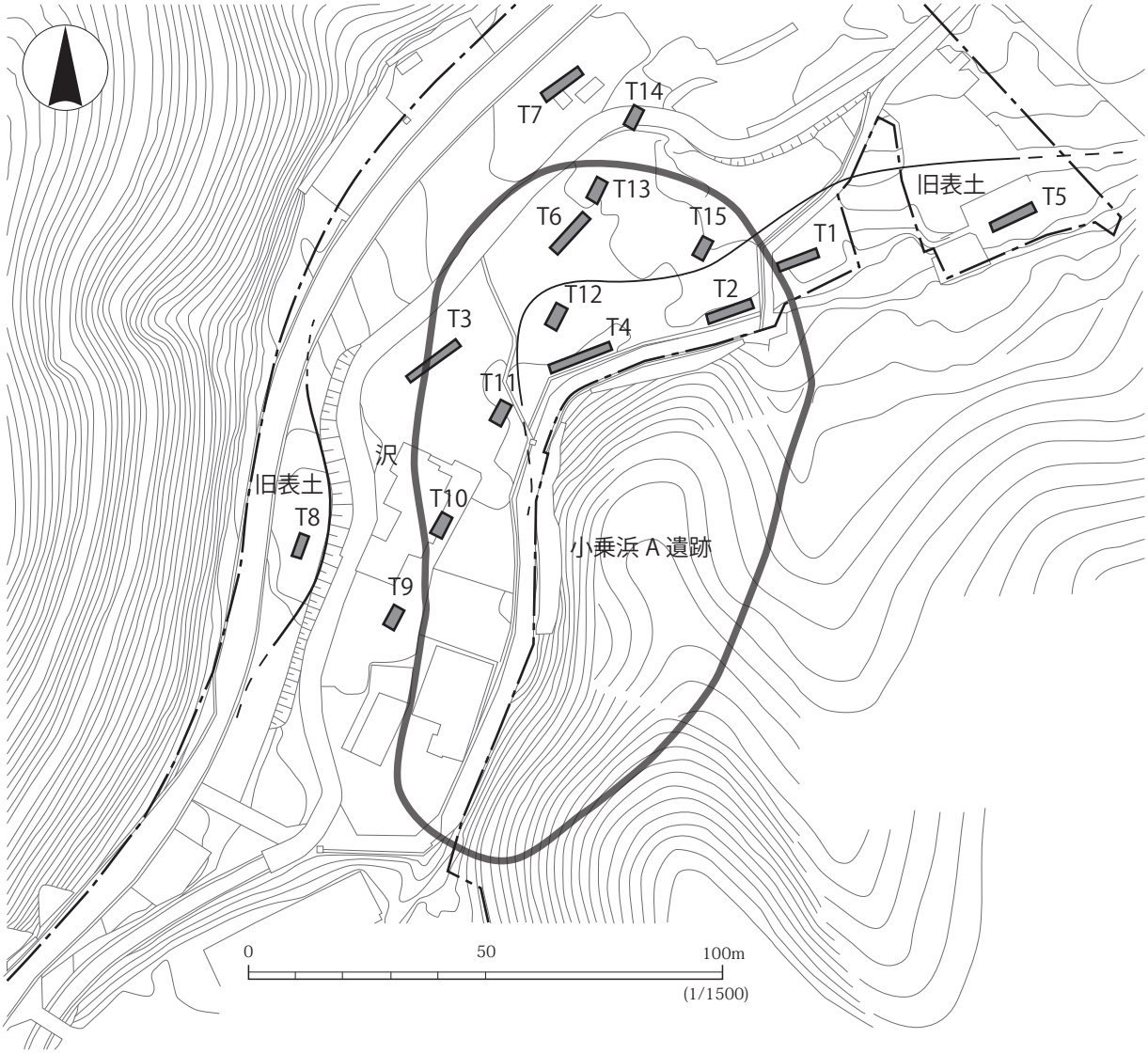
写真６　T4 全景（西から）

第４図　宮ヶ崎 B 遺跡調査写真

確認されなかったことから，遺跡は計画範囲まで広がらないと判断し，調査を終了した。

２．小乗浜Ａ遺跡　【位置：P5-6 第２図 C-4(№30)】

〔遺跡名〕小乗浜Ａ遺跡（県遺跡地名表登載番号：73022）
〔所在地〕小乗浜字向
〔調査原因〕被災市街地復興土地区画整理事業（小乗浜地区）
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕宮城県教育委員会，女川町復興推進課
〔調査担当〕古田和誠（女川町生涯学習課生涯学習係，宮城県派遣），福沢佳典（同，長野県松本市派遣）



第5図　小乗浜A遺跡調査地点とトレンチ配置図

平塚和己，阿部孝雄，阿部達至（女川町生涯学習課生涯学習係）
佐藤憲幸，黒田智章（宮城県教育庁文化財課）

〔調査期間〕平成26年2月16･17日，平成30年5月8日
〔対象面積〕10，000㎡
〔調査面積〕196㎡

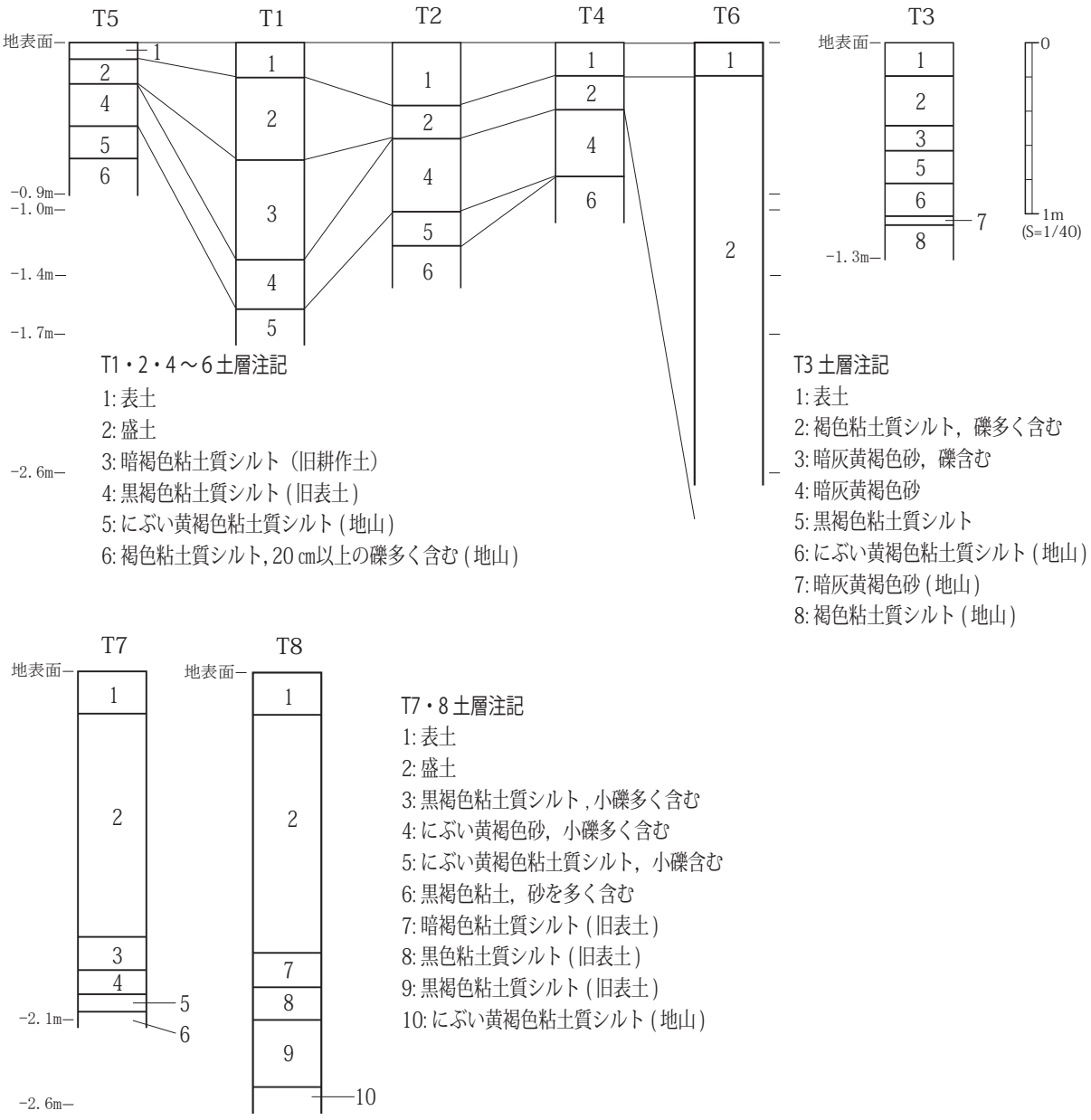
（1）調査に至る経緯

牡鹿郡女川町小乗浜字向に所在する小乗浜A遺跡は，女川湾にむかって北東方向にのびる丘陵尾根の先端と，東西を尾根に挟まれた沢上に立地し，標高10m前後の地点で東西50m，南北100mの範囲に広がる。震災以前は宅地であり，その前は畑地として利用されていたとのことである。過去に縄文土器が採集できたことから（女川町誌編纂委員会1991），縄文時代の散布地として登録されている。

この小乗浜A遺跡では，東日本大震災の津波被害後，被災市街地土地復興区画整理事業が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

（2）調査の概要

事業計画は小乗浜A遺跡範囲西側のおよそ半分で行われることから，事業範囲全体に計15本のトレ



第６図　小乗浜 A 遺跡柱状図

ンチ（T1 ～ T15）を設定し，196㎡を調査した。

その結果，東側丘陵に近い T1・T2・T4・T5 と，西側丘陵に近い T8 では，宅地の盛土・旧畑地耕作土の下で旧表土を確認した。一方，沢の中央付近に設定した T3・T6・T9 ～ T11・T13・T14 では礫を多く含む褐色粘土質シルトが広がっており，近現代まで開発が及ばなかったと考えられる。とりわけ，T6･T13 付近は沢の最深部とみられ，現在の地表面まで 2.6 m以上盛土されていた。丘陵側を含め，全てのトレンチで遺構・遺物は確認されなかった。従って，対象地では過去に縄文土器が採集されているが，それらは流れ込みの可能性が高く，遺跡の本体は東側丘陵上に想定しておきたい。以上の結果から，大部分が沢であり，計画範囲に遺構が存在する可能性は低いと判断し，調査を終了した。

写真１　調査区遠景北側（南西から）

写真２　調査区遠景（北西から）

写真３　T1 全景（南東から）

写真４　T2 全景（北東から）

写真５　T3 全景（北東から）

写真６　T5 全景（南西から）

写真７　T3 全景（南西から）

写真８　T8 全景（東から）

第７図　小乗浜Ａ遺跡調査写真

3．日蕨C遺跡　【位置：P5-6 第2図 C-3(№23)】

〔遺跡名〕日蕨C遺跡（県遺跡地名表登載番号：73049）
〔所在地〕清水町，女川浜字日蕨
〔調査原因〕被災市街地復興土地区画整理事業（清水・日蕨地区）
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査担当〕古田和誠（女川町生涯学習課生涯学習係，宮城県派遣）
〔調査期間〕平成27年6月1日
〔対象面積〕8，700㎡
〔調査面積〕75㎡

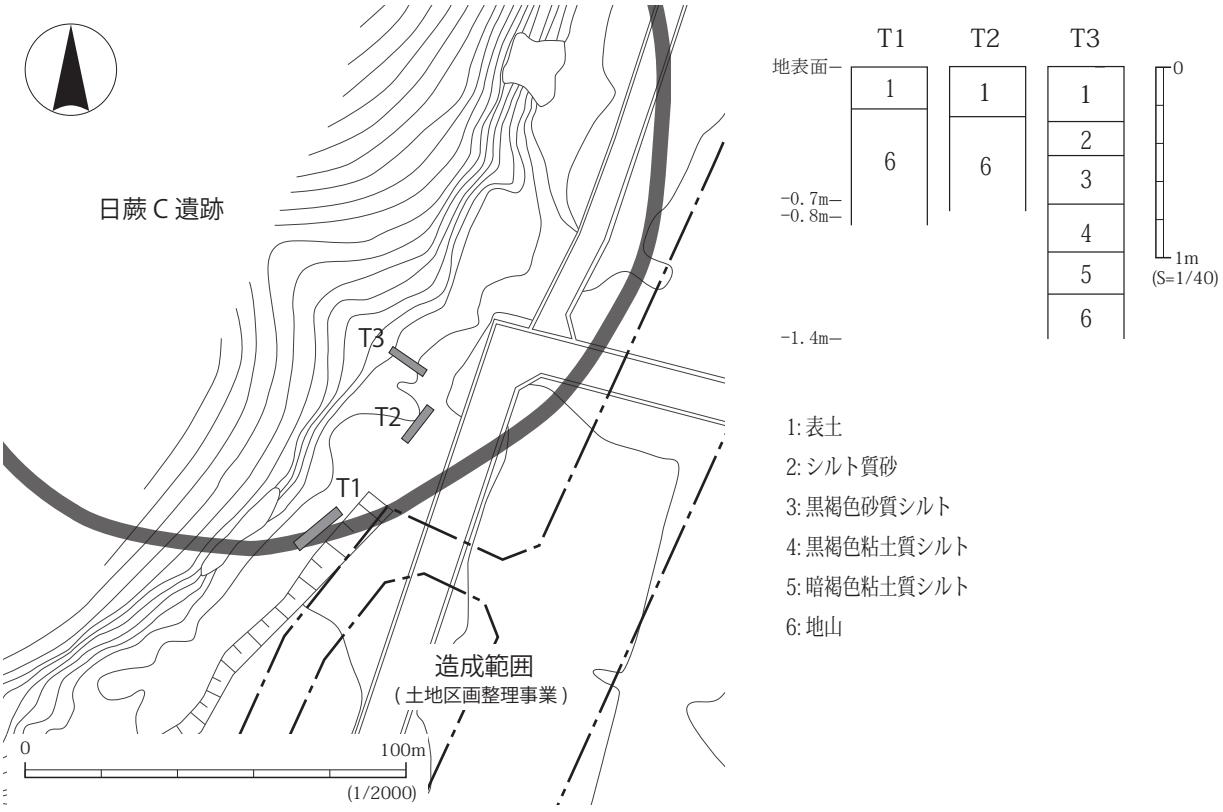
（1）調査に至る経緯

牡鹿郡女川町清水町，女川浜字日蕨に所在する日蕨C遺跡は，女川湾から北東に約1.2ｋｍ離れた丘陵南東斜面に立地し，標高10ｍ前後の地点で東西40ｍ，南北40ｍの範囲に広がる。東日本大震災以前は宅地であったが，現在は荒地となっている。過去に土師器が採集されていることから，奈良・平安時代の散布地として登録されている。調査対象地点周辺の地形は丘陵側で岩盤の露出が複数箇所認められたことから，宅地造成の際に丘陵先端部が大きく削平・改変されたものとみられる。

この日蕨C遺跡では，東日本大震災の津波被害後，被災市街地復興土地区画整理事業が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

（2）調査の概要

調査では，事業計画に遺跡範囲の一部がかかることから，遺跡本体のある西側丘陵に近く，調査が可能な場所で，丘陵裾の平坦部に2本（T1・T2），丘陵に入る沢部分に1本（T3），計3本（75㎡）のトレンチを設定し，遺跡の広がりを確認した。



第8図　日蕨C遺跡調査地点とトレンチ配置図

写真１　調査前風景（南東から）

写真２　T1 全景（南西から）

写真３　T2 全景（南から）

写真４　T3 全景（南東から）

第９図　日蕨 C 遺跡調査写真

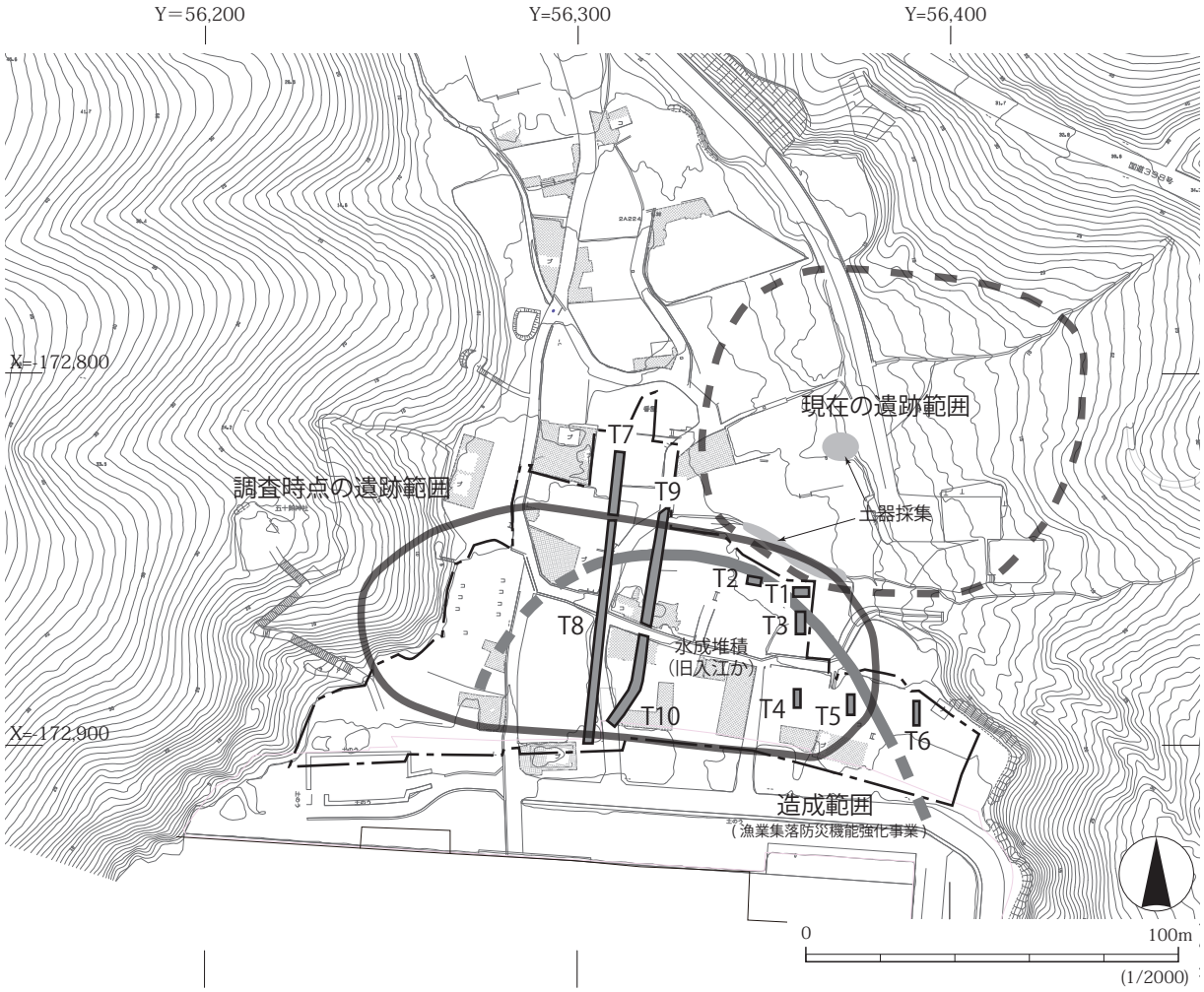
調査の結果，T1・T2 では表土直下で礫を含む地山を確認した。また，T3 では黒褐色砂質シルトなどの自然堆積層を確認したが，全てのトレンチで遺構・遺物は確認されなかった。調査の結果から，計画範囲まで遺跡が広がる可能性は低いと判断し，調査を終了した。

４．桐ヶ崎遺跡　【位置：P5-6 第２図 D-3(№33)】

〔遺跡名〕桐ヶ崎遺跡（県遺跡地名表登載番号：73060）
〔所在地〕桐ヶ崎字桐ヶ崎
〔調査原因〕漁業集落防災機能強化事業（桐ケ崎地区）
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕宮城県教育委員会，女川町復興推進課
〔調査担当〕平塚英一，平塚大輔（女川町生涯学習課生涯学習係）
　　豊村幸宏，初鹿野博之，古田和誠（宮城県教育庁文化財保護課）
〔調査期間〕平成 28 年 4 月 20 日，7 月 1 日，8 月 2 日，8 月 30 日
〔対象面積〕9，000㎡
〔調査面積〕219㎡

（１）調査に至る経緯

牡鹿郡女川町桐ヶ崎字桐ヶ崎に所在する桐ヶ崎遺跡は，女川湾にむかって南北方向にのびる丘陵尾根の裾部から海岸線に向かって沢状に広がる平坦部に立地し，東西 100 m，南北 90 mの範囲に広がる。震災以前は尾根裾部が山林，平坦地が宅地と漁港であったが，震災後は平坦地が荒地となっている。震災後の分布調査によって縄文土器が採集されていることから，縄文時代の散布地として登録されている。



第 10 図　桐ヶ崎遺跡調査地点とトレンチ配置図

この桐ヶ崎遺跡では，東日本大震災の津波被害後，漁業集落防災機能強化事業が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

（2）調査の概要

事業計画は遺跡の隣接地で，切土・盛土による区画整理，水路の掘削を行うものである。調査時点での遺跡範囲は計画範囲の中央に所在していたが，調査前に分布調査を行ったところ，丘陵裾部で遺物が採集されたため，土器の採集地点に近いところを中心に 6 本のトレンチ（T1 ～ T6）と，水路部に 4 本（T7 ～ T10）のトレンチを設定し，約 219㎡を調査した。

その結果，T1・T7 を除くトレンチで近現代の盛土直下に水成堆積層が広がることを確認した。従って，宅地・漁港としての造成以前は入り江であったと考えられる。一方，T1・T7 は表土直下に丘陵部からのびる礫混じりの黄褐色粘土層による地山を確認した。全てのトレンチで遺構は確認しなかった。T1 で縄文土器 2 片が出土したが，摩耗した小破片であることから，丘陵裾部からの流れ込みとみられる。

以上の結果より，事業計画が遺跡に与える影響は低いと判断し，調査を終了した。なお，調査時点まで遺跡とされていた範囲は入り江であったことが判明したため，調査後に土器の採集されている丘陵側へ範囲の変更を行っている。

写真１　調査前風景（南から）

写真２　T１全景（南東から）

写真３　T２全景（南から）

写真４　T３全景（北東から）

写真５　T４全景（北東から）

写真６　T5 全景（北西から）

第 11 図　桐ヶ崎遺跡調査写真

５．崎山遺跡　　【位置：P5-6 第２図 C-3(№ 28)】

〔遺跡名〕崎山遺跡（県遺跡地名表登載番号：73015）
〔所在地〕石浜字崎山
〔調査原因〕漁港海岸保全施設整備事業（防潮堤建設）
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕宮城県教育委員会，宮城県東部地方振興事務所
〔調査担当〕平塚英一，阿部達至（女川町生涯学習課生涯学習係）
　　初鹿野博之（宮城県教育庁文化財保護課）
〔調査期間〕平成 28 年９月７日

〔対象面積〕240㎡
〔調査面積〕12㎡

（1）調査に至る経緯

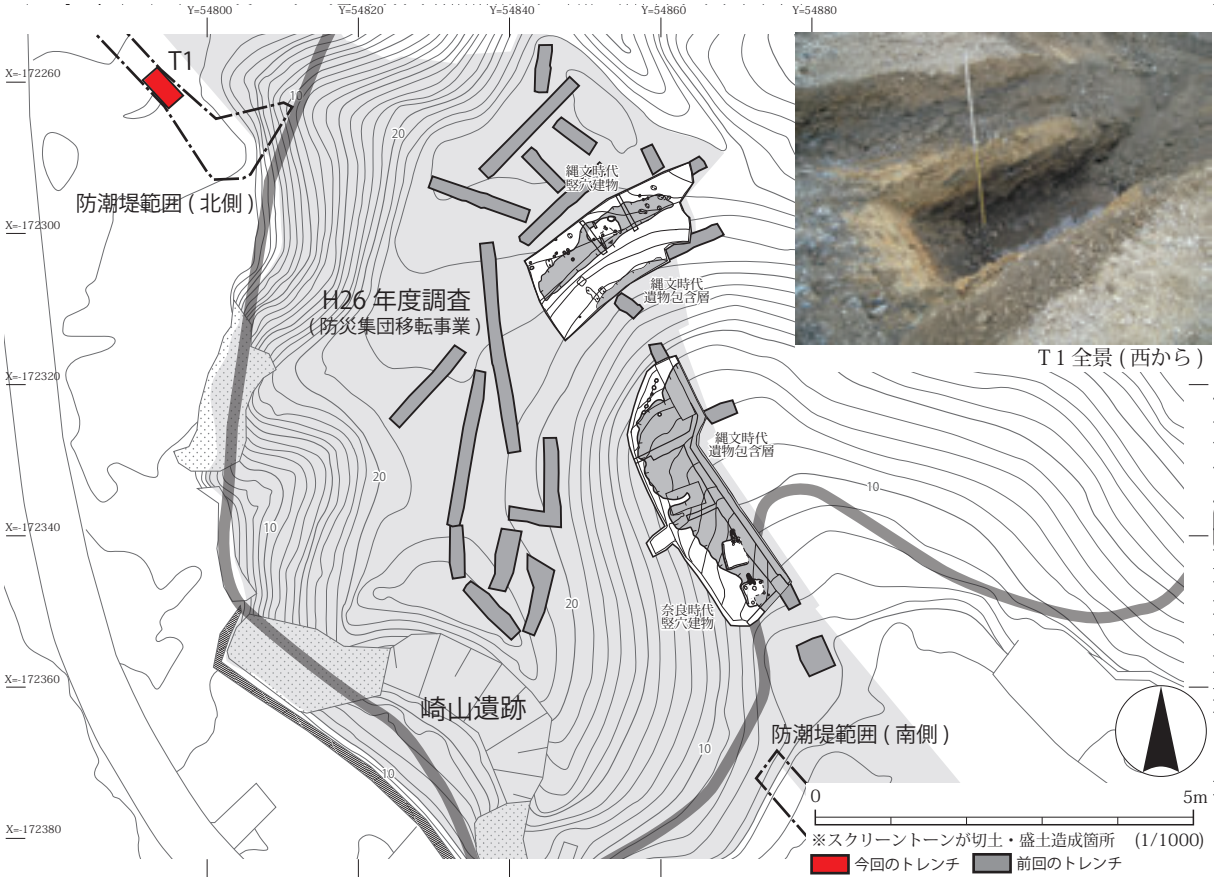
牡鹿郡女川町石浜字崎山に所在する崎山遺跡は，女川湾にむかって南北方向突き出た丘陵先端の東側斜面に立地し，標高 7 ～ 20 mの地点で東西 100 m，南北 80 mの範囲に広がる。現況は西側が漁港用地，東側が山林となっている。平成 25 年度の被災市街地復興土地区画整理事業に係わる発掘調査では，縄文時代前期初頭から後期前葉の遺物包含層と，石組みカマドを有する奈良時代の竪穴建物跡が確認され（女川町 2018），縄文時代前期から後期と奈良時代の集落跡として登録されている。

この崎山遺跡では，東日本大震災の津波被害後，漁港海岸保全施設整備事業（防潮堤建設）が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

（2）調査の概要

事業計画は遺跡の南北両側で丘陵に接続する防潮堤を建設するもので，平成 25 年度調査区を挟んだ北・南側急斜面に位置する。しかし，南側の計画範囲では防潮堤の建設が調査に先立って着工されたため，関係機関から経緯を聴取するとともに，北側の計画範囲のみ確認調査を実施した。調査では計画範囲の中央に 1 本のトレンチ（T1）を設定し，12㎡を調査した。

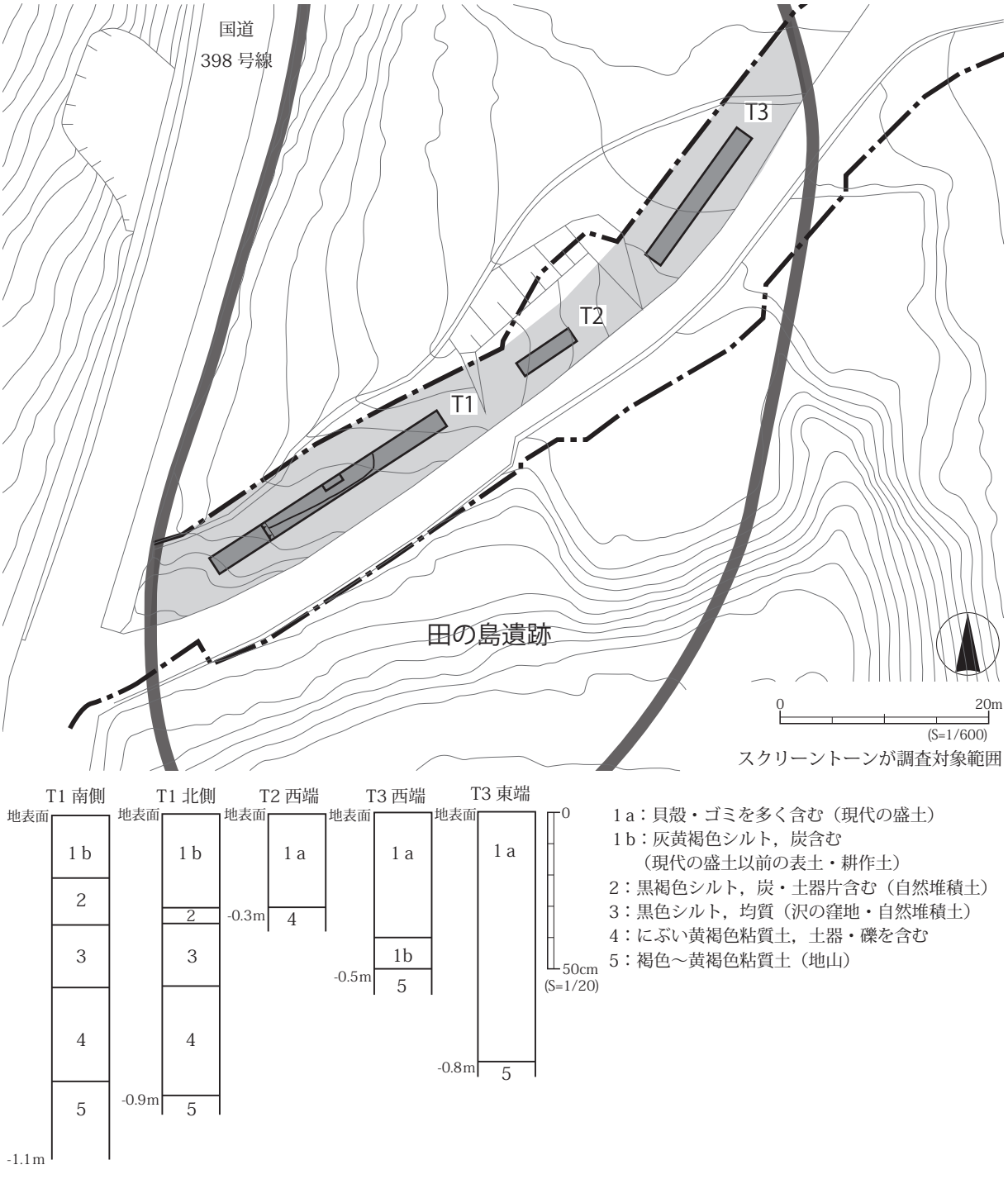
その結果，漁港造成時とみられる盛土直下の地表面から約 1.3 m掘り下げたところで，海浜性の円礫層が広がることを確認した。遺構・遺物は確認されなかった。既に工事着工されていた南側についても同様の地形であることから，漁港造成以前の計画地は浜であり，遺跡本体のある丘陵が海へ突き出た景観であったと考えられる。従って，南側についても遺跡が広がる可能性が低いと判断し，調査を終了した。



第 12 図　崎山遺跡調査地点・調査写真

6．田の島遺跡　【位置：P5-6 第 2 図 D-2(№ 38)】

〔遺跡名〕田の島遺跡（県遺跡地名表登載番号：73009）
〔所在地〕御前浜字御前
〔調査原因〕漁業集落防災機能強化事業（御前浜地区）
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕宮城県教育委員会，女川町復興推進課
〔調査担当〕平塚英一（女川町生涯学習課生涯学習係）
豊村幸宏，初鹿野博之（宮城県教育庁文化財保護課）



第 13 図　田の島遺跡調査地点とトレンチ配置図・柱状図

写真 1　調査前風景 (南西から)

写真 2　T1 全景 (南西から)

写真 3　T1 北側断面 (北西から)

写真 4　T2 全景 (南西から)

写真 5　T3 全景 (南西から)

写真 7　T3 西側断面 (北から)

第 14 図　田の島遺跡調査写真

〔調査期間〕平成 29 年 3 月 28 日
〔対象面積〕600㎡
〔調査面積〕80㎡

（1）調査に至る経緯

牡鹿郡女川町御前浜字御前に所在する田の島遺跡は，御前湾にむかってのびる丘陵の裾部に立地し，標高 5 ～ 15 mの地点で東西 150 m，南北 70 mの範囲に広がる。現況は畑地となっており，縄文土器（大木 1・5，南境式期），ロクロ調整土師器が採集されていることから，縄文時代前・後期と平安時代の散布地として登録されている。

この田の島遺跡では，東日本大震災の津波被害後，漁業集落防災機能強化事業が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

（2）調査の概要

事業計画は遺跡範囲の中央を東西方向に横断する道路の拡幅を行うもので，道路の拡幅部で遺跡に含まれる位置に 3 本のトレンチ（T1 ～ T3）を設定し，約 80㎡を調査した。

その結果，T1・T3 のトレンチでは現代の盛土・耕作土層（第 1 層 a・b）直下で，黒色から黒褐色シルトの自然堆積土（第 2 ～ 3 層）が広がり，その下では，礫を含むにぶい黄褐色の粘土で沢に由来する堆積層（第 4 層），黄褐色粘土を中心とする地山（第 5・6 層）を確認した。一方，T2 では第 2・3 層がみられず，第 1 層直下で第 5・6 層が広がっていた。

遺物は，T1 の第 2 層から縄文時代中～後期とみられる土器小破片が 10 点程度出土した。遺物の出土は散発的で，いずれも摩滅した小破片である。また，隣接する T2･T3 で遺物は確認されなかった。従って，遺物は T1 近辺で部分的に沢の自然堆積土に流入したものとみられる。以上のことから，計画範囲に遺構が存在する可能性は低いと判断し，調査を終了した。

7．飯子浜遺跡　【位置：P5-6 第 2 図 D-6(№ 50)】

〔遺跡名〕飯子浜遺跡（県遺跡地名表登載番号：73050）
〔所在地〕飯子浜字飯子
〔調査原因〕A．飯子浜復興道路工事，B．漁業集落防災機能強化事業（飯子浜地区）
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕宮城県教育委員会，A．宮城県東部土木事務所，B．女川町復興推進課
〔調査担当〕木村善行，平塚大輔（女川町生涯学習課生涯学習係）
　　豊村幸宏，齋藤和機（宮城県教育庁文化財保護課）
〔調査期間〕A．平成 29 年 5 月 8 日，B．平成 30 年 3 月 20 日
〔対象面積〕A．5，230㎡，B．12，584㎡
〔調査面積〕A．57㎡，B．48㎡

（1）調査に至る経緯

飯子浜字飯子に所在する飯子浜遺跡は，五部浦湾にむかって北側にのびる丘陵尾根に挟まれた沢の上流に立地し，標高 5 ～ 15 m前後の地点で，東西 40 m，南北 60 mの範囲に広がる。震災前は宅地･畑地･水田の混在する状況であったが，現況は荒れ地となっている。過去にロクロ調整の土師器が採集されていることから（女川町誌編纂委員会 1991），平安時代の散布地として登録されている。

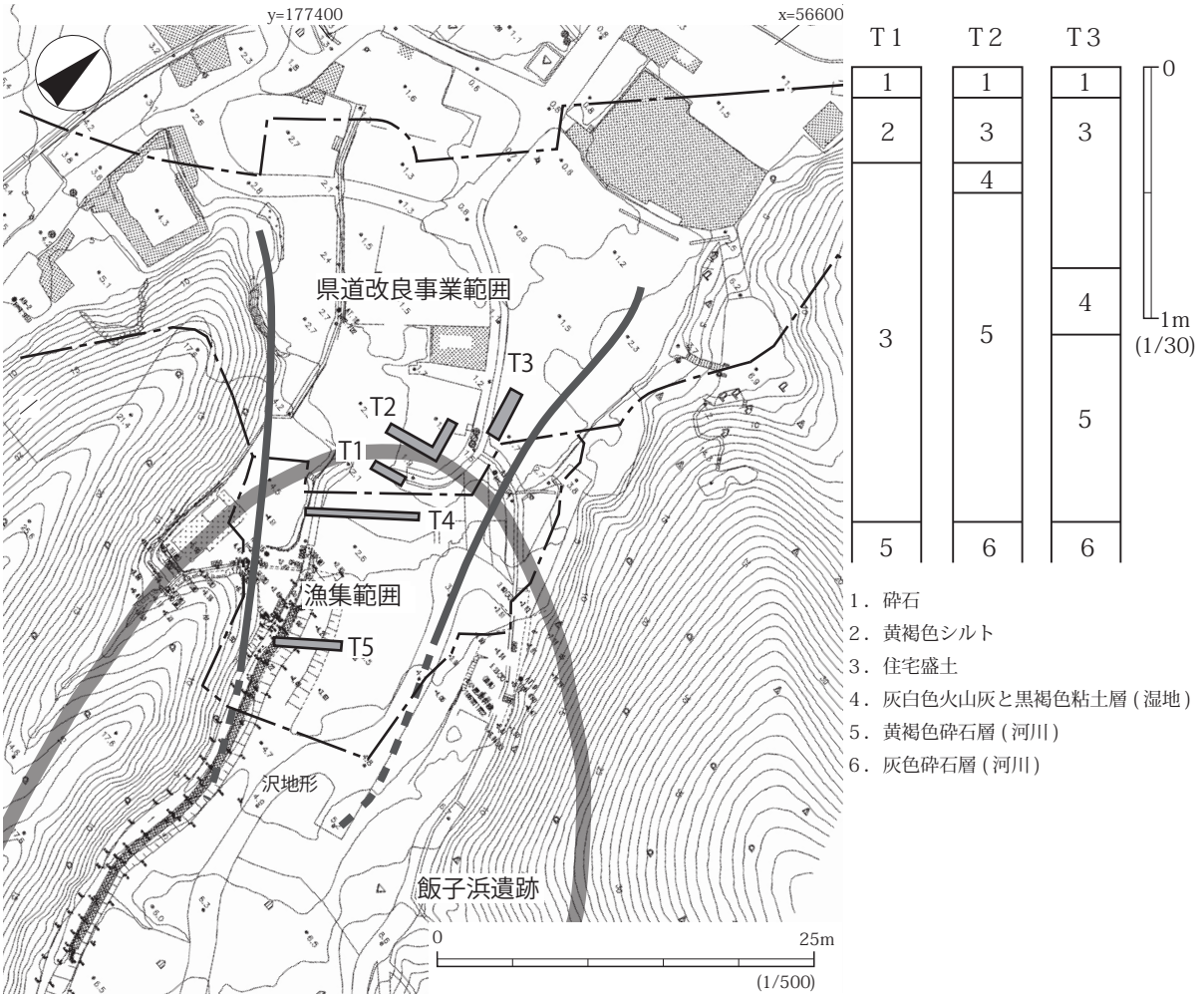
この飯子浜遺跡では，東日本大震災の津波被害後，A．飯子浜復興道路工事，ならびに B．漁業集落防災機能強化事業が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

（2）調査の概要

A．飯子浜復興道路工事

計画範囲が遺跡の北側隣接地にあたることから，遺跡に近い位置に 3 本のトレンチ（T1 ～ T3）を設定し，57㎡を調査した。

その結果，T1 は震災前の住宅盛土直下で黄褐色砂と小礫層が広がっており，沢の堆積土と判断した。一方，T2･T3 では住宅盛土直下で灰白色火山灰（To － A：10 世紀前葉）の一次堆積層（層厚 0.1 ～ 0.2 m）を確認し，その下に，T1 と同じ黄褐色砂と小礫層が広がっていた。黄褐色砂と小礫層はさらに下まで



第 15 図　飯子浜遺跡調査地点とトレンチ配置図・柱状図

続くとみられるが，全てのトレンチで地表面から 2 m程度掘り下げたところ，海水が湧出してきたため，掘削を終了した。遺構・遺物は確認されなかった。

以上のことから，計画地は宅地等で利用される以前には沢が広がっていたと考えられ，火山灰の降下した 10 世紀前葉には T2・T3 を中心とする範囲で波の影響をうけない入り江になっていたとみられる。従って，計画範囲までに遺跡が広がる可能性は低いと判断し，調査を終了した。

B.　漁業集落防災機能強化事業

事業計画は前述の飯子浜復興道路工事の範囲より北側の沢上流部において，盛土による集落道と漁業作業場の造成をするものである。調査は遺跡範囲に含まれるところで集落道造成部に 1 本（T4），造成部に 1 本（T5）のトレンチを設定し，48㎡を調査した。

その結果，両トレンチで T2 とほぼ同じ堆積状況を確認し，部分的に灰白色火山灰の一次堆積がみられた。このことから事業範囲内は沢の中と考えられる。遺物は出土しなかった。従って，計画範囲に遺構が存在する可能性は低いと判断し，調査を終了した。

写真 1　調査前風景 (北から)

写真 2　T1 全景 (南から)

写真 3　T1 断面 (西から)

写真 4　T2 北側 (南から)

写真 5　T2 断面 (東から)

写真 6　T3 全景 (西から)

第 16 図　飯子浜遺跡調査写真

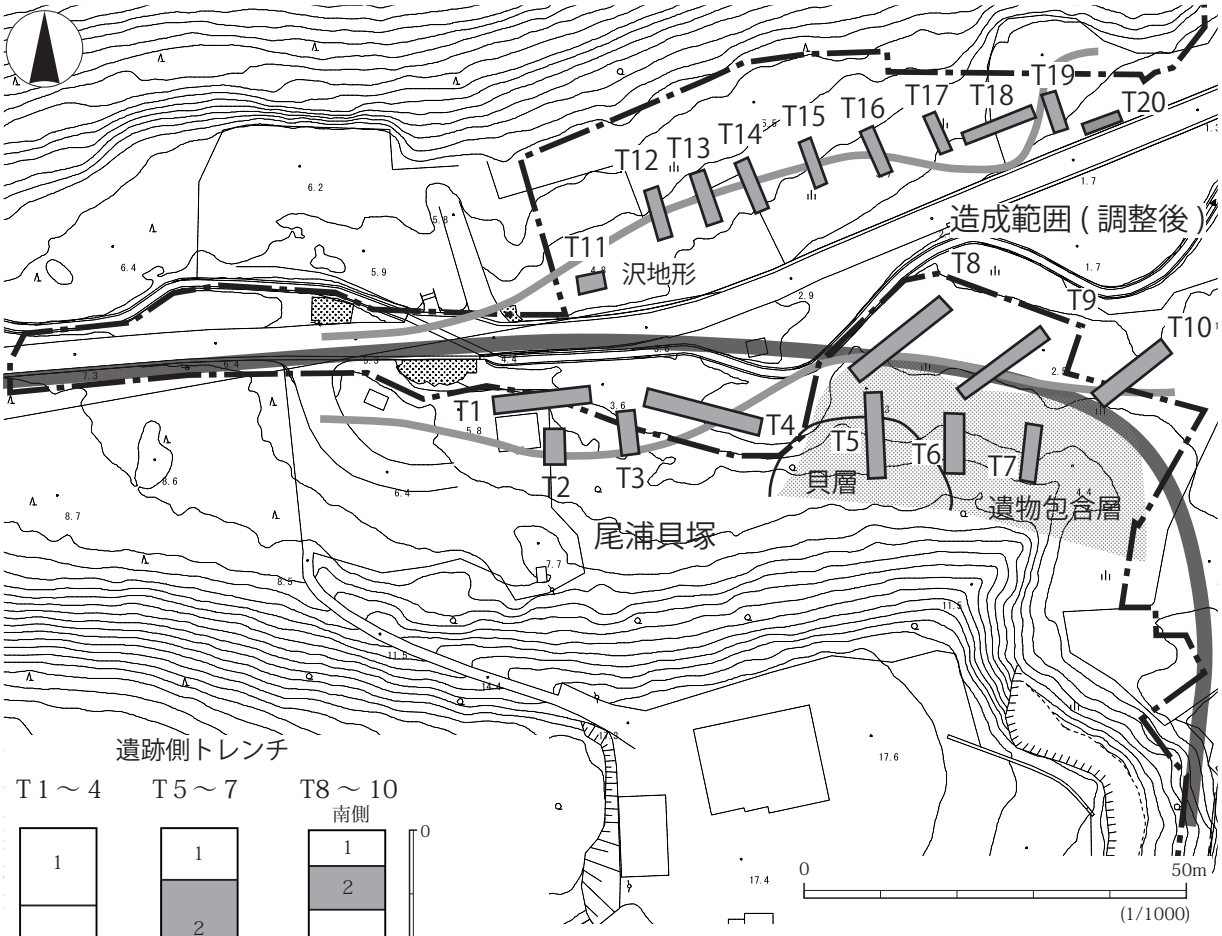
8．尾浦貝塚　【位置：P5-6 第 2 図 E-3(No. 35)】

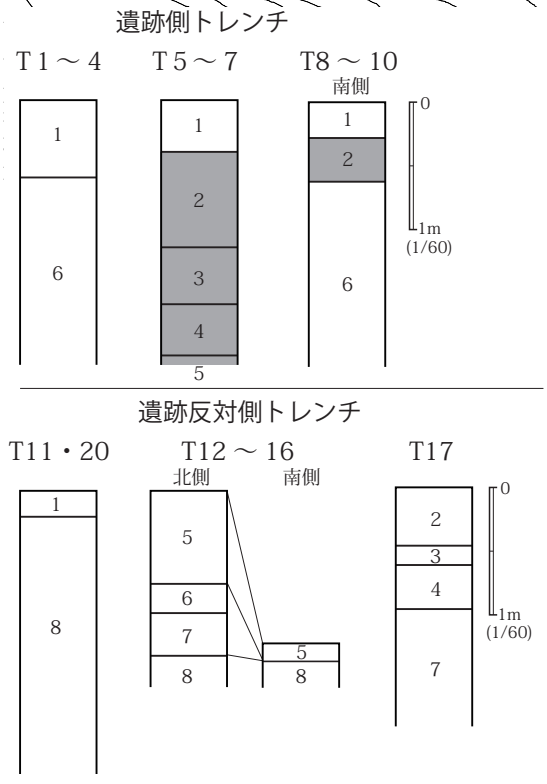
〔遺跡名〕尾浦貝塚（県遺跡地名表登載番号：73002）
〔所在地〕尾浦字尾浦
〔調査原因〕漁業集落防災機能強化事業（尾浦地区）
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕宮城県教育委員会，女川町復興推進課
〔調査担当〕木村善行，阿部孝雄，平塚大輔，阿部達至（女川町生涯学習課生涯学習係）
　　豊村幸宏，佐藤憲幸，齋藤和機，（宮城県教育庁文化財保護課，文化財課）
〔調査期間〕平成 29 年 5 月 18・22 日，平成 30 年 6 月 12 日

〔対象面積〕5，619㎡
〔調査面積〕512㎡

（1）調査に至る経緯

牡鹿郡女川町尾浦字尾浦に所在する尾浦貝塚は，出島に向かい合う湾に接し，東西を軸とする丘陵尾根上に立地する。遺跡は山側の羽黒神社から海岸線に向かう標高 10 m前後の地点で，北東側斜面を中心に東西 300 m，南北 100 mの範囲に広がる。現在は大半が山林となっており，遺跡範囲の一部に住宅，漁具置き場がみられる。これまでに縄文時代前期（大木 1・2a・2b・4・5・6 式期），中期（同 7a・





遺跡側トレンチ (T1 ～ 10) 柱状図
1．表土
2．明黄褐色粘土 (2.5YR 6 /4) 地山ブロック，礫，遺物含む（遺物包含層）
3．暗褐色粘土 (10YR 3 / 3) 地山ブロック，礫，遺物含む（遺物包含層）
4．にぶい黄色粘土 (2.5Y6/3) 山ブロック，礫，遺物含む（遺物包含層）
5．貝層，遺物多い
6．暗褐色礫層 (10YR 3 / 3）角礫主体（河川堆積）

遺跡反対側トレンチ (T11 ～ 20) 柱状図
1．砕石 (表土)
2．黒褐色シルト (2.5Y 3 / 1) 地山ブロック多く含む
3．灰白色火山灰層 (10 世紀前葉・一次堆積)
4．黒褐色粘土質シルト (10Y 3 / 1) 地山ブロック多く含む
5．暗褐色粘土質シルト (10YR 3 / 3) 地山ブロック多く含む
6．黒色シルト (2.5Y 2 / 1) 地山ブロック多く含む
7．黒褐色シルト (2.5Y 3 / 1) 地山ブロック多く含む
8．暗褐色礫層 (10YR 3 / 3）角礫主体（河川堆積)

第 17 図　尾浦貝塚調査地点とトレンチ配置図・柱状図

8a・8b・10 式期），後期（南境式期）土器のほか，動物遺存体（アサリ・カキ・レイシガイ・マグロ・シカ），方孔石，古代の須恵器が採集されていることから（東北歴史資料館 1989，女川町誌編纂委員会 1991 ほか），縄文時代前期から後期の貝塚と古代の散布地として登録されている。

この尾浦貝塚にて，東日本大震災の津波被害後，漁業集落防災機能強化事業が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

（2） 調査の概要

事業計画は遺跡の北側尾根裾部から，隣接する沢に至るまで地表面から 1.0 ～ 1.5 mの盛土と砂利敷き簡易舗装を行うものである。事業計画地のうち遺跡範囲内と隣接地を対象に計 20 本のトレンチ（T

写真 1　調査前風景 (西から)

写真 2　T2 全景 (南から)

写真 3　T3 全景 (北から)

写真 4　T4 全景 (東から)

写真 5　T5 全景 (北から)

写真 7　T5 断面 (北から)

第 18 図　尾浦貝塚調査写真

1 ～ T20）を設定し，512㎡を調査した。トレンチは 10 本（T1 ～ T10）が遺跡のある丘陵側，残り（T11 ～ T20）は遺跡と向かい合う丘陵側に設定している。

＜遺構＞

遺跡のある丘陵側に設定したトレンチのうち，T1 ～ T4 と T8 ～ T10 北側では表土（1 層）直下で暗褐色礫・砂層（6 層：河川堆積層）が地表面から 2.0 m下まで広がっていることを確認した。一方，より遺跡本体に近いところで設定した T5 ～ T7，ならびに T8 ～ T18 南側では，表土と暗褐色礫・砂層（6 層：河川堆積層）の間で，厚さ最大約 2.0 m以上の遺物包含層（2 ～ 4 層）が広がりを確認した。加えて，T5 では遺物包含層の下で貝層（5 層）を確認した。

遺物包含層（2 ～ 4 層）は T5 南側が最も厚く，遺跡のある丘陵側から沢へむかって北方向に緩やかに傾斜し，東西 50 m，南北 20 mの範囲に広がる。暗褐色粘土からにぶい黄色粘土まで大別して 3 層に分層可能で，全ての層から縄文土器が出土した。一方，遺物包含層の下で確認した貝層（5 層）は，T4・T6 で確認できなかったことから，東西 20 m・南北 10 m前後の範囲に収まると考えられる。調査は貝層（5 層）上面までで掘削を止めたため，層厚は不明である。カキを主体とする純貝層で，貝類は破砕していた。魚骨，縄文土器等の出土を伴う。

＜遺物＞

遺物包含層（2 ～ 4 層）と，貝層（5 層）で縄文土器，動物遺存体が出土している。土器の出土量は平箱 1 箱の半分程度である。このうち文様等が特徴的な縄文土器 5 点と，動物遺存体 4 点を図示した。

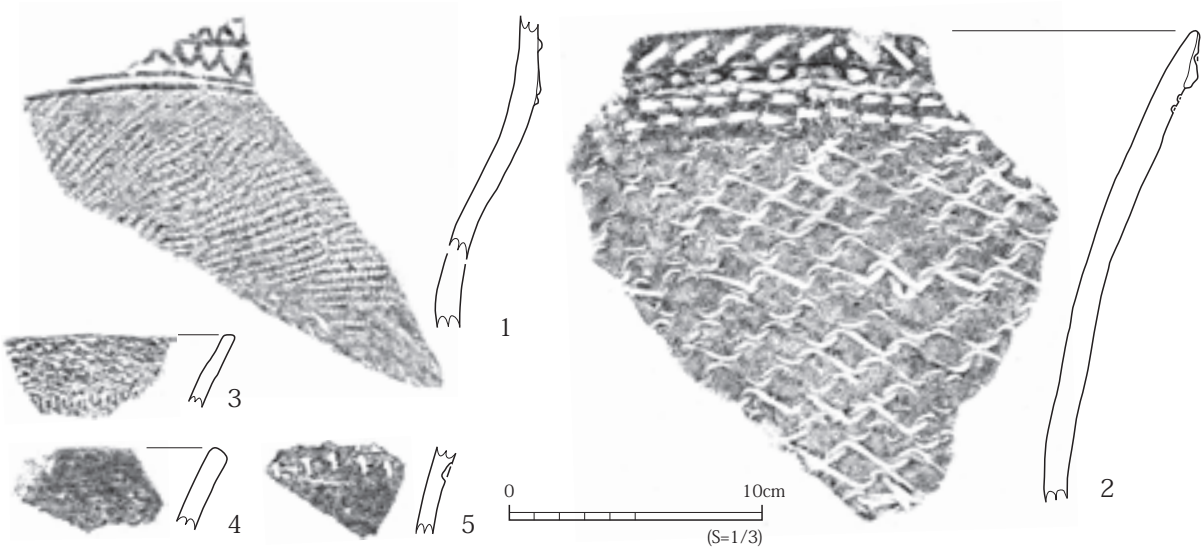
遺物包含層（2 ～ 4 層）出土の遺物のうち，時期が分かるものには 4 層出土の第 19 図－ 1 があり，山形状粘土紐貼付文などの特徴から前期後葉（大木 5 式期）の深鉢と考えられる。従って，4 層が大木 5 式期以降，3・2 層は同時期か，さらに新しいと思われる。

貝層（5 層）上面では，口縁部横位貼付文，体部半截竹管状工具による刺突文・S 字状連鎖撚糸文の特徴から前期前葉（大木 2 式期）とみられる深鉢（第 19 図－ 2）が出土している。同層から出土した土器破片（第 19 図－ 3 ・ 4）に繊維が含まれることから，貝層（5 層）は大木 2 式期前後に形成されたものとみておきたい。このほか，カキに混じってニホンジカ，マグロの骨がわずかに出土している（第 20 図－ 6 ～ 9）。

（3）まとめ

遺跡北東側で認められる遺物包含層（2 ～ 4 層）・貝層（5 層）は，遺物包含層が縄文時代前期後葉以降，前期前葉までに貝層が堆積したと考えられる。堆積方向から判断して，遺跡本体のある丘陵上から沢に向かって廃棄が行われたとみておきたい。これまでに遺跡から採集されている遺物には縄文時代中期・後期の土器があるが，今回の調査で確認した遺物包含層・貝層は，前期を主体としている。加えて，沢向かいに設定した T11 ～ T20 で遺構・遺物が確認できなかったことから，中期から後期には同一丘陵に集落を営みつつも，廃棄は別地点で行われたことが推測される。

以上のことを踏まえて復興推進課と協議した結果，事業計画は遺物包含層の広がる範囲を除外することとなり，遺構の広がる範囲の現状保存が図られた。これにより，計画範囲は沢部分のみとなったため，調査を終了した。



No.	地点	層位	種別	器種	部位	特徴	繊維	登録
1	T5	4	縄文土器	深鉢	体部	(外面) 横位・山形状粘土紐貼付文，斜行縄文 (LR)		尾浦 -P01
2	T5	5 上	縄文土器	深鉢	口縁部	(外面) 刺突文，横位貼付文，刺突 (半截竹管)，S 字状連鎖撚糸文 (0 段)		尾浦 -P02
3	T5	5 上	縄文土器	深鉢	口縁部	(外面) 縄文	含	尾浦 -P03
4	T5	5 上	縄文土器	深鉢	口縁部	(外面) 無文帯	含	尾浦 -P04
5	T5	5 上	縄文土器	深鉢	体部	(外面) 刺突文		尾浦 -P05

第 19 図　尾浦貝塚出土土器実測図

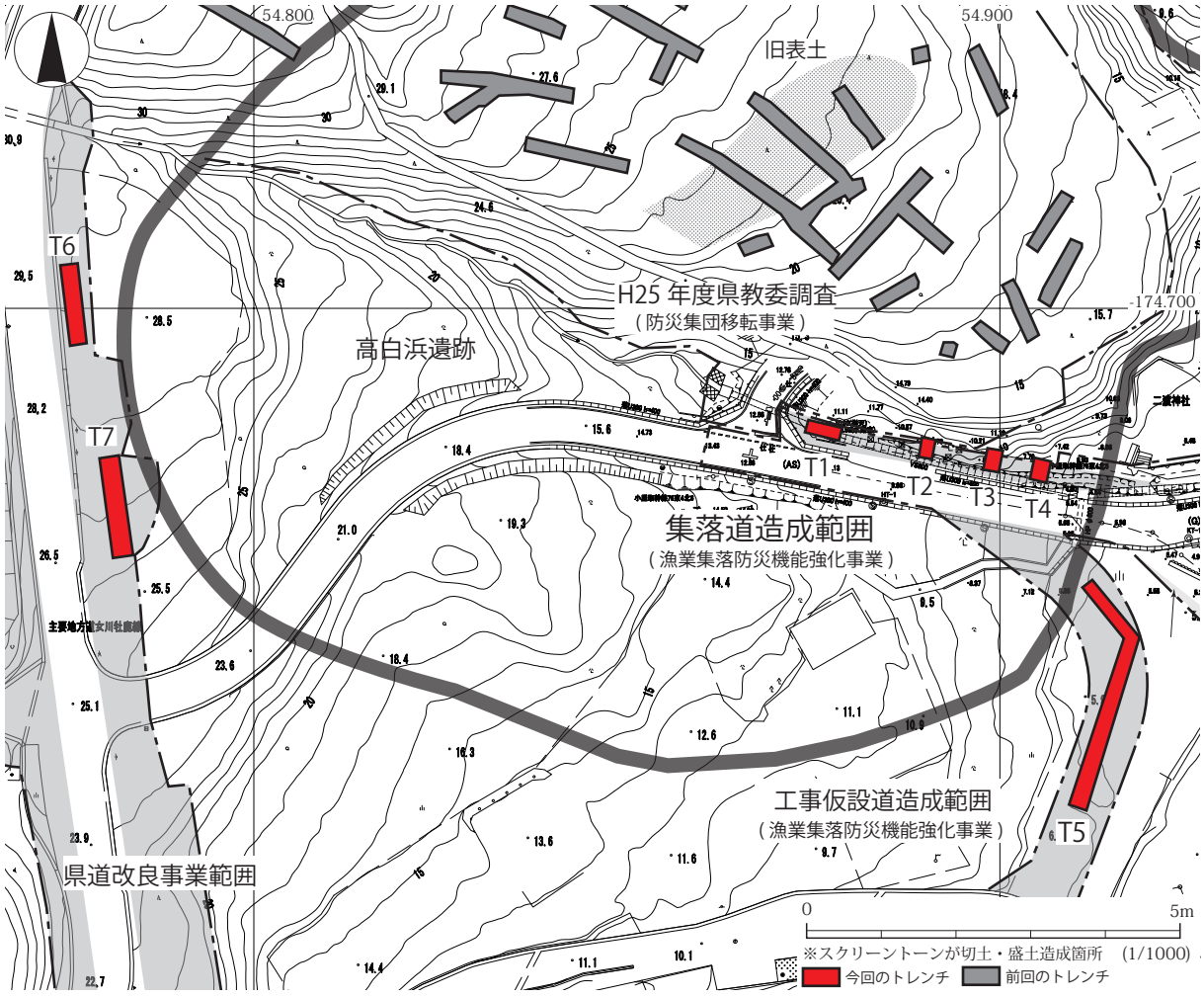
第 20 図　尾浦貝塚出土土器・動物遺存体写真

9．高白浜遺跡　【位置：P5-6 第2図 C-4(№41)】

〔遺跡名〕高白浜遺跡（県遺跡地名表登載番号：73046）
〔所在地〕高白浜字高白
〔調査原因〕A．漁業集落防災機能強化事業（高白浜地区），B．高白浜復興道路工事
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕宮城県教育委員会，A．女川町復興推進課，B．宮城県東部土木事務所
〔調査担当〕木村善行，平塚大輔，阿部達至（女川町生涯学習課生涯学習係）
豊村幸宏，齋藤和機（宮城県教育庁文化財保護課）
〔調査期間〕A．平成29年5月22日，6月15日，B．8月29日
〔対象面積〕3，498㎡
〔調査面積〕A．87㎡，B．22㎡

（1）調査に至る経緯

牡鹿郡女川町高白浜字高白に所在する高白浜遺跡は，女川湾に向かって高崎山から南東にのびる丘陵斜面に立地し，標高10 m～25 mの地点で東西50 m，南北50 mの範囲に広がる。震災前は畑地や山林であったが，平成25年度に防災集団移転事業に伴って遺跡本体とみられる北半分で試掘調査が実施され，現在は宅地となっている。試掘調査では旧表土の広がりと時期不明の土坑・溝跡を確認し，縄文土器・敲石・土師器片が出土している（宮城県教委2015）。また，震災以前には畑地で縄文土器（繊



第21図　高白浜遺跡調査地点とトレンチ配置図

維土器，南境式期），土師器が採集されていることから縄文時代前期・後期，古代の散布地として登録されている。

この高白浜遺跡では，東日本大震災の津波被害後，A．漁業集落防災機能強化事業，ならびに B．高白浜復興道路工事が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

（2）調査の概要

今回の確認調査は，主に遺跡南半部を対象とした。以下，事業ごとに調査の概要を述べる。

写真 1　調査前風景（西から）

写真 2　T3 全景（南から）

写真 3　T5 全景（北から）

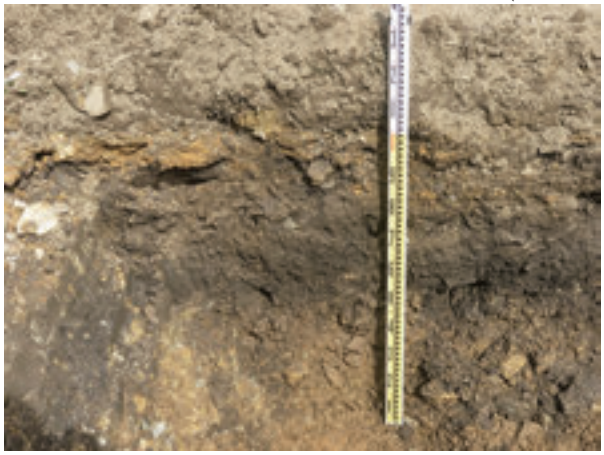


写真 4　T5 断面（西から）

写真 5　T6 全景（南から）

写真 7　T7 全景（南から）

第 22 図　高白浜遺跡調査写真

A. 漁業集落防災機能強化事業

本事業は上記の防災集団移転事業範囲南側で計画され，丘陵の下裾部が対象となっている。事業計画は集落道の拡幅工事・工事用仮設道路を施工するもので，海岸線に向かって下がる緩斜面で地表面から 0.1 ～ 0.2 mの切土・盛土工事を行うものである。調査では拡幅を行う集落道計画範囲に 4 本のトレンチ（T1 ～ T4）と，工事仮設道路計画範囲の中央に 1 本のトレンチ（T5）を設定し，87㎡を調査した。

調査の結果，遺跡本体に近い T1 ～ T4 には，沢の流水を通す暗渠が埋設されていた。暗渠の堀方埋土を除去した丘陵斜面では，表土と，その直下で黄褐色の地山を確認したものの，遺構・遺物はみられなかった。T5 は 1.2 m掘り下げたところ，住宅盛土直下で黄褐色礫・シルト層の地山を認めたが，遺構・遺物は確認できなかった。以上の結果から，計画範囲に遺構が存在する可能性は低いと判断し，調査を終了した。

B. 高白浜復興道路工事

事業計画は丘陵から海岸線へ向かうやや急な斜面で，遺跡西端が一部に含まれる。遺跡に最も近いところで 2 本のトレンチ（T6・T7）を設定し，22㎡を調査した。

その結果，0.8 ～ 1.2 m掘削したところで礫を多く含む黄褐色シルトの地山を認めたが，遺構・遺物は確認しなかった。以上の結果から，計画範囲まで遺跡が広がる可能性は低いと判断し，調査を終了した。

10．横浦 A 遺跡　【位置：P5-6 第 2 図 D-5(№ 43)】

〔遺跡名〕横浦 A 遺跡（県遺跡地名表登載番号：73048）
〔所在地〕横浦字横浦
〔調査原因〕漁業集落防災機能強化事業（横浦地区）
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕宮城県教育委員会，女川町復興推進課
〔調査担当〕阿部孝雄（女川町生涯学習課生涯学習係）
　　佐藤憲幸，黒田智章（宮城県教育庁文化財課）
〔調査期間〕平成 30 年 6 月 14 日
〔対象面積〕486㎡
〔調査面積〕61㎡

（1）調査に至る経緯

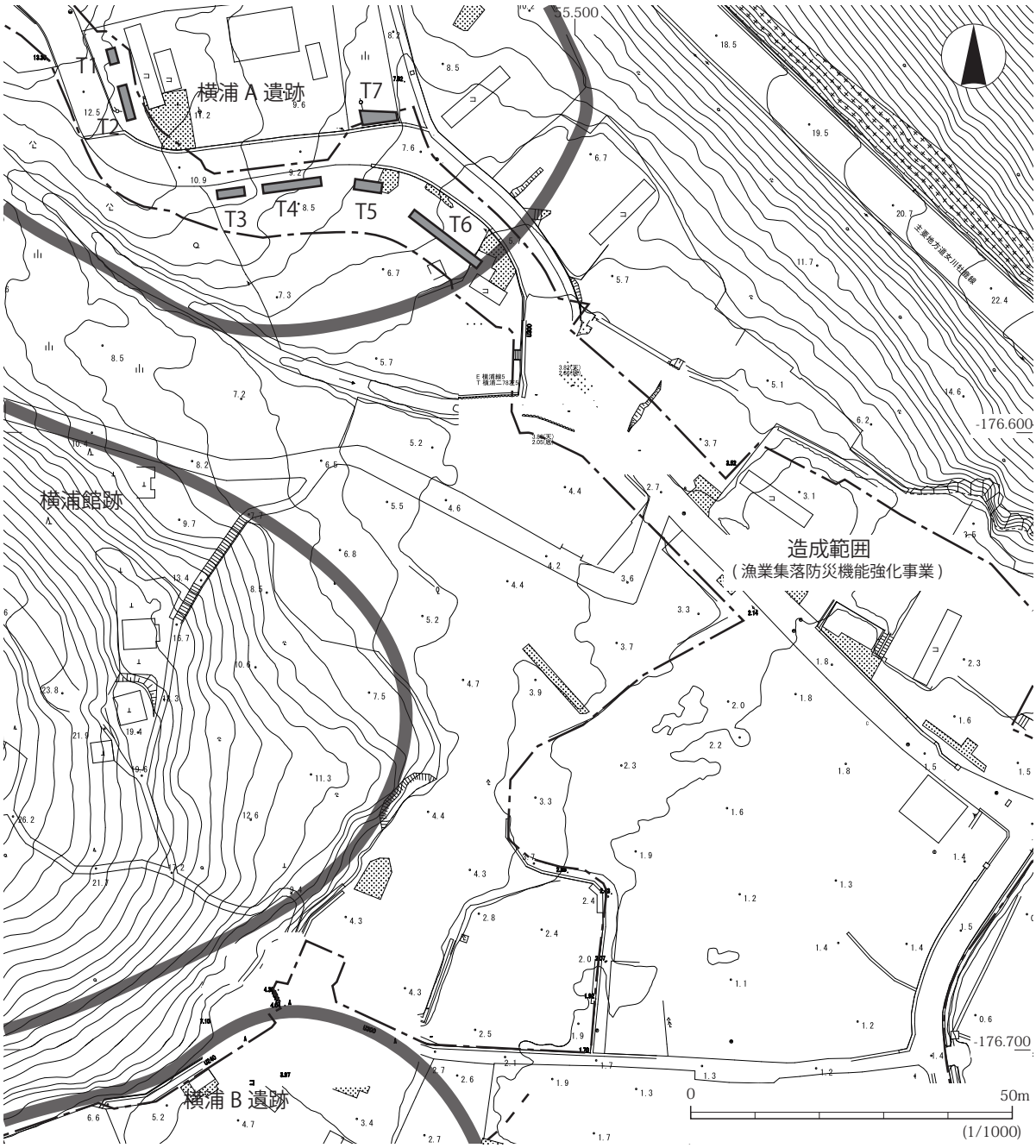
牡鹿郡女川町横浦字横浦に所在する横浦 A 遺跡は，五部浦湾にむかって東側に広がる丘陵尾根に挟まれた沢の上流に立地し，東向き緩斜面の標高 6 ～ 8 m地点で，東西 30 m，南北 40 mの範囲に広がる。震災前は畑地であったが，現況は荒れ地となっている。過去にロクロ調整の土師器が採集されていることから（女川町誌編纂委員会 1991），平安時代の散布地として登録されている。

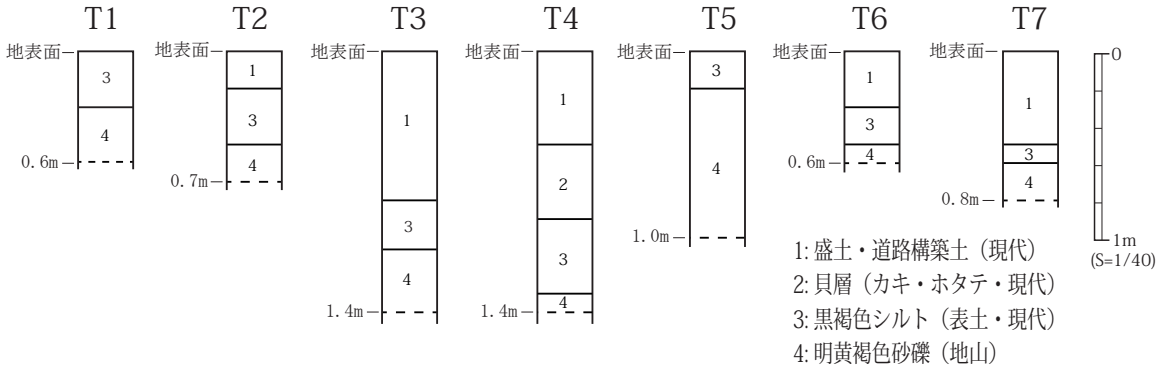
この横浦 A 遺跡では，東日本大震災の津波被害後，漁業集落防災機能強化事業が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

（2）調査の概要

事業計画は遺跡の範囲内から海岸へ向かって，既存道路改良と水路改修が行われるものである。計画範囲のうち遺跡に含まれる道路拡幅部で 7 本のトレンチ（T1 ～ T7）を設定し，約 61㎡を調査した。

その結果，全てのトレンチで，現代の盛土や表土直下で明黄褐色礫の地山を認めたが，遺構・遺物は確認できなかった。以上の結果から，計画範囲に遺構が存在する可能性は低いと判断し，調査を終了した。





第 23 図　横浦 A 遺跡調査地点とトレンチ配置図・柱状図

写真 1　T1 全景 (西から)

写真 2　T2 全景 (西から)

写真 3　T3 全景 (西から)

写真 4　T4 全景 (西から)

写真 5　T5 全景 (西から)

写真 6　T4 断面 (北西から)

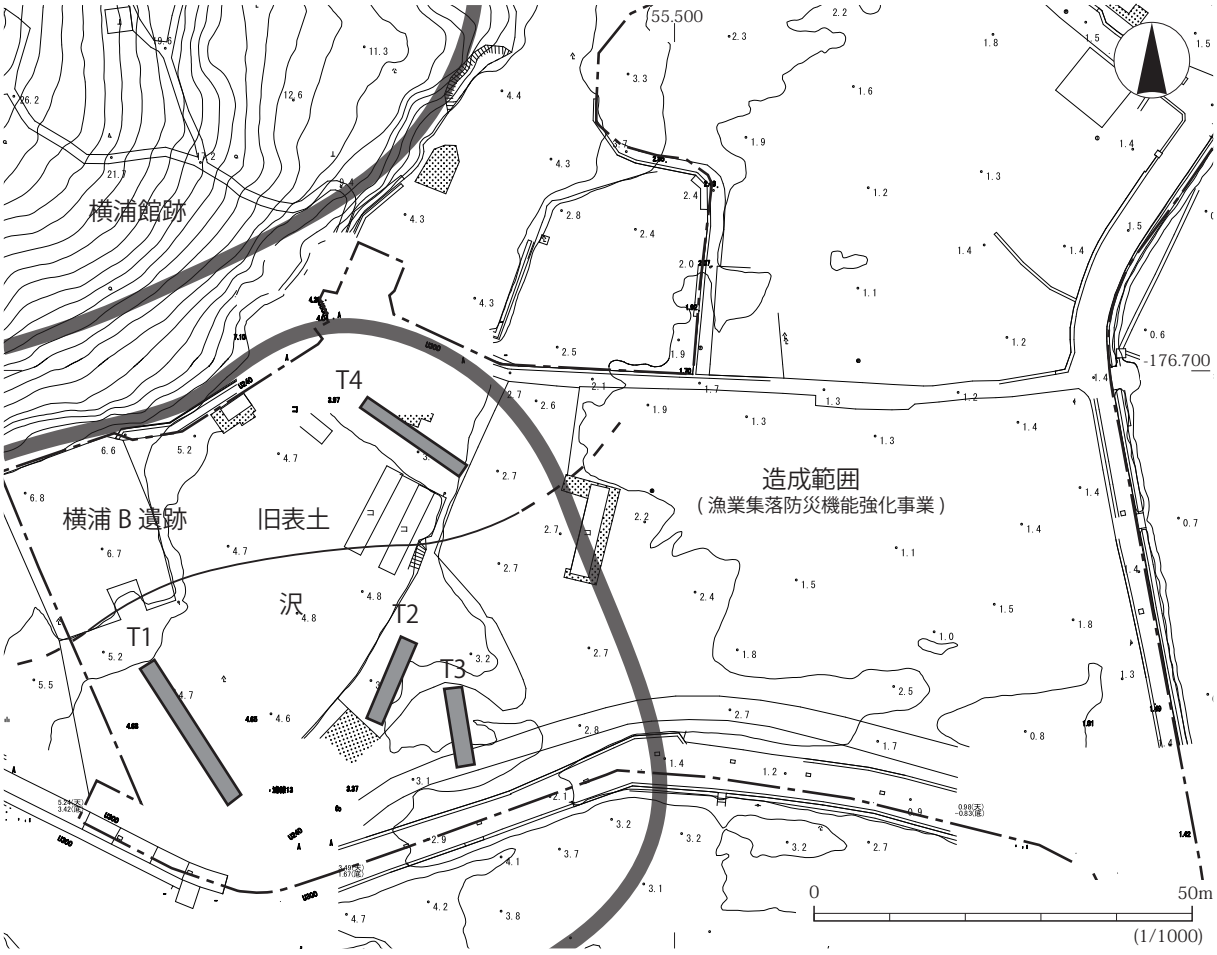
写真 7　T7 全景 (北西から)

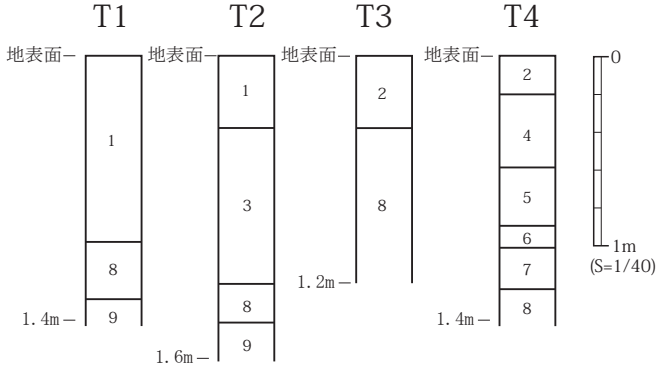
写真 8　調査区全景 (北西から)

第 24 図　横浦 A 遺跡調査写真

11．横浦Ｂ遺跡　　【位置：P5-6 第２図 D-5(№44)】

〔遺跡名〕横浦Ｂ遺跡（県遺跡地名表登載番号：73047）
〔所在地〕横浦字横浦
〔調査原因〕漁業集落防災機能強化事業（横浦地区）
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕宮城県教育委員会，女川町復興推進課
〔調査担当〕木村善行，平塚大輔（女川町生涯学習課生涯学習係）
　　豊村幸宏，齋藤和機（宮城県教育庁文化財保護課）
〔調査期間〕平成 29 年 6 月 7 日
〔対象面積〕4，212㎡
〔調査面積〕73㎡





1: 瓦礫層（現代）
2: 表土（現代）
3: 暗褐色礫層（現代）
4: 暗褐色粘土質シルト（旧表土）
5: 黒褐色粘土質シルト，地山ブロック含む(自然堆積層)
6: 暗褐色シルト（自然堆積層）
7: 黒色粘土（灰白色火山灰ブロック含む）
8: 暗褐色礫層（河川堆積層）
9: 黄褐色礫層（河川堆積層）

第 25 図　横浦 B 遺跡調査地点とトレンチ配置図・柱状図

（1）調査に至る経緯

牡鹿郡女川町横浦字横浦に所在する横浦B遺跡は，五部浦湾にむかって広がる東西方向を軸とした丘陵尾根に挟まれた沢の上流に立地し，東向き緩斜面の標高6～8m地点で東西130m，南北50mの範囲に広がる。震災前は宅地・畑地であったが，現在は漁業作業場として利用されている。過去に畑地で縄文土器（大木9式期）や土師器が採集されていることから，縄文時代中期と古代の散布地として登録されている。

この横浦B遺跡では，東日本大震災の津波被害後，漁業集落防災機能強化事業が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

写真1　T8全景（北から）

写真2　T9全景（北から）

写真3　T10全景（北から）

写真4　T10断面（北から）

写真5　T11全景（北西から）

写真6　T11断面（北東から）

第26図　横浦B遺跡調査写真

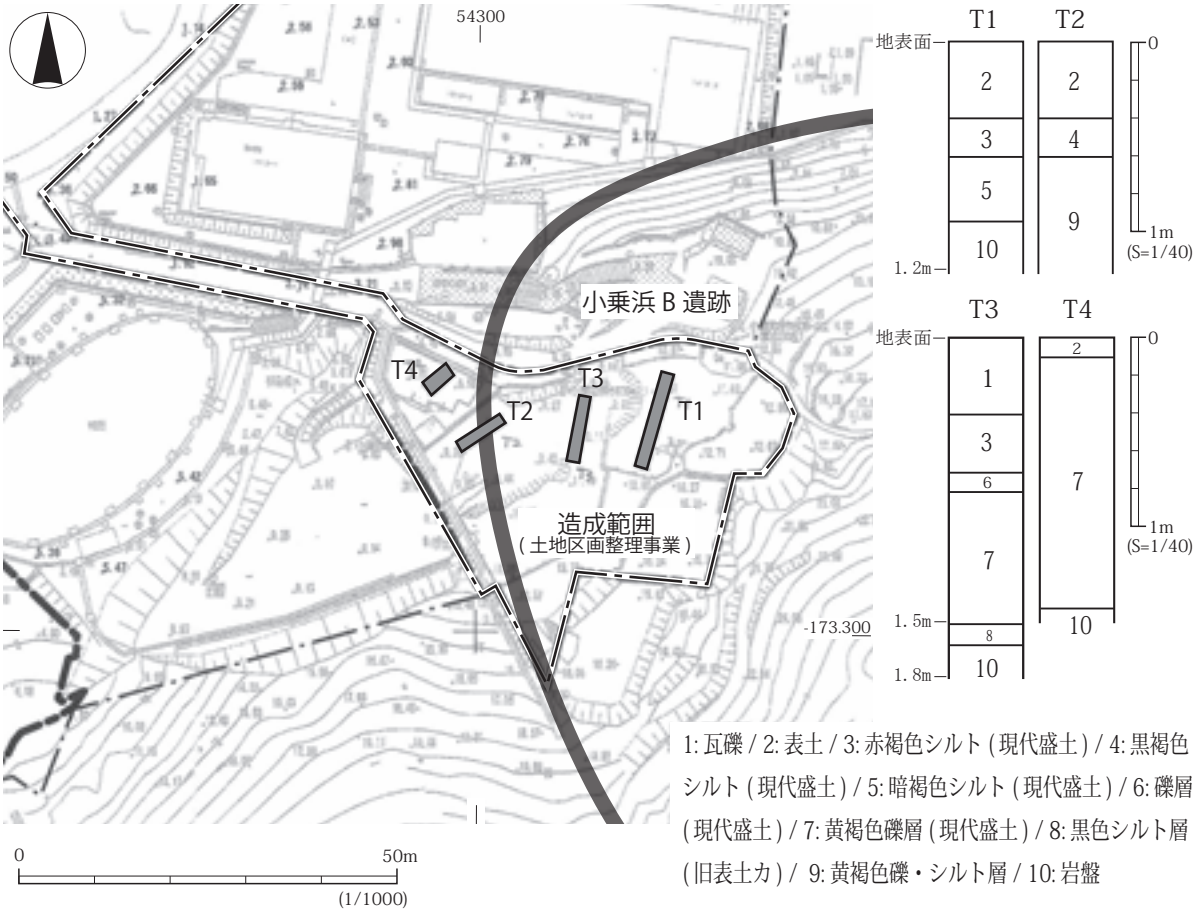
（2）調査の概要

事業計画は集落道の造成と道路周辺の盛土を行うもので，計画範囲内に 4 本のトレンチ（T1 ～ T4）を設定し，73㎡を調査した。

調査の結果，T4 では現代の瓦礫層から表土，礫層の下で旧表土の広がりを確認した。旧表土の下には明黄褐色砂礫の地山を認めたが，遺構遺物は確認しなかった。一方，T1 ～ T3 では現代の地層直下で暗褐色礫層（河川堆積層）が広がっており，遺物は出土しなかった。以上のことから，対象地は現代の造成以前には沢であったと考えられ，遺構が存在する可能性は低いと判断し，調査を終了した。

12．小乗浜 B 遺跡　【位置：P5-6 第 2 図 C-4(№31)】

〔遺跡名〕小乗浜 B 遺跡（県遺跡地名表登載番号：73021）
〔所在地〕小乗浜字向
〔調査原因〕被災市街地復興土地区画整理事業（小乗浜地区）
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕宮城県教育委員会，女川町復興推進課
〔調査担当〕平塚大輔（女川町生涯学習課生涯学習係）
　　豊村幸宏，齋藤和機（宮城県教育庁文化財保護課）
〔調査期間〕平成 29 年 6 月 8 日
〔対象面積〕2，879㎡
〔調査面積〕34㎡



第 27 図　小乗浜 B 遺跡調査地点とトレンチ配置図・柱状図

（1）調査に至る経緯

牡鹿郡女川町小乗浜字向に所在する小乗浜B遺跡は，女川湾に向かってのびる南北方向を軸とした丘陵尾根の北端に立地する。過去に丘陵頂部の二渡神社付近で縄文土器が採集されていることから（女川町誌編纂委員会 1991），縄文時代の散布地として登録されている。震災前までは小乗浜集落があったが，現況は住宅が撤去され荒地となっている。丘陵北側斜面は集落造成の際にかなり地形改変を受けたとみられ，段状に切り出された後，玉石・コンクリート等で擁壁が設置されていた模様である。

この小乗浜B遺跡では，東日本大震災の津波被害後，被災市街地復興土地区画整理事業が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

写真1　調査前風景（南東から）

写真2　T2 全景（北から）

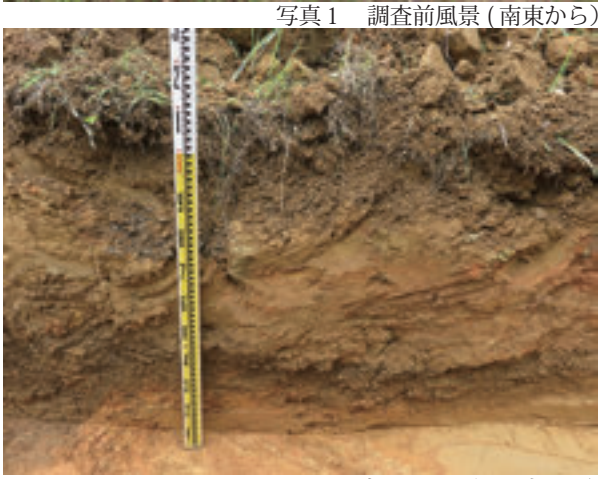


写真3　T1 断面（東から）

写真4　T2 全景（南から）

写真5　T3 全景（南から）

写真6　T4 全景（南東から）

第28図　小乗浜B遺跡調査写真

（2）調査の概要

事業計画は遺跡範囲の北西側で段状に造成された丘陵を再度造成するもので，遺跡範囲内と隣接地に4本のトレンチ（T1 ～ T4）を設定し，34㎡を調査した。

その結果，全てのトレンチで近現代の瓦礫を含む住宅基礎盛土と，現代の畑耕作土を確認し，直下では岩盤と黄褐色礫・シルトの地山が認められた。遺構・遺物は確認しなかった。従って，計画範囲内に遺構が存在する可能性は低いと判断し，調査を終了した。

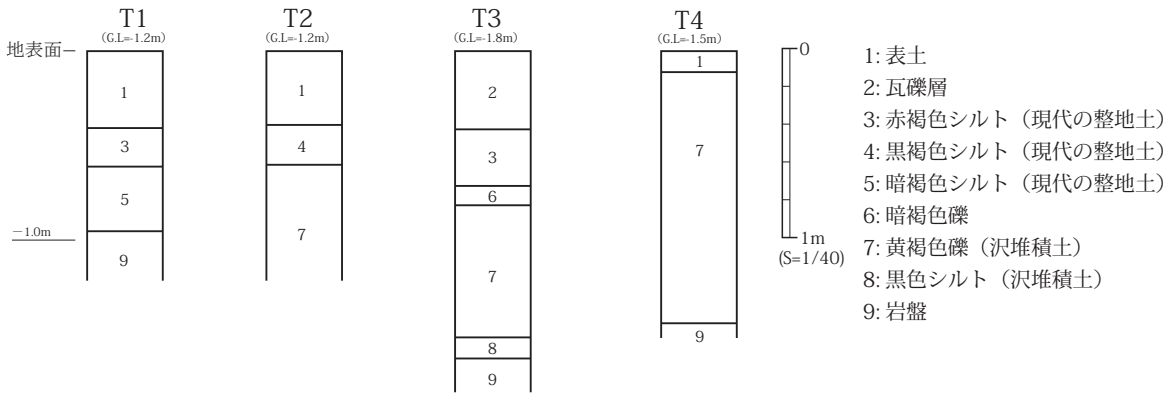
13. 野々浜B遺跡　【位置：P5-6 第2図 D-6（№49）】

〔遺跡名〕野々浜B遺跡（県遺跡地名表登載番号：73055）
〔所在地〕野々浜字野々浜
〔調査原因〕漁業集落防災機能強化事業（野々浜地区）
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕宮城県教育委員会，女川町復興推進課
〔調査担当〕平塚大輔（女川町生涯学習課生涯学習係）
　　豊村幸宏，齋藤和機（宮城県教育庁文化財保護課）
〔調査期間〕平成30年1月25日
〔対象面積〕5，193㎡
〔調査面積〕300㎡

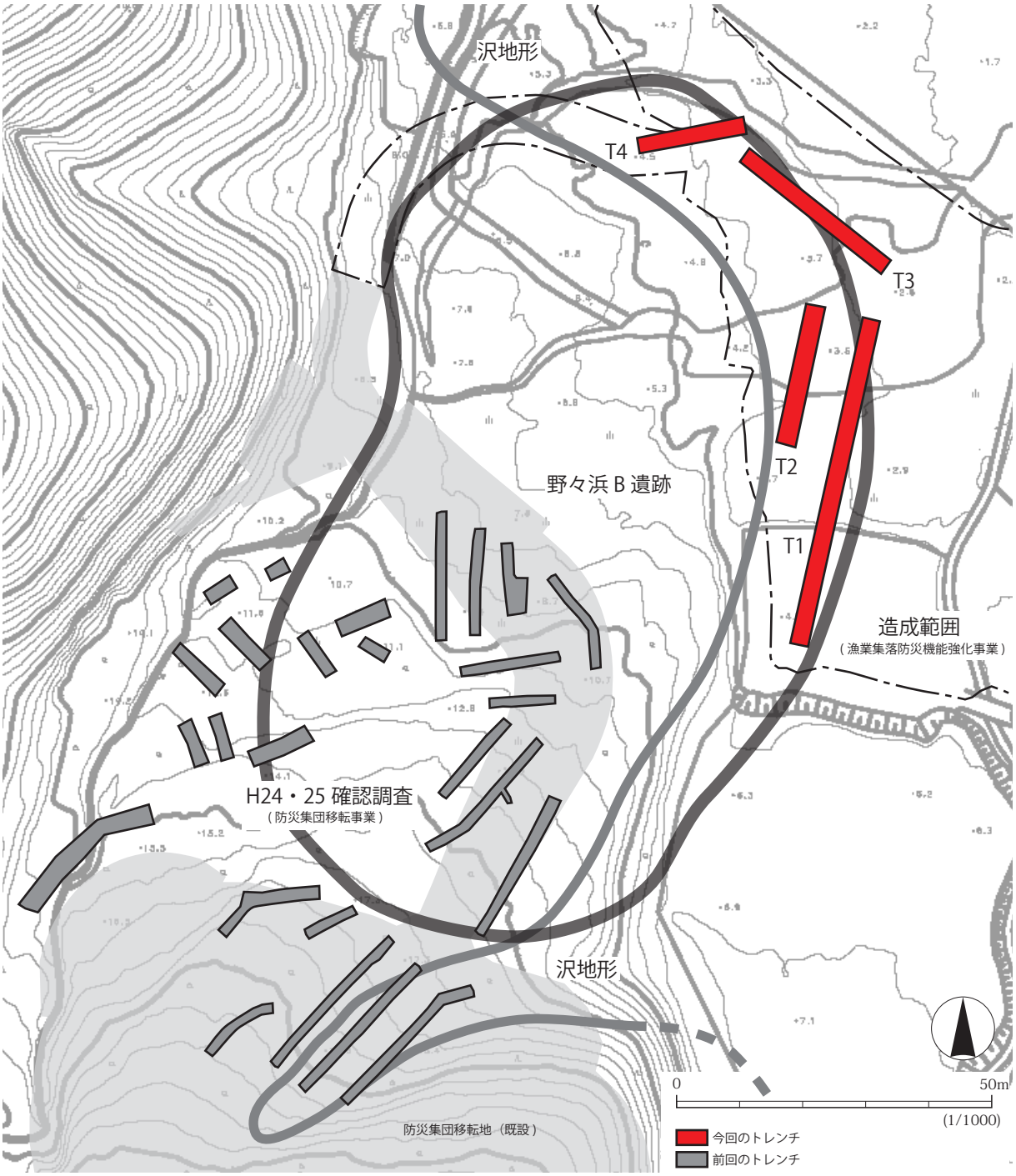
（1）調査に至る経緯

牡鹿郡女川町野々浜字野々浜に所在する野々浜B遺跡は，五部浦湾に向かって広がる沢と南北方向を軸とした低丘陵上部から麓に立地し，海岸線から300 m程度内陸に入った標高5 ～ 10 m前後の地点で東西100 m，南北50 mの範囲に広がる。震災前は畑地であったが，現況は遺跡南側が防災集団移転による住宅地で，北側は荒地となっている。過去に縄文時代前期から晩期と，弥生時代土器片が採集されていることから（女川町誌編纂委員会 1991），縄文時代前期から晩期，弥生時代の散布地として登録されている。なお，震災後の2014年度に周辺の分布調査を行った際にも縄文晩期（大洞C_1式期）の土器片が採集されている（宮城県 2014）。

この野々浜B遺跡では，東日本大震災の津波被害後，漁業集落防災機能強化事業が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。



第29図　野々浜B遺跡柱状図



第 30 図　野々浜 B 遺跡調査地点とトレンチ配置図

（2）調査の概要

事業計画は盛土による漁具置場の整備と集落道を造成するもので，遺跡範囲の北西側が計画地に含まれることから，遺跡範囲を中心に 4 本（T1 ～ T4）のトレンチを設定し，300㎡を調査した。

その結果，全てのトレンチで最大層厚 1 m前後の表土・瓦礫片を含む現代の整地土（1 ～ 5 層）が広がり，T2 ～ T4 ではその盛土直下に暗褐色から黄褐色の礫層（6 ～ 7 層），黒色シルト層（8 層）が広がることを確認した。遺構・遺物は確認されなかった。この礫層では水の湧出が著しく，計画地内は畑地として利用される以前には沢であったと考えられる。なお，この沢は上流部で行われた防災集団移転事業に伴う確認調査でも見つかっており，一連のものと判断できる。以上の結果から，計画範囲内の大半は沢であり，遺構が存在する可能性は低いと判断し，調査を終了した。

写真 1　調査区全景 (南から)

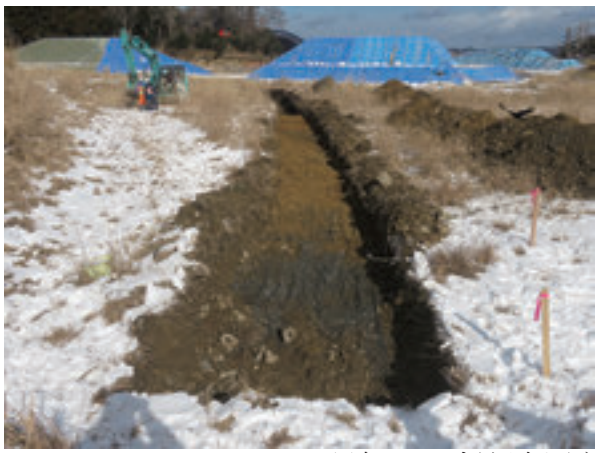


写真 2　T1 全景 (南から)

写真 3　T1 断面 (西から)

写真 4　T2 全景 (北から)

写真 5　T2 断面 (南から)

写真 6　T3 全景 (西から)

写真 7　T3 断面 (南から)

写真 8　T4 全景 (東から)

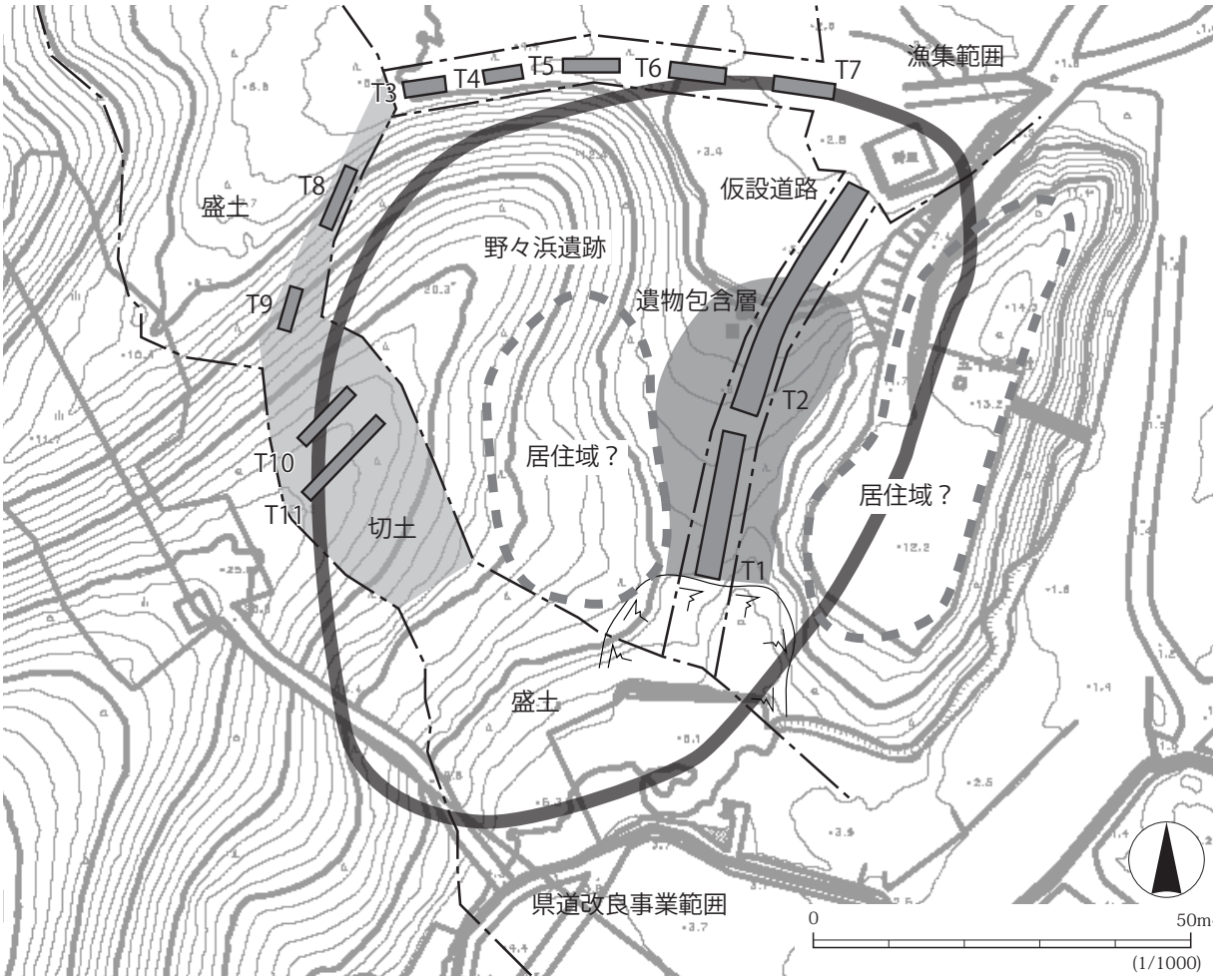
第 31 図　野々浜 B 遺跡調査写真

14．野々浜遺跡　【位置：P5-6 第2図 D-6(№48)】

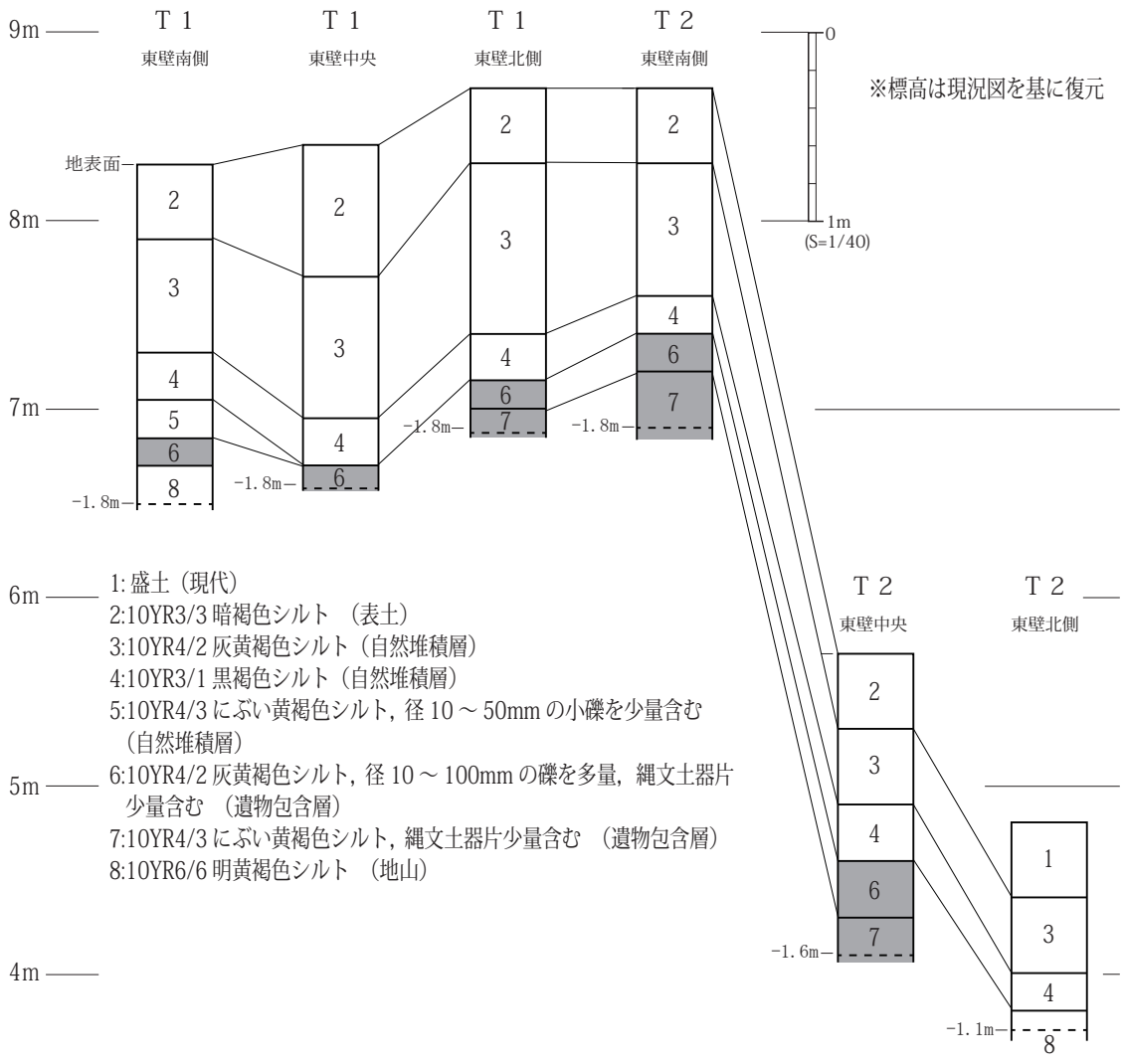
〔遺跡名〕野々浜遺跡（県遺跡地名表登載番号：73045）
〔所在地〕野々浜字野々浜
〔調査原因〕A．漁業集落防災機能強化事業（野々浜地区）　B．野々浜復興道路工事
〔調査主体〕女川町教育委員会
〔調査協力〕宮城県教育委員会，A．女川町復興推進課，B．宮城県東部土木事務所
〔調査担当〕阿部孝雄（女川町生涯学習課生涯学習係）
　　佐藤憲幸，齋藤和機，黒田智章（宮城県教育庁文化財課）
〔調査期間〕A．平成30年5月10日，9月10日，B．平成31年3月18日
〔対象面積〕A．665㎡，B．1750㎡
〔調査面積〕A．138㎡，B．85.7㎡

（1）調査に至る経緯

牡鹿郡女川町野々浜字野々浜に所在する野々浜遺跡は，五部浦湾に向かって南北を軸とする丘陵尾根から五十鈴神社のある独立丘陵西側にかけて立地し，海岸線から150 m内陸へ入った標高5～20 mの位置で，東西80 m，南北100 mの範囲に広がる。震災以前から現在に至るまで大部分は山林となっているが，南側の一部は段状に切り出して畑地としていた模様である。これまでに縄文時代前期（上川



第32図　野々浜遺跡調査地点の位置とトレンチ配置図



第 33 図　野々浜遺跡 T1・T2 柱状図

名Ⅱ式期），中期，晩期（大洞 C_2 式期）土器，弥生土器が採集されていることから（女川町誌編纂委員会 1991 ほか），縄文時代前・中・晩期と弥生時代の散布地として登録されている。

この野々浜遺跡では，東日本大震災の津波被害後，A．漁業集落防災機能強化事業と B．野々浜復興道路工事が計画されたことから，遺跡の内容を把握するための確認調査を実施した。

（2）調査の概要

A．漁業集落防災機能強化事業

事業計画は遺跡北側の尾根裾部から，南北方向に縦断する砂利敷き簡易舗装の道路と，遺跡北端で東西方向に横断する簡易舗装道路を建設するものである。調査では遺跡を南北方向に縦断する道路計画地に計 2 本のトレンチ（T1 ～ T2）と，東西方向の道路計画地に計 5 本のトレンチ（T3 ～ T7）を設定し，138㎡を調査した。

＜遺構＞

調査の結果，T1 南側から T2 中央部付近まで，表土直下に灰黄褐色，黒褐色シルトの自然堆積層（3・4 層）が広がることを確認した。3・4 層の下では，地表面から約 1.0 ～ 1.4 mの深さで，縄文土器，石器・石製品を含む灰黄褐色，にぶい黄褐色シルトの遺物包含層を確認した。

遺物包含層（6・7 層）は，T1 南側から T1 北側と T2 南側付近に向かって地形に沿って高まった後，

写真１　T１全景（南から）

写真２　T１南側断面（東から）

写真３　T１中央部断面（東から）

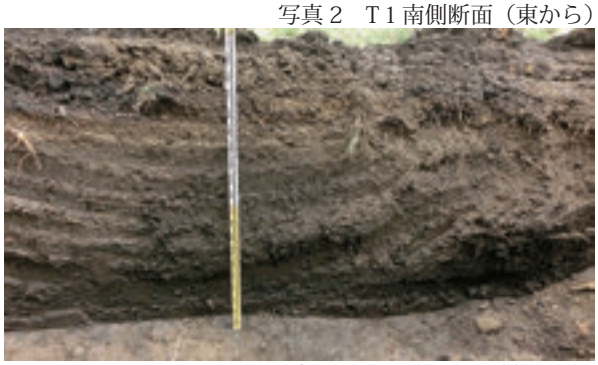


写真４　T１北側断面（東から）

写真５　T2 全景（南から）

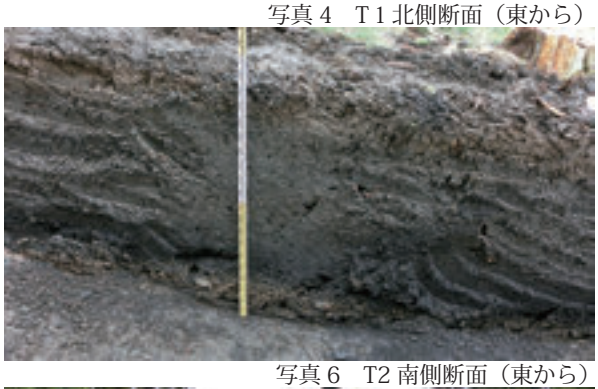


写真６　T2 南側断面（東から）

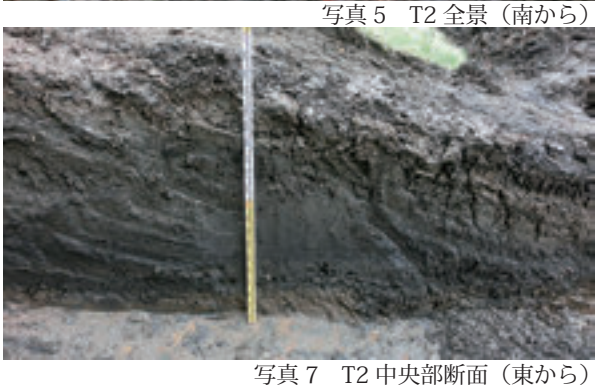


写真７　T2 中央部断面（東から）

写真８　調査区遠景（北から）

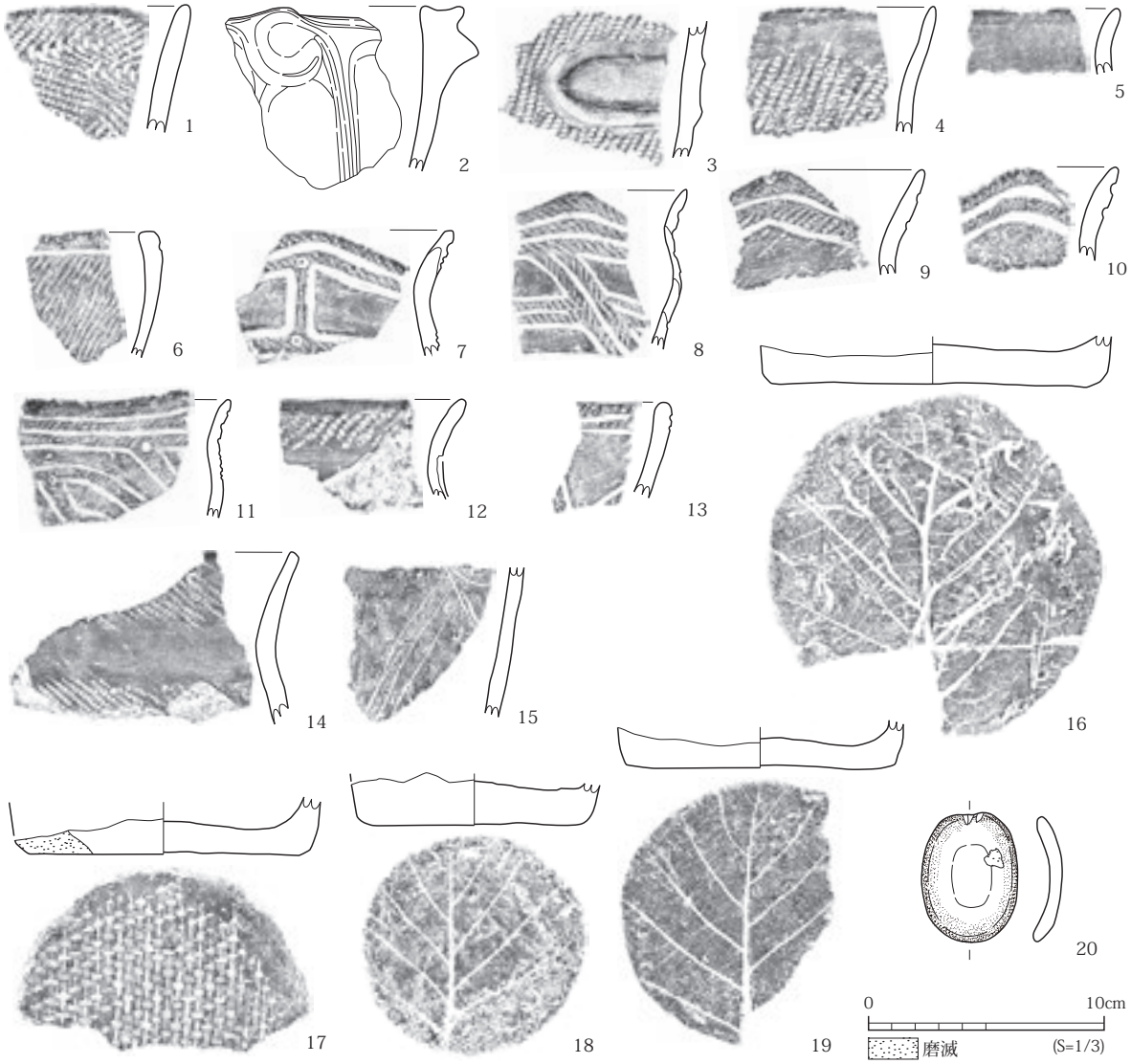
第 34 図　野々浜遺跡調査写真

海岸線へ向かって緩やかに傾斜し，T2 中央から北側の間までのびる。一方，T1 南端より南は開墾による削平で途絶している。従って，遺物包含層の規模は南北 40 m以上とみられ，東西は，二つの丘陵に挟まれた谷地状の地形から判断して，最大 20 m前後とみておきたい。なお，堆積は T1 北側から T2 中央部付近が最も厚く，0.6 m以上ある。

一方，東西方向の道路計画地に設定したトレンチ（T3 ～ T7）では，遺構･遺物は確認されなかった。

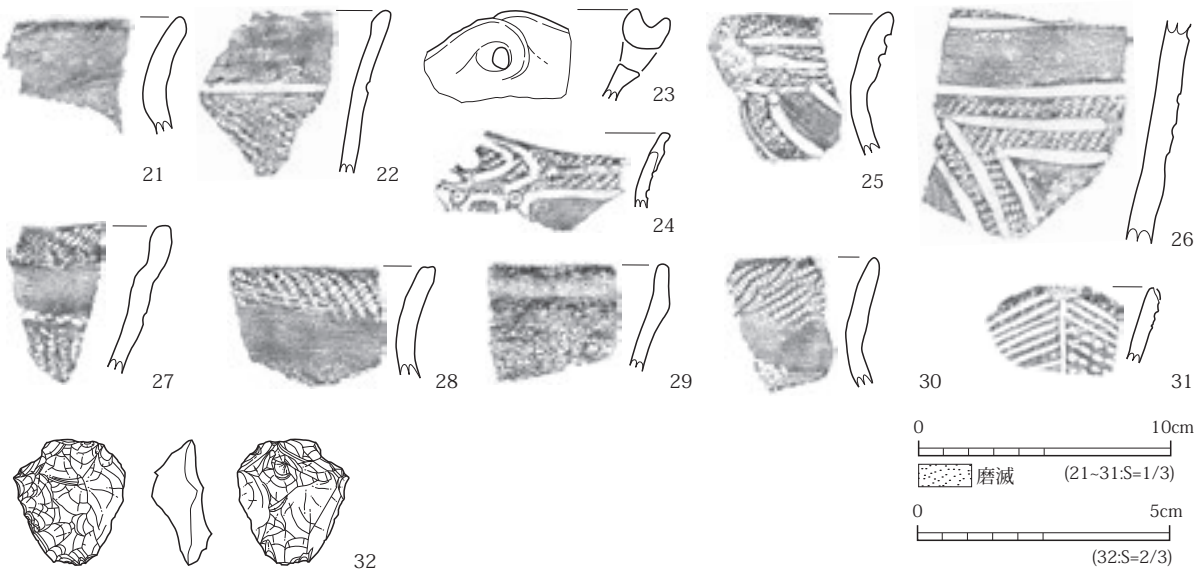
＜遺物＞

縄文土器，石器・石製品が遺物包含層（6・7 層）全体から出土した。その量は平箱 1 箱分で，いずれも破片資料であり，接合できたものは少ない。このうち文様等が特徴的な土器 29 点と石器・石製



No.	地点	層位	種別	器種	部位	特徴	繊維	登録
1	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）羽状縄文（LR+RL）	含	野浜 -04
2	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文・渦巻状隆線文		野浜 -06
3	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	体部	（外面）縄文（RL）→隆線文		野浜 -12
4	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（RL）・無文帯		野浜 -05
5	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）無文帯		野浜 -08
6	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）・無文帯・沈線		野浜 -11
7	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）→沈線・竹管刺突文・磨消 (横方向入組)		野浜 -02
8	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）→沈線・磨消 (横方向入組)		野浜 -01
9	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）→沈線・磨消		野浜 -12
10	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）→沈線・磨消		野浜 -10
11	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）→沈線・竹管刺突文・磨消 (横方向入組)		野浜 -03
12	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）・無文帯		野浜 -07
13	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）→沈線・磨消		野浜 -09
14	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（RL）・無文帯		野浜 -14
15	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	体部	（外面）3 条沈線による懸垂文		野浜 -13
16	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	底部	木葉（網状脈） 底径：(114) mm		野浜 -18
17	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	底部	網代（2 本越 1 本潜 1 本送） 底径：141 mm		野浜 -15
18	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	底部	木葉（網状脈） 底径：86 mm		野浜 -17
19	T1	6-7 層	縄文土器	深鉢	底部	木葉（網状脈） 底径：116 mm		野浜 -16
20	T1	6-7 層	石製品	石皿形		長軸：53mm 短軸：42mm 厚：5mm 母材：粘板岩		野浜 -19

第 35 図　野々浜遺跡 T1 出土遺物実測図



No.	地点	層位	種別	器種	部位	特徴	繊維	登録
21	T2	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）・無文帯		野浜 -27
22	T2	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文・無文帯・沈線		野浜 -21
23	T2	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）環状把手　孔径９mm		野浜 -26
24	T2	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）→沈線・竹管刺突文・磨消 (横方向入組)		野浜 -20
25	T2	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）→沈線・竹管刺突文・磨消 (横方向入組)		野浜 -22
26	T2	6-7 層	縄文土器	深鉢	体部	（外面）縄文（LR）→沈線・磨消 (横方向入組)		野浜 -30
27	T2	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）・無文帯		野浜 -25
28	T2	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）縄文（LR）・無文帯		野浜 -23
29	T2	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）無文帯		野浜 -24
30	T2	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）無文帯		野浜 -29
31	T2	6-7 層	縄文土器	深鉢	口縁部	（外面）沈線・竹管刺突文		野浜 -28
32	T2	6-7 層	石器	楔形石器		長さ：24mm　幅：23mm　厚：11mm　母材：碧玉		野浜 -32

第 36 図　野々浜遺跡 T2 出土遺物実測図

品２点を図示し，剥片２点を写真掲載した。図示した縄文土器のうち時期が判断できるものとしては，①胎土に繊維を含み口縁部が羽状縄文のもの（第 35 図－１），②口縁部渦巻状隆線文のもの（第 35 図－２），③体部に横方向の隆線文をもつもの（第 35 図－３），④口縁部に穿孔をもつもの（第 36 図－23），⑤口縁部から体部にかけて縄文・横方向入組状磨消・沈線・竹管刺突文がみられるもの（第 35 図－７～11・13，第 36 図 24 ～ 28），⑥頸部に無文帯があるもの（第 35 図－ 12・14，第 36 図－27 ～ 30）が挙げられる。

これらの特徴から①前期前葉（大木２式期）と，②～④中期後葉から末葉（大木９～ 10 式期），⑤・⑥後期前葉（宮戸Ⅰｂ式土器より新しい土器群）の３時期に大別が可能と考えられる。但し，いずれの時期の土器も層ごとのまとまりはみられなかった。

上記以外に，口縁部に無文帯があるもの５点（第 35 図－４～６，第 36 図－ 21・22）と，体部に懸垂文があるもの１点（第 35 図－ 15），口縁部に竹管刺突文・沈線があるもの１点（第 36 図－ 31）を図示した。これらについては時期を判断する特徴が乏しいが，時期が判明する土器群の範疇に含まれる可能性が高く，無文帯をもつ５点を中期末葉（大木 10 式期），懸垂文をもつもの，及び竹管刺突文・沈線をもつ各１点を後期前葉（宮戸Ⅰｂ式期）とみておきたい。

そのほか，時期不明の深鉢底部３点（第 35 図－ 16 ～ 19）と，石製品石皿形１点（第 35 図－20），楔形石器１点（第 36 図－ 32）を図示した。深鉢底部は木葉痕３点（第 35 図－ 16･18･19）と，網代痕１点（第 35 図－ 17）である。石製品石皿形は粘板岩，楔形石器は碧玉を母材としている。なお，写真掲載した２点の母材は珪質凝灰岩・珪質頁岩である。

時期別の出土量としては，後期前葉（宮戸Ⅰｂ式期～宮戸Ⅰｂ式土器より新しい土器群）が最も多く，

第 37 図　野々浜遺跡出土遺物写真

中期後～末葉（大木 9 ～ 10 式期）がこれに次ぐ。なお，今回の調査では前期中葉と中期中葉の間，後期初頭，ならびに晩期，弥生時代の遺物は出土しなかった。

（3）まとめ

確認した遺物包含層（6・7 層）は，西側の丘陵尾根と五十鈴神社のある東側独立丘陵に挟まれた谷

地部で南北方向に堆積していた。出土した土器群は縄文時代前期前葉と中期後葉から末葉，後期前葉の３時期に大別可能であるが，層ごとのまとまりがみられないことから，二次堆積と考えられる。

遺物包含層の立地からみると，丘陵尾根東側の緩斜面と五十鈴神社東側の独立丘陵に居住域が想定され，谷地部は捨て場として利用されていたと考えられる。但し，五十鈴神社東側の独立丘陵は頂上部の面積が狭く，独立した居住域としては不向きである。現在は南側が開墾で削平されているが，旧地形は丘陵尾根と独立丘陵が連続していた可能性もあり，その場合，居住域は海のある北側に開く馬蹄形をしていたと想定しておきたい。

事業計画は簡易舗装による道路の施工であるため，発掘調査は復興事業の取扱いにより，計画範囲内での遺物包含層の範囲の把握に留めて終了した。

B. 野々浜復興道路工事

事業計画は遺跡南側の尾根部を南北方向に切土・盛土するものである。尾根頂上部付近と重機が頂上へ登るための進入路で切土が行なわれることから，進入路部分に２本（Ｔ８・Ｔ９）と，頂上部付近に２本（Ｔ１０・Ｔ１１）を設定し，85.7㎡を調査した。その結果，0.2m 掘削したところで黄褐色の礫を多く含む地山を検出したが，遺構・遺物は確認しなかった。以上の結果から，計画範囲に遺構が存在する可能性は低いと判断し，調査を終了した。

15. 荒井田貝塚　【位置：P5-6 第２図 D-2(№37)】

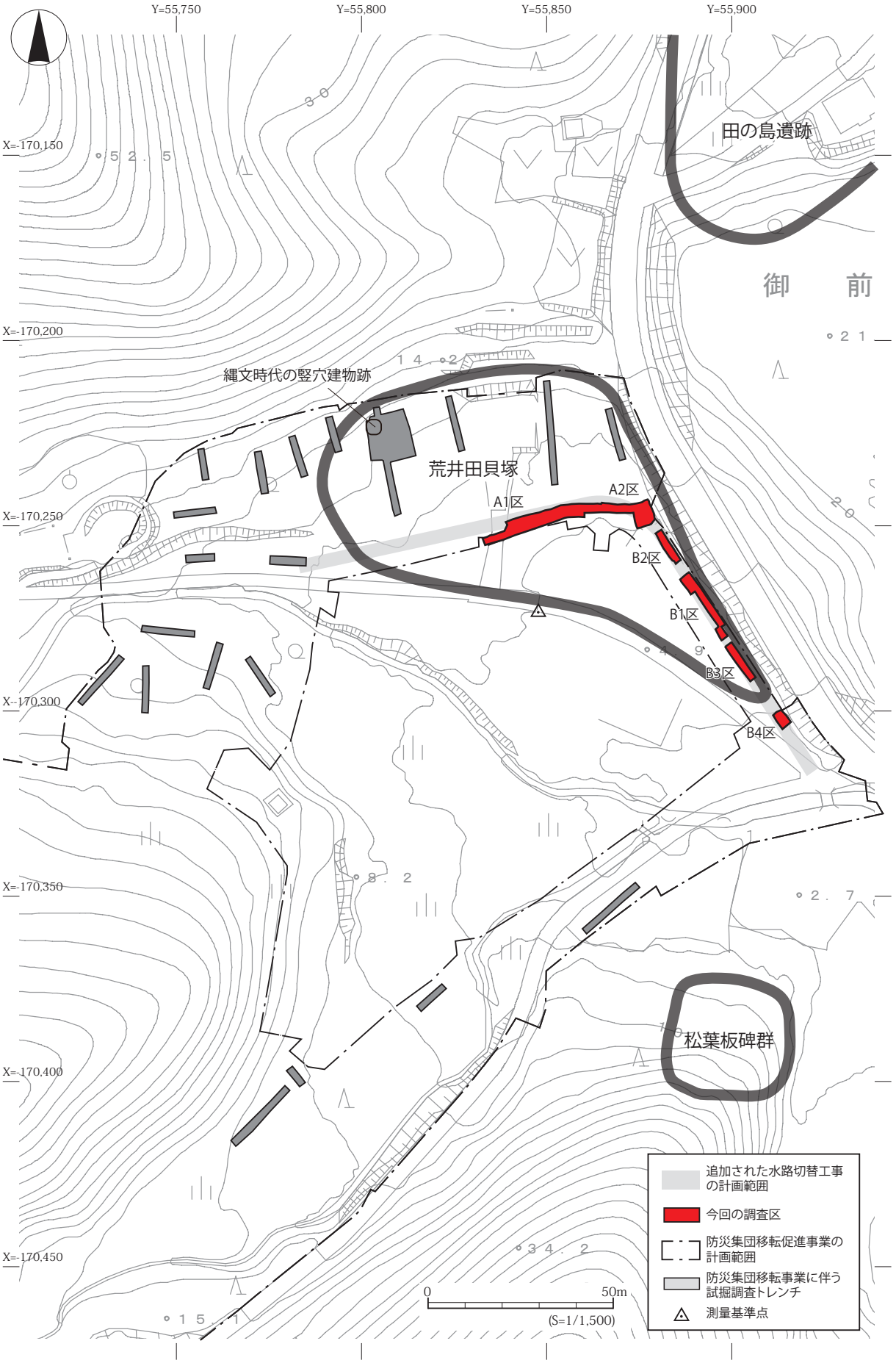
〔遺跡名〕 荒井田貝塚（県遺跡地名表搭載番号：73011）
〔所在地〕 牡鹿郡女川町御前浜字荒井田ほか
〔調査原因〕 防災集団移転促進事業（御前浜地区）
〔調査主体〕 女川町教育委員会
〔調査協力〕 宮城県教育委員会
〔調査担当〕 福沢佳典（女川町生涯学習課生涯学習係，長野県松本市派遣），古田和誠（同，宮城県派遣）
田中秀幸（宮城県教育庁文化財保護課），木下晴一（同，香川県派遣），垣内拓郎（同，兵庫県派遣）
〔調査期間〕 平成 26 年 7 月 28 日～ 8 月 18 日
〔対象面積〕 約 580㎡
〔調査面積〕 約 260㎡

（1）調査に至る経緯

荒井田貝塚は牡鹿郡女川町御前浜字荒井田に所在する。遺跡が所在する御前浜地区は町北東部に位置し，市街地中心から北東に約 3km の距離にある。遺跡周辺は御前湾に向かって３条の低丘陵が延び，各丘陵間の谷部には小河川が湾に向けて流下する。

東日本大震災の津波被害を受けた御前浜地区では防災集団移転促進事業が計画され，計画地の一部に荒井田貝塚が含まれることから，宮城県教育委員会によって平成 26 年３月・４月に試掘調査が実施された（宮城県教育委員会 2015･2016）。その結果，縄文時代中期後葉とみられる竪穴建物跡 1 棟，土坑，前期（大木５～６式）及び中期（大木７～ 10 式）の遺物包含層，ピットなどが発見され，北側丘陵の南東緩斜面に縄文時代の遺構が分布することが明らかとなった（第 38 図）。

その後，事業計画の変更によって新たに水路の切替工事が計画された。この計画地の一部が試掘調査で想定された遺跡の範囲に係ることから，女川町教育委員会主体で発掘調査を実施した。



第 38 図　荒井田貝塚調査地点とトレンチ配置図

（2）調査の概要

計画地は国道 398 号線の西側に位置し，北側と東側を丘陵に囲まれた低地で，試掘調査で遺構・遺物が発見された南東緩斜面の南側にあたる。調査前の現況は荒地であった。そのうち北西部は試掘調査で遺構・遺物が発見されていないこと，構造物・障害物等があり調査着手が困難であったことから調査対象から除外し，計画地北東部から南部を調査対象とした。発掘調査は平成 26 年 7 月 28 日に開始した。計画地北東部から重機で表土を除去し，人力で遺構検出作業を行った。北側の東西方向の調査区については，東端の拡張部分を A2 区，その西側を A1 区とした（第 39 図上）。南北方向の調査区については，障害物や遺構・遺物の検出状況を鑑み，必要に応じて間隔を空けて調査区を設定し，着手順に B1 ～ B4 区とした。調査面積は 260㎡である。

調査の結果，各トレンチの層序は 1 層：表土，2 ～ 33 層：自然堆積土，34・34′・35 層：地山であった（第 39 図・第 7 表）。調査区の北側から南側に向かって標高が低くなり，B1 ～ B4 区では御前湾に向かって東西方向に流下する小河川の旧流路や洪水・氾濫が起源と考えられる砂礫層や砂利層等の水成堆積層が厚く堆積していた。

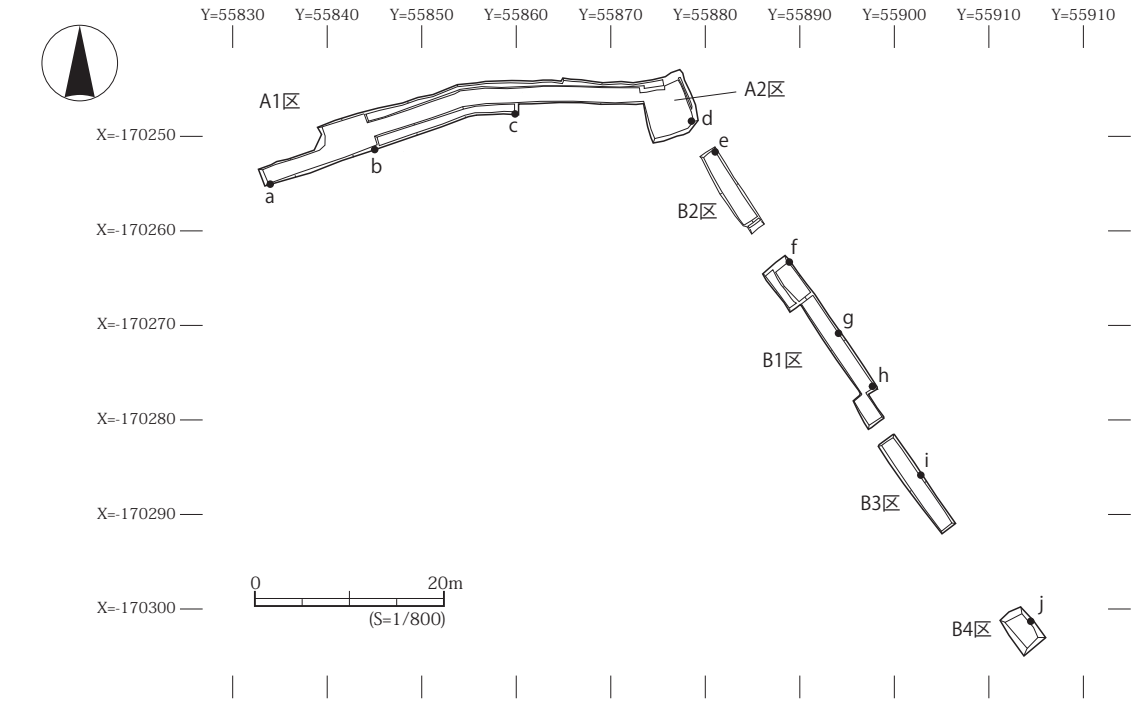
遺物は，A1・A2 区と B1・B2 区の 7 ～ 10 層（上部の黒色～黒褐色粘土質シルト），A1 区・B2 区・B3 区の 18 ～ 22 層（下部の黒褐色粘土質シルト），B1 区の 25 層（水成堆積みられるオリーブ褐色砂利層）から縄文時代の土器・石器・土製品，古代の土器が少量出土した（第 8 表）。

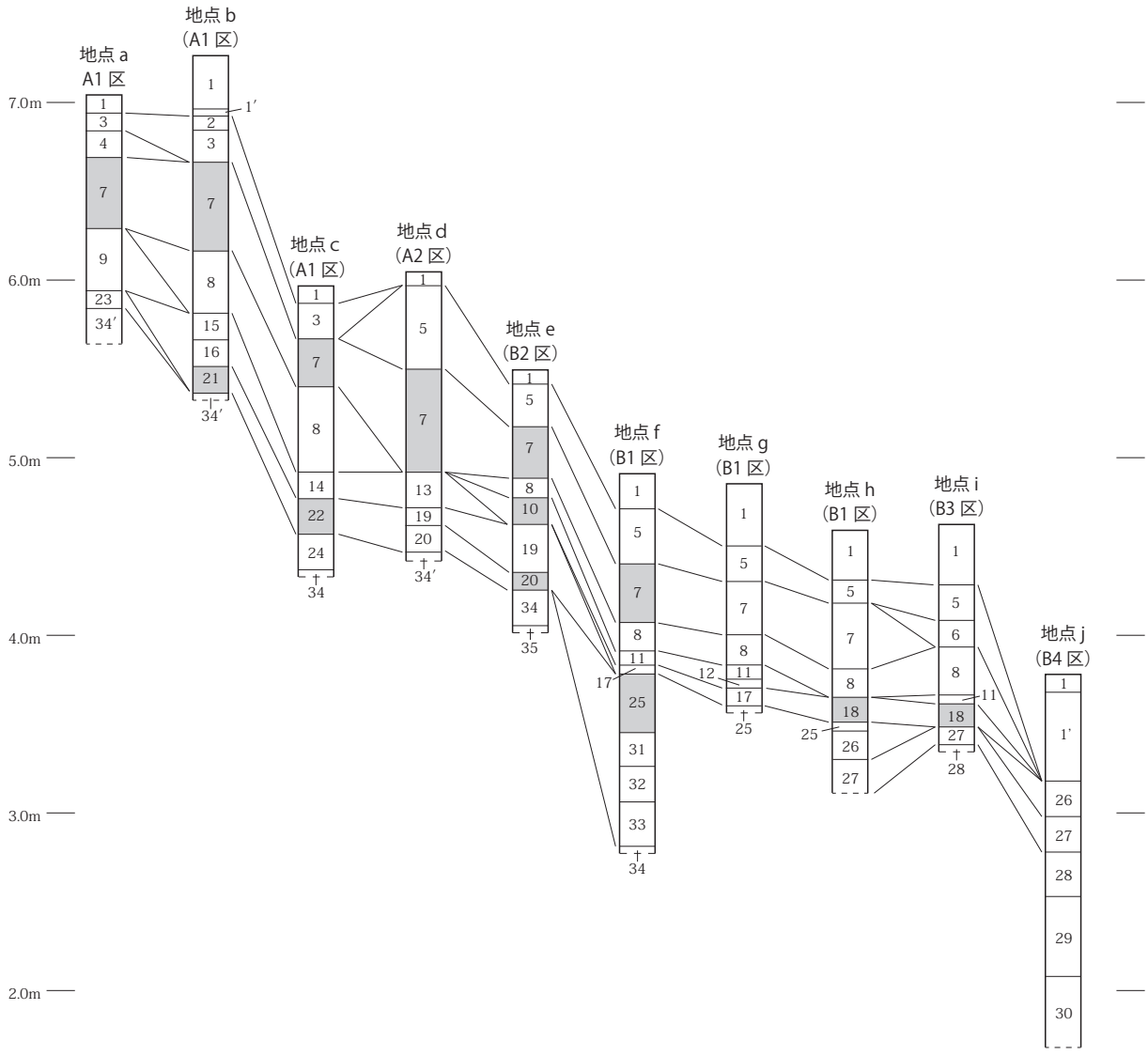
縄文土器はいずれも破片で器表面が摩滅したものが多い。時期が判別できる特徴をもつものとしては，胎土に繊維を含む土器がある（第 40 図－ 1・2）。このうち，1 は口端部外面に刻み，口縁部の内外面に縄文が施されることから，おおむね早期末葉～前期初頭のものと考えられる。土製品は縄文時代の円盤状土製品（3）が 1 点出土したのみである。

石器には，石鏃（第 40 図－ 7 ～ 9），不定形石器（10），石核，剥片，チップ，磨凹叩石類（11 ～

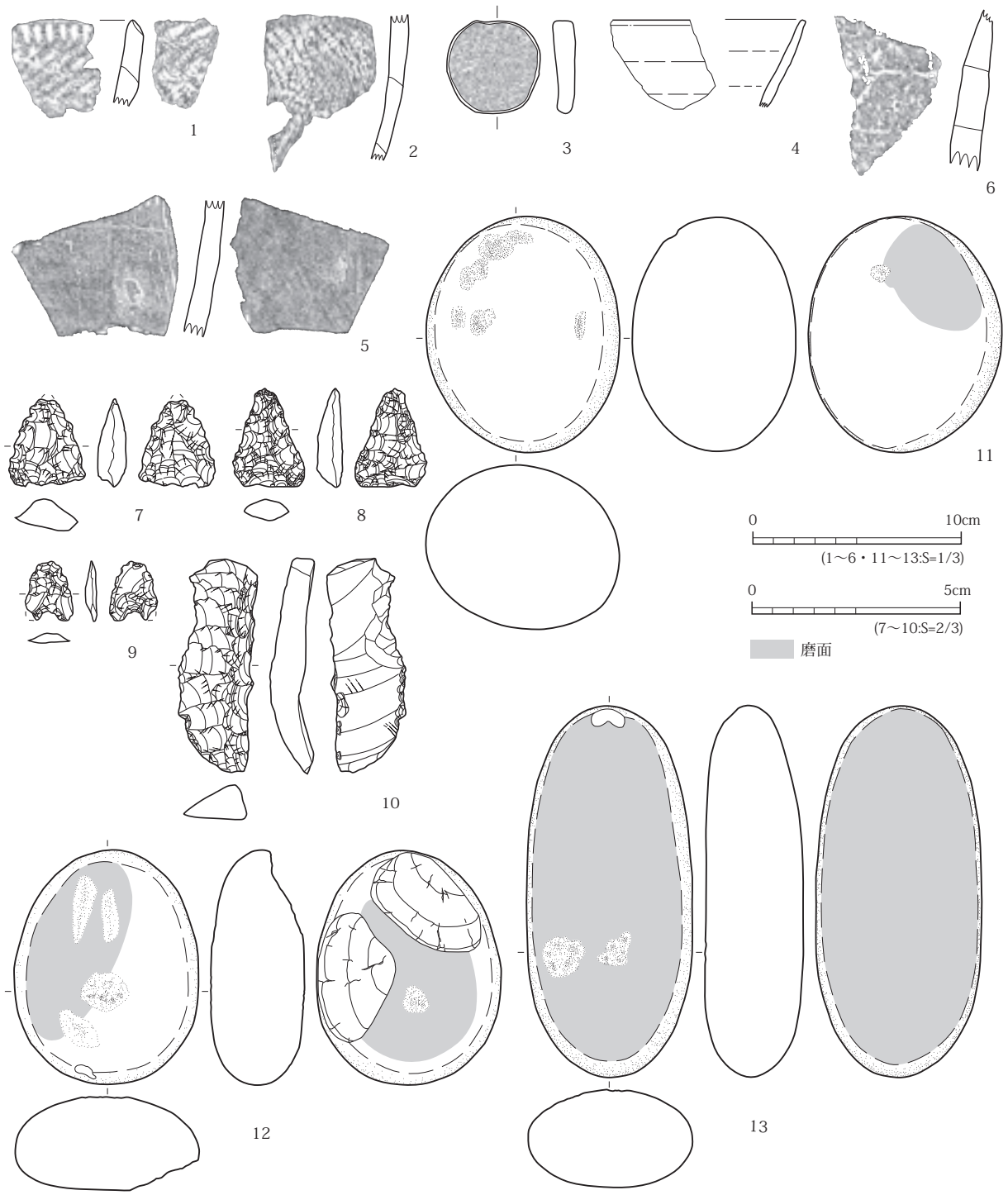
番号	土色	土性	特徴	備考
1			表土	大別①層，表土
2	10YR2/2(黒褐色)	粘土質シルト	破砕岩盤粒を 10%含む。炭化物粒を極少量含む。ややグライ化。	大別②層，近世以降か
3	10YR2/3(黒褐色)	粘土質シルト	破砕岩盤粒を 20%含む。炭化物粒小 5%	大別②層，近世以降か
4	10YR3/2(黒褐色)	粘土質シルト	破砕岩盤粒を 20%含む。炭化物粒を少量含む。	大別②層，近世以降か
5	10YR3/2(黒褐色)	粘土質シルト	破砕岩盤粒を 25%含む。粗礫を少量含む。	大別②層，近世以降か
6	10YR2/2(黒褐色)	粘土質シルト	破砕岩盤粒を 25%含む。炭化物粒を少量含む。	大別②層，近世以降か
7	10YR2/1(黒色)	粘土質シルト	粗礫（円礫）を少量含む。部分的に粗礫の集中部あり。	大別③層，遺物少量出土
8	10YR2/1(黒色)	粘土質シルト	破砕岩盤粒を 15%含む。岩盤中礫～粗礫を極少量含む。	大別③層
9	10YR2/2(黒褐色)	シルト質粘土	破砕岩盤粒を 15%含む（下層ほど多い）。中礫～粗礫（亜円礫）・炭化物粒を少量含む。	大別③層
10	10YR2/1(黒色)	粘土質シルト	破砕岩盤中礫を 25%含む。炭化物粒極少量含む。土器片が極少量出土。	大別③層，遺物少量出土
11	10YR3/1(黒褐色)	シルト質粘土	黄色岩盤粒を少量含む。部分的に 3f 層由来の小ブロックが混じる。混入物が少ない。	大別③層
12	10YR7/4(にぶい黄橙色)	砂質シルト	火山灰に類似。混入物が少ない。部分的な堆積層。	大別③層
13	10YR3/1(黒褐色)	シルト質粘土	中礫・炭化物を極少量含む。グライ化している。	大別④層
14	10YR4/3(にぶい黄褐色)	粘土質シルト	中礫を 15%含む。炭化物小を極少量含む。	大別④層
15	10YR3/3(暗褐色)	粘土質シルト	砂を含む。岩盤由来の粗礫（砂岩）を極少量含む。	大別④層
16	10YR3/3(暗褐色)	粘土質シルト	破砕岩盤粒を 25%含む。	大別④層
17	10YR4/1(褐灰色)	シルト質粘土	砂利（細礫）を多量含む。	大別⑤層
18	10YR3/1(黒褐色)	粘土質シルト	中礫（角礫）を少量含む。古代の遺物が少量出土。	大別⑤層，遺物少量出土
19	10YR3/1(黒褐色)	粘土質シルト	破砕岩盤粒を 20%含む。	大別⑤層
20	10YR3/2(黒褐色)	粘土質シルト	砂・破砕岩盤粒を少量含む。炭化物粒を極少量含む。	大別⑤層
21	10YR2/2(黒褐色)	シルト質粘土	砂・破砕岩盤粒を少量含む。混入物が少ない。	大別⑤層
22	10YR3/2(黒褐色)	砂質シルト	砂を少量含む。破砕岩盤粒，中礫を極少量含む。	大別⑤層，遺物少量出土
23	10YR3/2(黒褐色)	砂質シルト	砂利（細礫～中礫）を多量含む。粘土が少量混じる。	大別⑥層，流水性堆積
24	2.5Y4/3(オリーブ褐色)	粘土質シルト	砂利（細礫）を多量含む（地山に至る）。部分的な堆積層。	大別⑥層，流水性堆積
25	2.5Y4/3(オリーブ褐色)	砂利層	中礫～粗礫を極少量含む。	大別⑥層，洪水層
26	10YR3/1(黒褐色)	粘土質シルト	中礫（円礫）を少量含む。砂が少量混入。	大別⑥層
27	10YR3/2(黒褐色)	粘土質シルト	砂が中量混入。	大別⑥層
28	2.5Y4/2(暗灰黄色)	砂礫層	中礫と粗砂で構成され，中礫が主体。	大別⑥層，洪水層
29	2.5Y3/3(暗オリーブ褐色)	シルト質粘土	砂が混入。中礫（円礫），炭化物粒を極少量含む。	大別⑥層，洪水層
30	2.5Y4/3(オリーブ褐色)	砂礫層	粗砂，砂利（細礫），中礫～粗礫（円礫）で構成される。	大別⑥層，洪水層
31	10YR3/1(黒褐色)	粘土質シルト	中水分多く粘性高い。礫～粗礫（亜角礫）を多量含む。	大別⑥層，流水性堆積
32	10YR3/2(黒褐色)	シルト質粘土	水分多く粘性高い。中礫～粗礫（円礫）を少量含む。	大別⑥層，流水性堆積
33	10YR3/2(黒褐色)	粘土質シルト	水分多く粘性高い。砂が多量に混入。	大別⑥層，流水性堆積
34	2.5Y4/4(オリーブ褐色)	シルト質粘土	中礫～粗礫（砂岩）が上面に多い。中礫～粗石（亜角礫）を含む。	大別⑦層，地山
34′	2.5Y4/3(オリーブ褐色)	粗砂	細礫～中礫を多量含む。	大別⑦層，地山
35	10YR4/3(にぶい黄褐色)	砂利層	破砕岩盤粒が混入。	大別⑦層，地山

第 7 表　荒井田貝塚土層観察表





第 39 図　荒井田貝塚調査区の配置と層序模式図



No.	地点	層位	種別	残存部位	内容	繊維	写真	登録番号
1	A2区	7・8層	縄文土器・深鉢か	口縁部	（外面）平縁　口唇部に刻み　縄文（LR・羽状縄文か）	含	44-1	Pa01
2	B2区	20層	縄文土器・深鉢か	体部	（外面）平縁　縄文（RL）	含	44-2	Pa02
3	A1区	7～9層	円盤状土製品	体部	完形　長軸 45.7㎜　短軸 45.1㎜　重量 23.7g　打ち欠き・研磨		44-3	Pa03
4	B3区	18層	須恵器・坏	口縁部	（外面）ロクロナデ→体下部ケズリか（内面）ロクロナデ		44-4	Pa06
5	B3区	18層	須恵器・甕	体部	（外面）ロクロ→ケズリ（内面）ロクロナデ→ナデ		44-5	Pa07
6	A1区	7～9層	製塩土器か	体部	（外面）積上げ痕を明瞭に残す　（内面）ヘラナデ　器厚 1.4cm		44-6	Pa09

No.	地点	層位	器種	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重さ（g）	石材	備考	写真	登録番号
7	A2区	7・8層	石鏃	20.1	17.8	6.6	2.4	頁岩	平基　両側縁は直線的　先端欠小	44-7	S02
8	A2区	7・8層	石鏃	23.1	16.6	5.1	2.0	珪化凝灰岩	平基　両側縁は直線的　基部欠小	44-8	S03
9	A2区	7・8層	石鏃	14.3	11.4	2.9	0.5	黒曜石	凹基　両側縁は内湾	44-9	S01
10	A1区	7～9層	不定形石器	51.1	17.7	8.1	8.8	珪質頁岩	石匙の一部か	44-10	S04
11	A2区	7・8層	磨凹石	112.8	92.5	75.7	1106.5	安山岩	完形　自然面あり　磨面→凹痕	44-11	S05
12	A1区	7～9層	磨凹石	111.4	88.2	43.8	611.5	安山岩	片面一部破損　自然面あり　磨面→凹痕	44-12	S07
13	A2区	7・8層	磨凹石	170.3	78.4	46.6	937	安山岩	完形　自然面あり　磨面→凹痕	44-13	S06

第 40 図　荒井田貝塚出土遺物

調査区	層	縄文土器		土師器	須恵器	製塩土器か	石鏃	不定形石器	石核	剥片	チップ	磨凹敲石類
		全体	繊維土器									
A1 区	7・8 層	53	5	0	0	1	0	1	0	8	1	3
	21・22 層	13	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
A2 区	7 層	33	7	0	0	0	3	0	0	9	0	4
B1 区	7 層	1	0	1	0	3	0	0	1	0	0	0
	25 層	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B2 区	7・10 層	24	5	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	20 層	18	7	0	0	0	0	0	0	1	1	0
B3 区	18 層	2	0	14	5	9	0	0	0	0	0	0
小計		154	24	15	5	14	3	1	1	19	2	9

第 8 表　荒井田貝塚出土遺物点数表

13）がある。石鏃は基部形態が平基（7・8）と凹基（9）に分かれ，凹基のものは黒曜石製である。

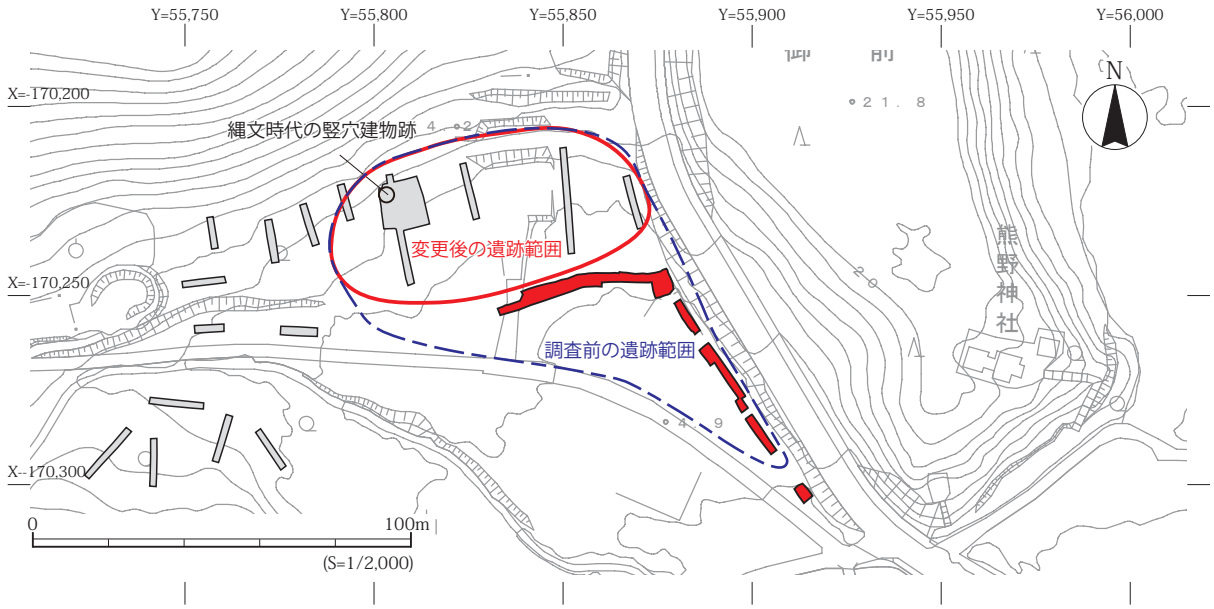
古代の土器にはロクロ土師器の小片，須恵器坏（4）・須恵器甕（5）と製塩土器とみられる器表面に輪積痕を明瞭に残す厚手の土器片（6）があり，平安時代のものと考えられる。

出土遺物はいずれも流れ込みの二次堆積によるものと判断されるが，遺物の出土状況をみると（第 8 表），縄文時代の遺物は B4・B5 区を除く全ての調査区から出土しているのに対し，古代の遺物は大半が B3 区から出土しており，出土地点に偏りがある。

遺構は各調査区とも発見されなかった。試掘調査で確認されていた竪穴建物跡・土坑等の遺構や縄文時代前期・中期を主体とする遺物包含層の分布範囲は，今回の調査区までは広がらないことから，北側丘陵南東緩斜面の狭い範囲に限られるとみられる。

（3）まとめ

今回の調査では，早期末～前期初頭のものと考えられる繊維土器を含む縄文土器・石器，並びに平安時代の土師器・須恵器・製塩土器が出土したが，いずれも流れ込みの二次堆積によるものとみられ，遺構は発見されなかった。試掘調査で確認されていた縄文時代前期・中期を主体とする集落の範囲については，今回の調査区までは広がらず，北側丘陵南東緩斜面の狭い範囲に限られることを確認した（第 41 図）。また，平安時代の遺物は大半が調査区南側から出土していることから，平安時代には東側丘陵頂部から国道 398 号で削平されている丘陵西裾部周辺に集落が存在した可能性が考えられる。今回の調査とこれまでの試掘調査の成果を踏まえて，荒井田貝塚の遺跡範囲は北側丘陵南東緩斜面から東側丘陵西裾部に変更した（第 41 図）。



第 41 図　調査成果に基づく荒井田貝塚範囲

写真１　調査区遠景（南西から）

写真２　調査区北側遠景（南西から）

写真３　Ａ１区全景（西から）

写真４　Ａ１・Ａ２区全景（東から）

写真５　Ｂ１・Ｂ２区全景（北西から）

写真６　Ｂ１区北側深掘部西壁（東から）

写真７　Ｂ２区全景（北から）

写真８　Ｂ３区全景（西から）

第 42 図　荒井田貝塚調査写真（1）

写真９　Ｂ４区全景（北から）

写真 10　Ｂ５区掘削状況（南から）

第 43 図　荒井田貝塚調査写真（2）

第 44 図　荒井田貝塚出土遺物写真

まとめ

平成 26 年度から平成 30 年度まで，東日本大震災の復興事業に伴って町内 15 遺跡の発掘調査を実施した。このうち，尾浦貝塚・野々浜遺跡・荒井田貝塚では遺構・遺物を確認し，桐ヶ崎遺跡・田の島遺跡では縄文土器片，荒井田貝塚では縄文土器片と古代の須恵器片が出土した。以下，遺構・遺物が出土した３遺跡の調査成果を述べる。

＜尾浦貝塚＞

遺跡北東側で縄文時代前期の遺物包含層（大木５以降）と，貝層（大木２ａ）を確認した。貝層はカキを主体とし，マグロやニホンジカなど動物遺存体が含まれる。

＜野々浜遺跡＞

遺跡北側で縄文時代中期後葉から後期前葉の遺物包含層を確認し，縄文土器と石器・石製品が出土した。堆積状況から包含層の北西側に居住域が想定される。

＜荒井田貝塚＞

遺跡南側の水路部の調査で，縄文時代早期末～前期初頭の縄文土器･石器，古代の須恵器が出土した。

参考文献

相原淳一 2009「東北地方における縄文時代中期末葉から後期前葉に関する土器編年―宮城県石巻市山居遺跡の調査成果から―」『東北歴史博物館研究紀要』10　東北歴史博物館

牡鹿町教育委員会 1984「牡鹿町文化財だより　第７号」

牡鹿町教育委員会 1991「牡鹿町文化財だより　第 13 号」

女川町教育委員会 1993「尾田峰貝塚」女川町文化財調査報告書第１集

女川町教育委員会 2001「女川町の板碑」女川町文化財調査報告書第２集

女川町教育委員会 2017a「内山遺跡－女川町東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告書Ⅰ－」女川町文化財調査報告書第６集

女川町教育委員会 2017b「松葉板碑群ほか」女川町文化財調査報告書第８集

女川町誌編纂委員会 1981「女川町誌」

女川町誌編纂委員会 1991「女川町誌　続編」

小牛田農林高等学校郷土研究班・宮城県女川町 1964「出島遺跡　調査報告書第一輯」

小牛田農林高等学校郷土研究班 1970「出島山下貝塚－宮城県牡鹿郡女川町出島－第三次調査概況報告書」

紫桃正隆 1973「史料　仙台領内古城・館　第二巻」仙台宝文堂 pp.913 ～ 924

東北歴史資料館 1989「宮城県の貝塚」東北歴史資料館資料集 25

藤沼邦彦・小井川和夫ほか 1981「日本城郭体系３　宮城県」新人物往来社

藤沼邦彦・神宮寺千恵 1992「宮城県における一括出土の渡来銭－女川町御前浜出土の古銭を中心にして－」『東北歴史資料館研究紀要』第 18 巻　東北歴史資料館

文化庁文化財部記念物課 2017「東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護の取組（報告）－行政対応編－」

三宅宗議 1973「第二編　古代」『矢本町史』

邊見鞆高 1971「出島山下貝塚－宮城県牡鹿郡女川町－第二次調査概況報告書」

邊見鞆高 1972「出島山下貝塚－宮城県牡鹿郡女川町出島－第三次調査概況報告書」

邊見鞆高 1973「出島山下貝塚－宮城県牡鹿郡女川町出島字寺間－第四次調査概況報告書」南三陸先史文化研究会

宮城県教育委員会 1990「大貫館山館跡ほか」宮城県文化財調査報告書第 137 集

宮城県教育委員会 1992「下草古城跡ほか」宮城県文化財調査報告書第 146 集

宮城県教育委員会 1993「下草古城跡ほか」宮城県文化財調査報告書第 154 集

宮城県教育委員会 2005「壇の越遺跡ほか」宮城県文化財調査報告書第 202 集

宮城県教育委員会 2008「東山官衙遺跡周辺地区ほか」宮城県文化財調査報告書第 208 集
宮城県教育委員会 2011「羽場遺跡ほか」宮城県文化財調査報告書第 228 集
宮城県教育委員会 2014「平成 24 年度東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告書Ⅰ」宮城県文化財調査報告書第 233 集
宮城県教育委員会 2015「平成 25 年度東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告書Ⅱ」宮城県文化財調査報告書第 236 集
宮城県教育委員会 2016「平成 26 年度東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告書Ⅲ」宮城県文化財調査報告書第 240 集
宮城県教育委員会 2017a「東日本大震災による被災文化財等の復旧・復興の記録（中間報告）」
宮城県教育委員会 2017b「宮城県の文化財　天然記念物編」
矢本町教育委員会・宮城県石巻土木事務所 2001「赤井遺跡－牡鹿柵・郡家推定地－　県道石巻鹿島台大衡線上区改良工事に伴う調査報告－」矢本町文化財調査報告第 14 集

報告書抄録

ふりがな	おながわちょうひがしにほんだいしんさいふっこうじぎょうかんれんいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	女川町東日本大震災復興事業関連遺跡発掘調査報告書
副書名	平成 26 ～ 30 年度発掘調査
巻次	
シリーズ名	女川町文化財調査報告書
シリーズ番号	第 10 集
編著者名	齋藤和機（編）・古田和誠
編集機関	女川町教育委員会
所在地	〒 986-2265　宮城県牡鹿郡女川町女川一丁目 1 － 1　　TEL：0225-54-3131
発行年月日	西暦 2020 年（令和 2 年）10 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	世界測地系 北緯	世界測地系 東経	調査期間	対象面積(㎡) 調査面積(㎡)	調査原因
みやがさきBいせき 宮ヶ崎 B 遺跡	おしかぐんおながわちょうみやがさきあざみやがさき 牡鹿郡女川町宮ヶ崎字宮ヶ崎	04581	73054	38 度 26 分 53 秒	141 度 27 分 16 秒	2014.6 6.20, 2016.9.17，12.6	930 218	個人住宅（復興）， 防災集団移転促進事業
このりはまAいせき 小乗浜 A 遺跡	おしかぐんおながわちょうこのりはまあざむかい 牡鹿郡女川町小乗浜字向	04581	73022	38 度 26 分 11 秒	141 度 27 分 11 秒	2014.2.16 ～ 17, 2018.5.8	10000 196	被災市街地復興土地区画整理事業（小乗浜地区）
ひわらびCいせき 日蕨 C 遺跡	おしかぐんおながわちょうおながわはまあざひわらび 牡鹿郡女川町女川浜字日蕨， しみずちょう 清水町	04581	73049	38 度 27 分 19 秒	141 度 26 分 37 秒	2015.6.1	8700 75	被災市街地復興土地区画整理事業（清水・日蕨地区）
きりがさきいせき 桐ヶ崎遺跡	おしかぐんおながわちょうきりがさきあざきりがさき 牡鹿郡女川町桐ヶ崎字桐ヶ崎	04581	73060	38 度 26 分 28 秒	141 度 28 分 44 秒	2016.4.20，7.1， 8.2，8.20	9000 200	漁業集落防災機能強化事業
さきやまいせき 崎山遺跡	おしかぐんおながわちょういしはまあざさきやま 牡鹿郡女川町石浜字崎山	04581	73015	38 度 26 分 46 秒	141 度 27 分 41 秒	2016.9.7	240 12	漁港海岸保全施設整備事業 （防潮堤建設）
たのしまいせき 田の島遺跡	おしかぐんおながわちょうおんまえはまあざおんまえ 牡鹿郡女川町御前浜字御前	04581	73009	38 度 27 分 56 秒	141 度 28 分 26 秒	2017.3.28	600 80	漁業集落防災機能強化事業
いいごはまいせき 飯子浜遺跡	おしかぐんおながわちょういいごはまあざいいご 牡鹿郡女川町飯子浜字飯子	04581	73050	38 度 23 分 49 秒	141 度 28 分 57 秒	2017.5.8, 2018.3.20	17814 105	飯子浜復興道路工事, 漁業集落防災機能強化事業
おうらかいづか 尾浦貝塚	おしかぐんおながわちょうおうらあざおうら 牡鹿郡女川町尾浦字尾浦	04581	73002	38 度 27 分 16 秒	141 度 29 分 34 秒	2017.5.18，22 2018.6.12	5619 512	漁業集落防災機能強化事業
たかしろはまいせき 高白浜遺跡	おしかぐんおながわちょうたかしろはまあざたかしろ 牡鹿郡女川町高白浜字高白	04581	73046	38 度 25 分 27 秒	141 度 27 分 42 秒	2017.5.22, 6.15，8.19	3498 108	高白浜復興道路工事, 漁業集落防災機能強化事業
よこうらAいせき 横浦 A 遺跡	おしかぐんおながわちょうよこうらあざよこうら 牡鹿郡女川町横浦字横浦	04581	73048	38 度 24 分 28 秒	141 度 28 分 5 秒	2018.6.14	486 61	漁業集落防災機能強化事業
よこうらBいせき 横浦 B 遺跡	おしかぐんおながわちょうよこうらあざよこうら 牡鹿郡女川町横浦字横浦	04581	73047	38 度 24 分 22 秒	141 度 28 分 5 秒	2017.6.7	4212 73	漁業集落防災機能強化事業
このりはまBいせき 小乗浜 B 遺跡	おしかぐんおながわちょうこのりはまあざむかい 牡鹿郡女川町小乗浜字向	04581	73021	38 度 26 分 13 秒	141 度 27 分 19 秒	2017.6.8	2879 34	被災市街地復興土地区画整理事業（小乗浜地区）
ののはまBいせき 野々浜 B 遺跡	おしかぐんおながわちょうののはまあざののはま 牡鹿郡女川町野々浜字野々浜	04581	73055	38 度 23 分 27 秒	141 度 28 分 2 秒	2018.1.25	5193 300	漁業集落防災機能強化事業
ののはまいせき 野々浜遺跡	おしかぐんおながわちょうののはまあざののはま 牡鹿郡女川町野々浜字野々浜	04581	73045	38 度 23 分 32 秒	141 度 28 分 3 秒	2018.5.10	665 115	漁業集落防災機能強化事業
あらいたかいづか 荒井田貝塚	おしかぐんおながわちょうおんまえはまあざあらいた 牡鹿郡女川町御前浜字荒井田	04581	73011	38 度 46 分 45 秒	141 度 47 分 33 秒	2014.7.28 ～ 8.18	580 260	防災集団移転促進事業 （御前浜地区）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮ヶ崎 B 遺跡	散布地	弥生・古代	なし	なし	
小乗浜 A 遺跡	散布地	縄文	なし	なし	
日蕨 C 遺跡	散布地	奈良・平安	なし	なし	
桐ヶ崎遺跡	散布地	縄文	なし	縄文土器	トレンチか縄文土器 2 片（時期不明）が出土した。
崎山遺跡	集落跡	縄文前・後・奈良	なし	なし	
田の島遺跡	散布地	縄文前・後・平安	なし	縄文土器（中～後期）	トレンチから縄文時代中・後期とみられる土器 10 片が出土した。
飯子浜遺跡	散布地	平安	なし	なし	
尾浦貝塚	貝塚・散布地	縄文前～後・古代	遺物包含層（大木 5 以降），貝層（大木 2 a）	縄文土器（大木 2 a ･5），動物遺存体（カキ･マグロ･ニホンジカ）	遺跡北東側で縄文時代前期の遺物包含層（大木 5 以降）と，貝層（大木 2 a）を確認した。貝層はカキを主体とし，マグロやニホンジカなど動物遺存体が含まれる。
高白浜遺跡	散布地	縄文前・後・古代	なし	なし	
横浦 A 遺跡	散布地	平安	なし	なし	
横浦 B 遺跡	散布地	縄文中・古代	なし	なし	
小乗浜 B 遺跡	散布地	縄文	なし	なし	
野々浜 B 遺跡	散布地	縄文前～晩・弥生	なし	なし	
野々浜遺跡	散布地	縄文前･中･晩･弥生	遺物包含層（大木 2･9･10･ 南境）	縄文土器（大木 2･9･10･ 南境），石器・石製品	遺跡北側で縄文時代中期後葉から後期前葉の遺物包含層を確認し，縄文土器と石器・石製品が出土した。堆積状況から包含層の北西側に居住域が想定される。
荒井田貝塚	貝塚	縄文早・前・古代	遺物包含層	縄文土器	遺跡南側の水路部の調査で，縄文時代早期末～前期初頭の縄文土器・石器，古代の須恵器が出土した。

要約

東日本大震災からの復興事業に係わる発掘調査のうち，平成 26 年度から平成 30 年度までの成果をまとめた発掘調査報告書である。調査・掲載した遺跡は 15 遺跡であり，このうち，尾浦貝塚・野々浜遺跡・荒井田貝塚では遺構・遺物を確認し，桐ヶ崎遺跡・田の島遺跡では縄文土器片，荒井田貝塚では縄文土器片と古代の須恵器片が出土した。

女川町文化財調査報告書第 10 集
女川町東日本大震災復興事業関連遺跡発掘調査報告書
― 平成 26 ～ 30 年度発掘調査 ―
令和２年 10 月 28 日印刷
令和２年 10 月 30 日発行

発行　女川町教育委員会
〒 986-2265　宮城県牡鹿郡女川町女川一丁目１－１
印刷　株式会社鈴木印刷所
石巻市蛇田字新谷地前 121　　ＴＥＬ：0225－22－4101

文化財保護，教育普及ならびに学術研究目的に限り，著作権者の承諾なく本書の一部を複製して利用できます。但し，利用にあたっては出典の明記が必要となります。
写真等の借用にあたっては，女川町教育委員会に連絡し，必要な手続きをとって下さい。

本書は長期保存のため，全て中性紙を使用しています。
(紙質) 表紙：コート 180kg（PP 貼加工）/ 見返し：色上質紙 空色 特厚口 / 本文：アート紙 110kg